

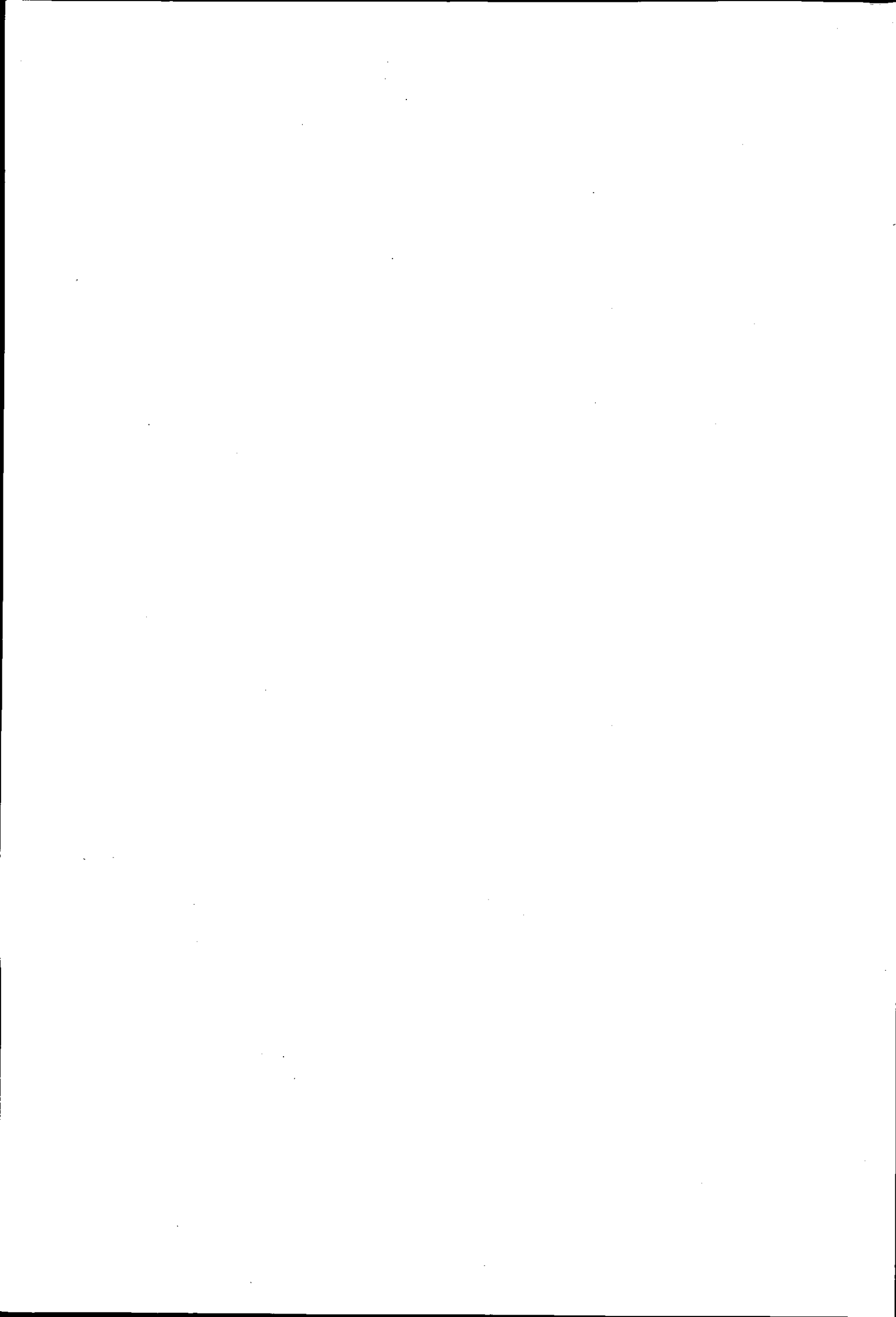
データベース構築促進及び技術開発に関する報告書

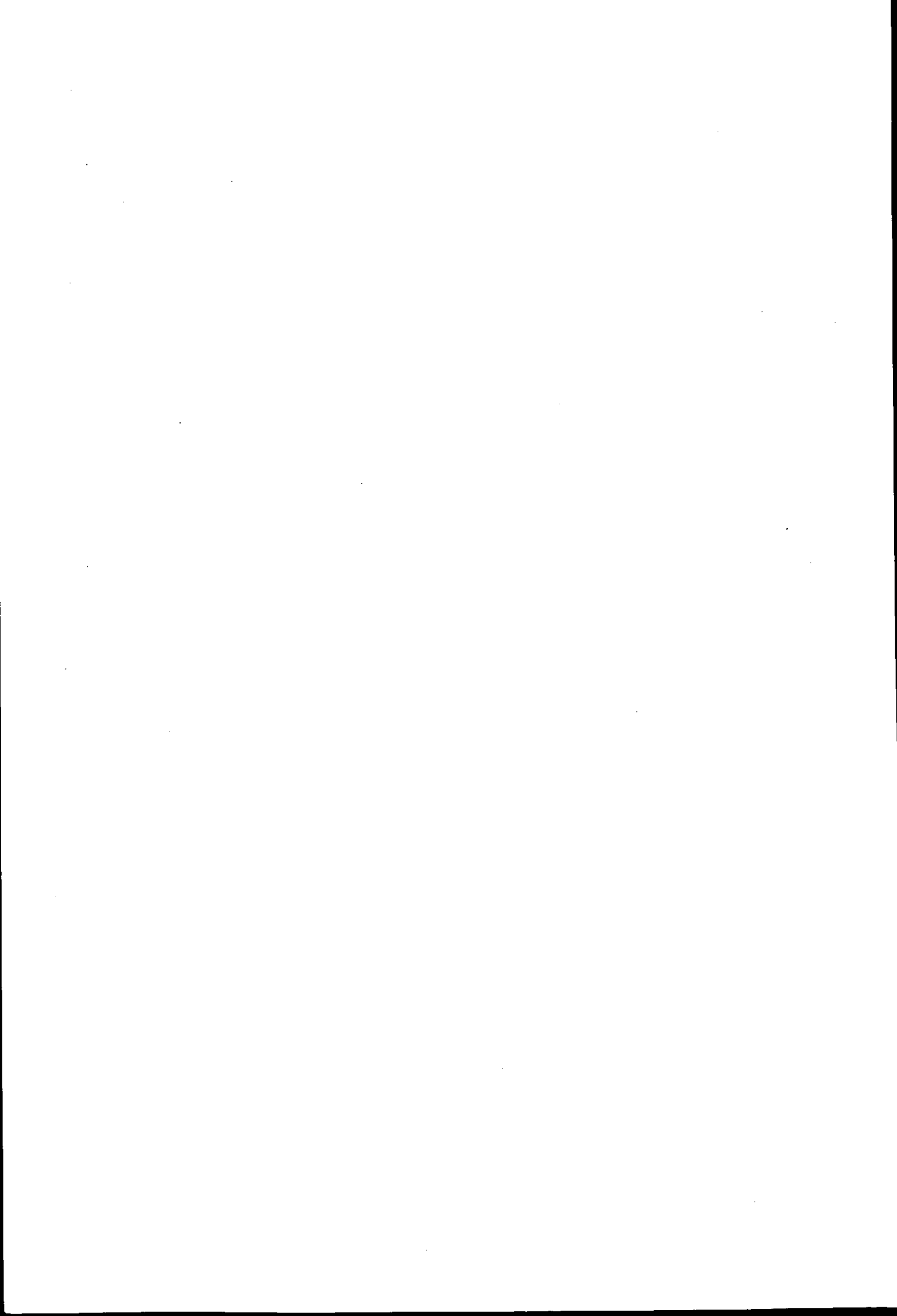
# 楽器データベースの構築

平成5年3月

財団法人 データベース振興センター  
委託先 株式会社 ダイソメディアサービス

本事業は、日本自転車振興会から競輪収益の一部である機械工業振興資金の補助を受けて作成したものである。





## 序

データベースは、わが国の情報化の進展上、重要な役割を果たすものと期待されている。今後、データベースの普及により、わが国において健全な高度情報化社会の形成が期待される。さらに海外に対して提供可能なデータベースの整備は、国際的な情報化への貢献および自由な情報流通の確保の観点からも必要である。しかしながら、現在わが国で流通しているデータベースの中でわが国独自のものは1/3にすぎないのが現状であり、わが国データベースサービスひいてはバランスある情報産業の健全な発展を図るためには、わが国独自のデータベースの構築およびデータベース関連技術の研究開発を強力に促進し、データベースの拡充を図る必要がある。

このような要請に応えるため、(財)データベース振興センターでは日本自転車振興会から機械工業振興資金の交付を受けて、データベースの構築および技術開発について民間企業、団体等に対して委託事業を実施している。委託事業の内容は、社会的、経済的、国際的に重要で、また地域および産業の発展の促進に寄与すると考えられているデータベースの構築とデータベース作成の効率化、流通の促進、利用の円滑化・容易化などに関係したソフトウェア技術・ハードウェア技術である。

本事業の推進に当って、当財団に学識経験者の方々に構成されるデータベース構築・技術開発促進委員会(委員長 山梨学院大学教授 蓼沼良一氏)を設置している。

この「楽器データベースの構築」は平成4年度のデータベースの構築促進および技術開発促進事業として、当財団が(株)ダイソメディアサービスに対して委託実施した課題の一つである。この成果が、データベースに興味をお持ちの方々や諸分野の皆様方のお役に立てば幸いである。

なお、平成4年度データベースの構築促進および技術開発促進事業で実施した課題は次表のとおりである。

平成 5 年 3 月

財団法人 データベース振興センター

平成4年度 データベース構築・技術開発促進委託課題一覧

分野	課題名	委託先
社 会	1 変異タンパク質配列データベースの構築	日本電子計算(株)
	2 新聞縮刷版見出しデータベースの構築	(株)朝日新聞社
	3 ファジィに関する文献データベースの構築	(財)日本情報処理開発協会
	4 医療用医薬品抗生物質データベースの構築	(株)小田島
	5 交通事故調査データベースの構築	(財)日本自動車研究所
	6 楽器データベースの構築	(株)ダイソメディアサービス
	7 人体計測データベースの構築	(社)人間生活工学研究センター
	8 大学におけるデータベース利用教育システムのプロトタイプ作成	日外アソシエーツ(株)
	9 先進複合材料データベースの構築	(財)次世代金属・複合材料研究開発協会
	10 博物館所蔵地図資料所在情報データベースの構築調査	(財)地図情報センター
中小企業振興 地域活性化	11 地域流通最適化データベースのプロトタイプ作成	(社)日本ボランティア・チェーン協会
	12 異分野研究のための知的オリエンテーション・データベースシステムのプロトタイプ作成	(株)けいはんな
	13 在宅勤務者サポート・データベースの構築調査	(株)志木サテライトオフィス・ビジネスセンター
海 外	14 銅基複合材料日本特許英文データベースの構築	神鋼リサーチ(株)
	15 技術協力供与機材データベースのプロトタイプ作成	(財)日本国際協力システム
	16 先端産業分野における専門用語の電子辞書データベース化の調査研究	科学技術情報研究所(株)
	17 マーケティングコードの英文データベースの構築	(株)帝国データバンク
技 術	18 安全研究における多重ソース・システム構築のための基本安全用語データベースの開発	(株)紀伊國屋書店
	19 3次元マッピングデータベースの技術開発	(株)日本総合技術研究所
	20 データベース検索サポートシステムの調査研究	セントラル開発(株)情報図書館 RUKIT
	21 グループウェアにおけるデータベースシステムに関する調査研究	(株)イフ・アドバタイジング
	22 パーソナルコンピュータとLANの利用による非定形データベースのプロトタイプ作成	(株)メイテック
	23 知的資源型データベースの調査研究	(株)ジャパンコミュニケーションズ インスティテュート

# 目 次

1. 概 要 .....	1
1.1. 目的 .....	1
1.2. データベース構築体制 .....	2
1.3. 実施概要 .....	2
1.4. 楽器データベース専門技術会議（講演及び指導）の実施 .....	3
2. 実施内容 .....	5
2.1. 出典別楽器データの入力 .....	5
2.2. 出典別楽器データの総合化 .....	6
2.2.1. 出典別データの編集 .....	6
2.2.2. 整理用データベース（総合化ファイル）の作成 .....	7
2.3. 登録用テキストファイルの作成 .....	12
2.3.1. 整理用データベースのデータの整理 .....	12
2.3.2. 基礎データのカード出力 .....	12
2.3.3. データの編集・作成 .....	12
2.4. 楽器データベースへの登録 .....	14
2.5. 図像資料の試験登録 .....	14
3. データの作成基準 .....	16
3.1. 全般的事項 .....	16
3.1.1. データの各部分の名称 .....	16
3.1.2. データ項目 .....	16
3.1.3. データ作成の基本原則 .....	16
3.1.4. 楽器名称の種類とデータとの関係 .....	17
3.1.5. 楽器名称の関係の表示 .....	17
(1)前提事項 .....	17
(2)各データにおいて他の楽器名称との関係を表示する手段 .....	18
(3)データにおける〈をも見よ形〉参照の表示形式 .....	18
(4)楽器名称の関係の表示基準（関係のパターン別） .....	18
3.1.6. 文字、カナ表記 .....	22
3.2. 楽器名、漢字形、欧語形、別称 .....	23
(1)各種の楽器名称の表示方法 .....	23
(2)楽器名称の個別化 .....	25
(3)楽器名称に対する付加的説明 .....	25
(4)「楽器名」等の表示における注意事項 .....	26
3.2.1. 楽器名 .....	26
3.2.2. 漢字形 .....	26
3.2.3. 欧語形 .....	26
3.2.4. 別称 .....	26
3.3. 解説、地域・民族・時代、材質・素材、用途 .....	27
3.3.1. 全般的基準 .....	27
3.3.2. 解説（「解説」作成基準） .....	27
(1)全般的事項 .....	27
(2)言葉の使用 .....	27
(3)文章 .....	28
(4)内容の選択 .....	29
3.3.3. 地域・民族・時代 .....	29
3.3.4. 材質・素材 .....	30
3.3.5. 用途 .....	30

3.4.	備考	30
3.5.	HS番号、AVMC番号	30
3.5.1.	全般的事項	30
	(1)表示形式	30
	(2)分類付与方針	31
3.5.2.	HS番号	31
	(1)分類表	31
	(2)分類付与方針	31
3.5.3.	AVMC番号	31
3.6.	記載資料	31
3.6.1.	記録する対象	31
3.6.2.	記録の位置	32
3.6.3.	各資料の記録の形式	32
3.6.4.	記録する順序	32
4.	データの表題および索引の登録基準	33
5.	システム構成	34
5.1.	機器構成	34
5.2.	ソフトウェア構成	34
6.	データベースの機能	34
6.1.	使用するデータベース・ソフト	34
6.2.	検索機能	35
6.2.1.	検索の手順	35
6.2.2.	検索方法	35
6.2.3.	論理演算	36
6.2.4.	楽器データベースの検索例	36
6.3.	登録機能	39
6.3.1.	データのテキストファイルの読み込み	39
6.3.2.	読み込んだデータの表題と索引の入力	39
6.3.3.	データの登録	39
7.	データベースの評価と今後の課題	41
7.1.	データベースの評価	41
7.2.	今後の課題	42
	参考文献	43

《資料》

資料1	ホルンボステル=ザックス楽器分類表	
	主網表	44
	要目表	44
	細目表	46
資料2	AV/MARC分類表(楽器分類に関係する部分のみの抜粋)	78
資料3	音標符号付ローマ字/特殊アルファベット仮表示付加コード表	100



## 1. 概要

### 1. 1. 目的

この数十年の間に、我々が接する音楽は地域的および時代的に拡大する傾向を見せてきた。民族音楽学の調査、研究の進展と共に世界各地の民族音楽が紹介され、一般にも民族音楽のCDやビデオテープ等が数多く流通し、それを専門家ではない人達までもが聞いて楽しむようになった。また、民族音楽に興味を示す現代作曲家も多く、その影響の色濃い音楽作品も生み出されている。ポピュラー音楽の世界では昔から民族音楽の要素を取り入れたジャンルを次々と生み出してきたが、1980年代からは民族音楽をいっそう積極的に取り入れたポップスの総称である「ワールドミュージック」が隆盛し今日に至っている。

時代的な拡大の傾向も顕著である。西欧芸術音楽においては1960年代後半から中世、ルネサンス、バロック等の音楽を新しい観点で再現する動きが起こった。それ以前にもそうした古い時代の音楽の演奏は行われていたが、多分に学問的な興味に支えられた演奏という傾向が顕著だった。それに対して、これは古い時代の音楽を当時の楽器と演奏習慣をふまえた上で生きた音楽演奏として再現しようとする動きで、専門家だけでなく一般にもこうした音楽の愛好者が非常に増加した。また、これ以降、古い時代の音楽の演奏においては、当時のオリジナル楽器を用いるのが一般的になり、古楽器の復興が盛んに行われるようになった。これと似た動きは日本の雅楽においても見られ、古代の楽器を復元することによって、長らく演奏されることのなかった古曲を再現するという試みが行われている。

研究され、演奏され、耳にする音楽が地域的、時代的に拡大するにつれて、おびただしい種類の民族楽器や古楽器、およびそれを扱った資料と接する機会が増えてきた。音楽や文化人類学の研究者、学生はもちろん、音楽資料や楽器に関する資料を扱う図書館および博物館、教師、マスコミ関係者等々、更には一般の音楽愛好者にとっても、楽器に関する情報の必要性は高くなってきた。

ところが、楽器の情報には混乱が生じやすく、この分野特有の入り組み方をしている場合が多い。同一ないしは同様の楽器が民族や国、時代によって様々な名称で呼ばれ、逆に、同一の名称が複数の異なる楽器に用いられ、時代によって別の楽器を指すことも少なくないからである。別称の多いことも混乱を助長する。また、民族楽器の場合には演奏者がその時の条件や目的に合わせて楽器を作ることが多いため個体差が大きく、楽器の類別や定義に混乱が生じることも珍しくない。

楽器データベースはそうした状況と事情をふまえ、様々な楽器に関する情報を整理し、それをできるだけ調べやすく、わかりやすい形で提供することを目的として計画された。そのために、次の2つの基本方針を設定しデータベースの構築作業を行うこととした。

(1) 楽器に関する総合的な情報ではなく、簡潔でその場で役立つ情報を次の2とおりの手段によって提供する。

- ・楽器の特徴、イメージが手短につかめる解説
- ・専門家用および図書館用の楽器分類番号

- (2) さらに詳しい情報のありかを調べるための二次資料としての機能をもたせる。そのために、まず出典別の楽器情報を収集し、それに基づいてデータを作成し、そこに出典と記載ページを表示する。

### 1. 2. データベース構築体制

データベースの構築は次のメンバーにより行った。

役 割		氏 名	所属団体または会社名 役職
技術顧問・総合指導		岸本 宏子	東京芸術大学講師 電気通信大学講師 (株)ダイソメディアサービス 顧問
技 術 指 導 者		草野 妙子	埼玉大学講師 桐朋学園大学音楽学部講師
		樋口 昭	埼玉大学助教授 東京芸術大学講師
ワーキング グループ	リーダー	細田 勉	(株)ダイソメディアサービス 研究所副所長
	メンバー	田島みどり	立正大学教養部非常勤講師
佐竹 悦子		(株)講談社第一出版センター編集部	
		他に音楽学の専門家および専攻者数名	

### 1. 3. 実施概要

楽器データベース仕様の設計

楽器データベースのデータ作成・登録

出典別楽器データの入力

出典別楽器データの総合化

データベース登録用のテキストファイルの作成

楽器データベースへの登録

図像資料の試験登録

作業用マニュアルの作成・整備

#### 1. 4. 楽器データベース専門技術会議（講演及び指導）の実施

データベースのデータ作成上の基本的な方法論、および高度な具体的問題を音楽学、楽器学の専門家に講演、指導していただくための「楽器データベース専門技術会議（講演及び指導）」を下記のとおり実施した。

##### 第1回 12月17日

- ・世界の楽器と楽器データの特徴について（講師： 草野 妙子）
- ・楽器分類法の歴史（講師： 樋口 昭）
- ・質疑応答

##### 第2回 1月20日

- ・ホルンボステル=ザックス楽器分類法について（講師： 樋口 昭）
- ・質疑応答

##### 第3回 1月28日

- ・電鳴楽器と分類（講師： 樋口 昭）
- ・質疑応答

##### 第4回 2月 5日

- ・世界の体鳴楽器と分類（講師： 草野 妙子）
- ・日本の体鳴楽器と分類（講師： 樋口 昭）
- ・質疑応答

##### 第5回 2月10日

- ・世界の膜鳴楽器と分類（講師： 草野 妙子）
- ・日本の膜鳴楽器と分類（講師： 樋口 昭）
- ・質疑応答

##### 第6回 2月15日

- ・世界の気鳴楽器と分類（講師： 草野 妙子）
- ・日本の気鳴楽器と分類（講師： 樋口 昭）
- ・質疑応答

##### 第7回 2月23日

- ・世界の弦楽器と分類（講師： 草野 妙子）
- ・日本の弦鳴楽器と分類（講師： 樋口 昭）
- ・質疑応答

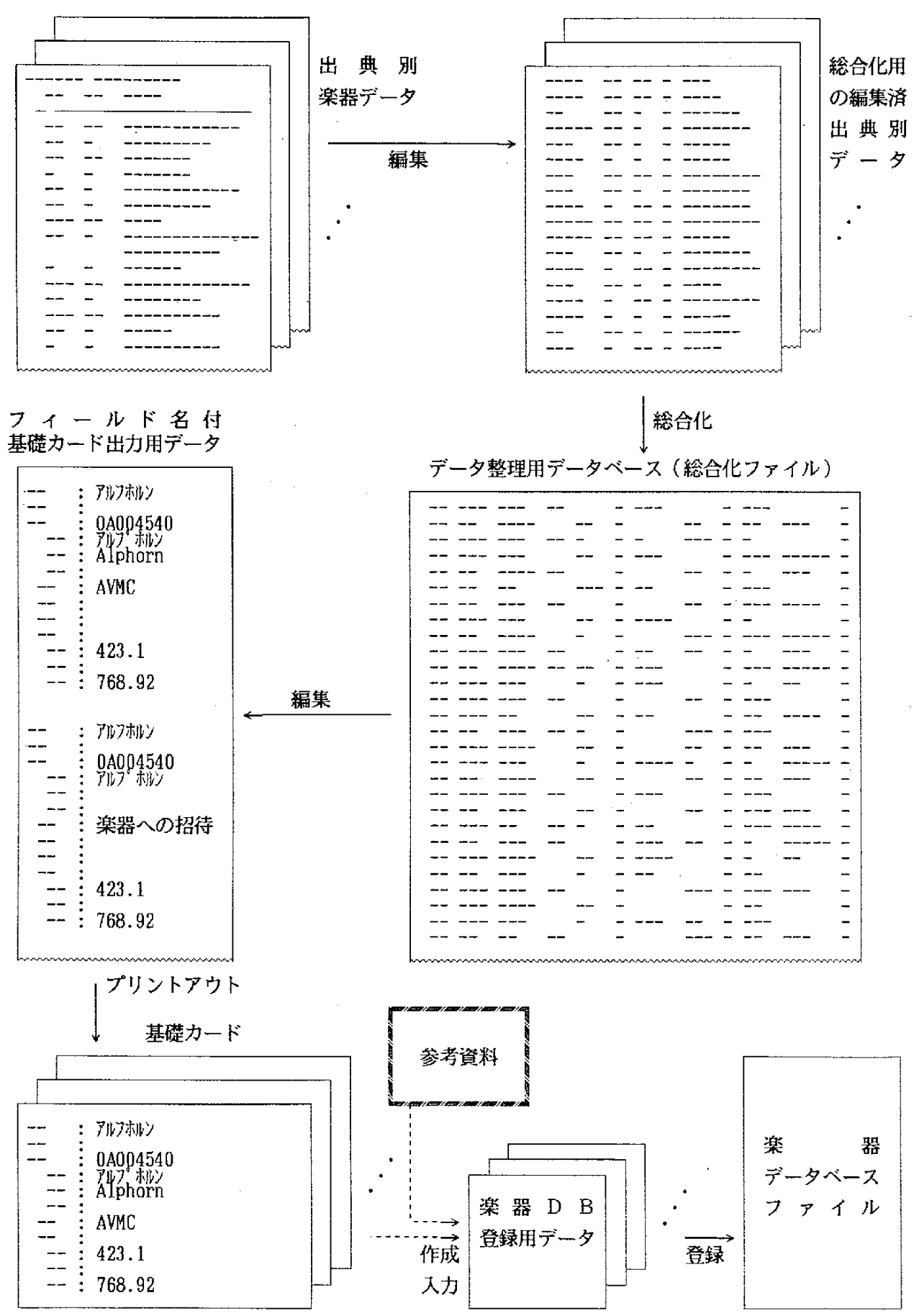


図 2-1 楽器データベースの構築手順

## 2. 実施内容

今回の楽器データベース構築のデータ入力においては、データを紙に記入し入力するのではなく、直接パソコンに入力しそれを加工するという方法を用いた。このデータベースに二次資料としての機能をもたせるために、第一段階として楽器名等のデータを出典別に収集、入力する作業から開始した。次に、その出典別データを総合化し、さらに編集し、基礎カードを出力した。最終段階として、基礎カードを基に、やはりパソコンに直接入力する方法により最終的な楽器データベースのデータを作成した。その詳細を以下に順を追って示す。また、図2-1は構築の手順と各段階の状態をイメージ化したものである。

### 2. 1. 出典別楽器データの入力

このデータベースの目的の一つとして楽器に関する二次情報、つまりある楽器の情報が記載されている資料についての情報を提供することがある。そのため、まず最初に楽器についての基礎資料、すなわち現在市販されている日本語の文献と英語の代表的な文献、および楽器分類表を対象に、出典別楽器データの収集・入力作業を行った。

可能な限り広範な楽器の名称を網羅的に収集するように心がけ、文献は包括的ないしは体系的な資料を中心とし、さらに種々の分野の資料も加えるように努めた。楽器分類表としては研究者用の合理的なものと同書館用の実用的なものを選択した。

結果として、次の19文献および2種の分類表を出典別楽器データの対象とした。

#### ◆文献

- ①大阪音楽大学附属楽器博物館目録 豊中：大阪音楽大学，1984
- ②音楽大事典 東京：平凡社，1981-1983
- ③楽器資料集 IV～X 東京：国立音楽大学楽器学資料館，1984-1992
- ④楽器の博物誌 東京：朝日新聞社，1986
- ⑤黒沢隆朝著 図解世界楽器大事典 東京：雄山閣，1972
- ⑥郡司すみ著 世界楽器入門 東京：朝日新聞社，1989
- ⑦佐竹悦子編 中南米の楽器 (非売品)
- ⑧柴田南雄著 楽器への招待 東京：新潮社，1983
- ⑨ソング・レコードの楽器と芸能具展 楽器 東京：国立劇場，1989
- ⑩ダ・イヤグラムグループ編 楽器 東京：マル社，1992
- ⑪東京芸術大学音楽学部小泉文夫記念資料室所蔵楽器目録 東京：芸術研究振興財団，1987
- ⑫日本音楽大事典 東京：平凡社，1989
- ⑬マソウ著 柿木吾郎訳 中世・ルネサンスの楽器 東京：音楽之友社，1979
- ⑭民族音楽大集成 解説書 東京：キングレコード，1981
- ⑮ソクテイ著 龍村あや子訳 アフリカの音楽 東京：晶文社，1989
- ⑯Collection of Musical Instruments. Tokyo: Kunitachi College of Music Research Institute, 1986
- ⑰Marcuse, Sibyl. Musical Instruments: A Comprehensive Dictionary. New York: W.W. Norton, 1975
- ⑱New Grove Dictionary of Music and Musicians, Appendix A. London: Macmillan, 1980

◆楽器分類表

(a)ホルボーストル、ザックス著 岸辺成雄訳・増補 楽器分類表 (平凡社 音楽大事典第2巻「楽器学」より)

(b)AV/MARC分類表 東京:ダイメディアサービス, 1990 (非売品)

作業は、各々の資料を調査しそこに掲載されている楽器名とそれに関する情報を抽出し入力するという方法により行われた。楽器名は資料により日本語であったり、欧文であったり、または両者が併記されていたりまちまちである。また、同一言語の中でも種々の綴りが存在する。楽器に関する情報も資料ごとにその精度や情報の種類が相違する。(資料間で内容に矛盾がある場合も少なくない。)しかし、二次情報の基礎データとして用いる情報は、原典にあるそのままの形で収集されなければならない。その点および作業の円滑さを考慮し、第一段階としての出典別楽器データは各々の資料の特性に合わせた形式で入力した。また、一部の資料は後の総合化のための編集作業を容易にするために、一覧表の形式で入力した。

収集・入力した出典別楽器データのうちのいくつかの実例を図 2-2、2-3 に示す。

## 2. 2. 出典別楽器データの総合化

### 2. 2. 1. 出典別データの編集

次に、出典別楽器データを総合化するための準備作業として、各出典のデータを共通のデータベース・ソフトに読み込むためのフィールド(項目)分けを行った。それぞれ資料の特性に合わせた形式で入力されている出典別楽器データを基にし、その内容を次のようなフィールドに類別し、一覧表の形に編集した。なお、楽器名の意味や語源等についての情報は、整理用データベースでは取り扱わない方針であるため、たとえ入力されていても、これ以後の段階のデータからは除外された。

- ・ 楽器名
- ・ 異称
- ・ HS 項目、AVMC 項目 (いずれも楽器分類表の場合)
- ・ 楽器のタイプ・属を示す名称
- ・ 民族・地域・時代
- ・ 用途
- ・ 備考
- ・ 記載箇所 (番号/頁)
- ・ HS 番号、AVMC 番号 (いずれも楽器分類表の場合)
- ・ 参照楽器名

フィールド分けにおいて情報が長すぎる場合には、略語の使用、および数詞のアラビア数字化、重要性の低い部分の削除等の手段により、各項目をフィールドの制限文字数の範囲内に縮小させた。タイプ名については、同類の楽器をまとめて配列する目的で使用するため、修飾語が前にある場合にはその多くを倒置形に変更した。(例: small kettledrum → kettledrum, small)

編集済の出典別データの一例を図2-3に示す。

また、この段階で、次の総合化用フィールドを追加した。

- ◇レコードの配列のために用いるフィールド
  - ・カナsort (楽器名のカナの配列形)
  - ・アルファベットsort (楽器名の小文字アルファベットの配列形)
  - ・統一名sort
- ◇レコードの特定化のためのコード
  - ・アイテムcode
- ◇情報の出典を示すフィールド
  - ・コレクション名
- ◇楽器分類番号
  - ※基礎カード出力までの過程においては、整理用データベースのファイル区分、および同類の楽器のレコードをまとめるために使用された(ただし、この段階では大まかな観点で付与された)
  - ・HS番号 (ホルンボステル=ザックス楽器分類番号)
  - ・AVMC番号 (AV/MARC分類番号)

## 2.2.2. 整理用データベース(総合化ファイル)の作成

前述のとおり、出典別楽器データの情報の種類は資料によって相違するため、それを統合するための整理用データベース(総合化ファイル)は、各々の出典別データの項目を網羅したフィールドを必要とする。さらに、総合化用フィールドが追加され、整理用データベースには29フィールドが設定された。

その設定のもとに、前項の編集が完了した出典別楽器データを順次読み込み、最終的に、19の文献および2種類の分類表から33,865レコードからなる整理用データベースを作成した。

整理用データベースは全出典のレコードが共通のフィールド構造をもち、中身のないフィールドが数多く存在するため、非常に容量が大きくなった。そこで、そのファイルは、総合化用に付加された「HS番号」(ホルンボステル=ザックス楽器分類番号)の1桁目に従って、次のようにファイル区分された。(ただし、0と6は整理用に仮に使用したもので、本来のHS番号ではない。)

- 0…楽器ではないが楽器として使用されるもの
- 1…体鳴楽器
- 2…膜鳴楽器
- 3…弦鳴楽器
- 4…気鳴楽器
- 5…電鳴楽器
- 6…楽器名以外のもの

表2-1は整理用データベースの構造と件数、およびその元となった編集済の出典別データの項目と件数をまとめたものである。

中世・ルネサンスの楽器 Instruments of the Middle Ages and Renaissance

デイヴィッド・マンロウ著 柿木吾郎訳 音楽之友社 1979

第1部：中世(17-86) 第2部：ルネサンス(89-221) 数字は^~^数。

索引より楽器名(太字)のみを抽出して入力する。欧文名の記載のあるものは付記する。

ア

アウロス 19, 24, 27

アルバ・ドッピア arpa doppia 179

アンジェリカ angelica 192

アンジェリク angélique 191, 193

アントラー・ホイッスル(枝角

イ

イェーガー・トロンマー Jäger

ウ

ヴァイオリン violin, violon

ヴァージナル 56, 87, 126, 139,

ヴィウエラ vihuela 202-205

ヴィエラ 64, 70, 206

ヴィエル 50, 65, 206

ヴィエル・ア・ルー vielle à

ヴィオラ viola (伊) 65, 174

ヴィオラ・ダ・ガンバ viola

ヴィオラ・ダ・ブラッチョ 10

ヴィオラ・バスタルダ viola

ヴィオリーノ 219

ヴィオル(ヴァイオル) 50, 6

--アルトゥス 208

--5弦 208

--ディヴィジョン 213-

--ディスカント descant

[以下略]

A

**Abā shaww:** EGYPT, II; ISLAMIC RELIGIOUS MUSIC, 1 iii

→ *niznār*(1), *niznār baladī*, *sybs*

**Abafin jew's harp:** PHILIPPINES, II 2 iii\*\*

**Abakua** Cuban instrument of African origin: LATIN AMERICA, III 3

**Abeng** cow-horn trumpet: JAMAICA, 2\*\*

**Abigolo xylophone:** IGBO MUSIC, 1

**Aboba, Abobas** aerophone: JEWISH MUSIC, I 4 iii

**Abu trumpet:** KENYA, 4, f.5

**Abub** aerophone: JEWISH MUSIC, I 4 iii

**Accompanimiento** Puerto Rican drum: JAMAICA, 2

**Accordion ACCORDION-:** ARGENTINA, II 3, f.2; AUSTRALIA, II 1 iii; AUSTRIA, II; BAILECTIO;

COLOMBIA, II 1; CONGOLESE MUSIC; COSTA RICA; DOMINICAN REPUBLIC, f.1; ESKIMO MUSIC;

ETHIOPIA, 4; EUROPE, I 4, II 2; FRANCE, II 2; GUATEMALA, II 1, 2; GUSLI; IRELAND, II 6,

7; ITALY, II 3 v, 5; LATIN AMERICA, II 1 ii, IV 3; LOW COUNTRIES, II 3\*, 5; MALAGASY

REPUBLIC, 4, 5, 7\*; MALTA; MENTO; MICRONESIA, 1, 2 ii; NORTH AMERICA, I 1, II 3 vi, 4 ii;

PANAMA, 1, 2; PARAGUAY, 2; POLAND, II 5; POLYNESIA, 2 i, 4 v; SCOTLAND, II 7, 10; SOUTH

-EAST ASIA, I 6; SWEDEN, II 4; SWITZERLAND, II 3; TANGO; TANZANIA, 2; TURKEY, 2 ii; UNION

OF SOVIET SOCIALIST REPUBLICS, II 2 iv, III, V 2 i, VII 2 ii, vi, IX 2 ix, x, 4 i, iii,

v, vi, XI 4, 9 iv, f.21; URUGUAY, II 2\*\*; YUGOSLAVIA, II 2 v, 3 viii, 4 iv, 5 ii; ZAMBIA,

4\*

→ *bandaneón*, *bandoneon*, *bayan*, *concertina*, *lisarmonica*, *gonbos harmónika*, *organello*,

*schwyzer Orgeli*, *Ziehharmonika*

[以下略]

図2-2 入力した出典別楽器データの実例(1)

①name/name(pl)/variants	②language	③type	④place/time/tribe/user
Qaba	Arab.	zmr	Egypt, modern
Qaba	Turk.	zurna, obs.	Turkey
Qabus	Arab.	lute, parchment-bellied	Arab.
Qachel			
Qadib	Arab.	stick, stamped	
QakeI		rattle	Ethiopia--Christian priests
Qalam	Arab.	reed/pipe	
Qalqal/qalaqil(pl)	Arab.	jingles	
Qana		horn	Ethiopia--shepherds
Qanabir(pl)			Mali, 14th-c. sultan's court
Qanbus		qabus	Hadramaut
Qand			
Qanda		drum	Ethiopia
Qanum		qanun	N. India
Qanun/qawanim(pl)	Arab.	psaltery	10th c. to present (Arab. speaking countries)
Qanun misri	Arab.	qanun	The Arabian Nights
Qaramut		garamut	Gazelle Peninsula, New Britain
Qaraqib/qarqabu		castanets, plate-shaped	N. Africa
Qarna/qurun(pl)	Arab./Pers.	nafir, a successor to	Islam during and after the 14th c.
Qarna	Aram.	horn or trumpet	ancient Babylon
Qarnai		qarna, small	
Qarnu	Akk.	horn	
Qarqabu			
Qasa'	Arab.	kettledrum, small	10th c. to present

[以下略]

図2-3 編集済の



クッペナ・ンケティア著, 龍村あや子訳: アフリカ音楽 1989 より

アフリカ用語解説

楽器名

説明

Aburukuwa アブルクワ	ガーナのアカン族で、トーキング・ドラムとして使われる小さな高い音の太鼓。
Adenkum アデンクム	ガーナのアカン族で用いられているひょうたんの地打ち筒。
Adeudeu アデウデウ	ケニアで用いられている6弦のリラ。
Akadinda アカディンダ	ウガンダで使われている22鍵の木琴。
Akasaa アカサー	アカン語で太鼓の膜面にぶらさげられる金属のラトル。
Amadinda アマディンダ	ウガンダで用いられている12鍵の木琴。
Atamo アタモ	エチオピアで使われている小さな太鼓で、手で打たれる。
Atsimewu アツイメウ	ガーナのアノ・エウェ族で用いられている長い形の太鼓。
Atumpam アトゥンパン	ガーナで言葉を打つのに使われている太鼓。[トーキング・ドラムのこと]
Bagyendanwa バギェンダンワ	ウガンダのアンコーレ族の聖なる太鼓。

Begana

Bendair

Bolon

Bumawor

Cora コ

Embilta

Endingid

Entenga

Etwie

Ganga

Ghaita

Gonje,go

Gora ゴ

[以下略]

「シロクロードの楽器と芸能具展」 図録

発行: 国立劇場 編集: 調査養成部資料課 1989.10.14

諸民族の楽器

ひきもの・はじく-琵琶のなかま-

図版

番号

楽器名

地域名

備考(長さは除く)

1	琵琶 ひが pipā	中国	4弦(絹糸), 24フレット, リュート属, 撥弦, 独奏・合奏・語り物の伴奏に使用
2	ダン・ティバ đàn tỳ bà	ヴェトナム	4弦, 19 フレット
3	ウード Ud	エジプト	5コース9弦, フレットなし, 撥弦, 西アジアの古典音楽・都会の軽音楽
4	ウード ud	トルコ	6コース, 11弦, フレットなし, 撥弦, 古典音楽
5	ルバーブ rubāb	アフガニスタン	別称ロバーブ, 巻き付け式フレット4, 旋律弦3本, ドローン弦および共鳴弦多数(10-13), 古典・民俗音楽
6	サロード sarod	インド	主要弦8本, ドローン弦2本, 共鳴弦17本(全て金属弦), フレットなし, 撥弦, 金属製の共鳴器付き, 古典音楽

[以下略]

図2-3 入力した出典別楽器データの実例 (2)

Ⓢdescription/size/material

58-60 cm. long

7 front fingerholes and a rear thumbhole and was ca. 60 cm. long

single block wood ca. 1 m. X max. 25 cm.; played with plectrum

cluster of pellet bell to be shaken

formerly hung on mules and camels

cow horn/antelope horn

gold/silver (unknown construction)

ca. 80 cm. long

trapeze or half trapeze form 10 str.(10th c.) to 64 strs.(14th c.)

joined in pairs by leather thongs, ca. 30X10 cm.

long S-shaped trumpet

Ⓢx-refs (see→; see also→; syn.=)

→→qubuz

→qake1

→qabus

→qana

→qanun

→garamut

Cf. karranay

=qaraqib

出典別データの実例

表 2-1 出典別データの項目と件数

No	資料名	ファイル名/アイテムCODE		分類関係フィールド								AUMC専用		
				LC 分類 番号	SH 分類 番号	SH 分類 項目	SH 分類 ENG	SH 分類 GER	主要 地域等	主要 楽器名	統一 楽器 名	統一 名 sort		
													ファイル 名 件数	レポート 数
	整理用データベース (総合化ファイル)	GAKKI	99-00000-0	㉔-983	33865		① 18	② 64	③ 58	④ 50	⑤ 24	⑥ 10	⑦ 30	⑧ 30
a	HS分類表	SACHS	00-00000-0	㉓-181	613		18	56	(68)	50	24	10		
b	AVMC	AUMC	00-00000-0	㉕-147	490		12	64	58	--	--	--		
c	LC分類表	LCM	00-00000-0							--				
1	大阪音楽大学附属	OOGHM	05-00000-0	㉖-622	728			--	--	--	--	--		
2	音楽大事典	HODN	16-00000-0	㉗-137	1947			--	--	--	--	--		
3	楽器資料集Ⅳ～Ⅹ 国立音楽大学	KOGSM	03-00000-0	㉘-632	431			--	--	--	--	--		
4	楽器の博物誌	GHSGB	02-00000-0	㉙-446	585			--	--	--	--	--		
5	黒沢隆朝著：図解	KUR	07-00000-0	㉚-167	1436			--	--	--	--	--		
6	郡司すみ著：世界	GSSGN	06-00000-0	㉛-192	304			--	--	--	--	--		
7	佐竹悦子編：中南	CSA	15-00000-0	㉜-496	532			--	--	--	--	--		
8	柴田南雄著：楽器	SHIBATA	09-00000-0	㉝-356	129			--	--	--	--	--		
9	シルクロードの楽器と	SRGG	11-00000-0	㉞-572	220			--	--	--	--	--		
10	ダイクワスグム編	MIW	06-00000-0	㉟-190	894			--	--	--	--	--		
11	東京芸術大学音楽	GEIDAI	01-00000-0	㊱-706	710			--	--	--	--	--		
12	日本音楽大事典	NODHABR	12-00000-0	㊲-137	312			--	--	--	--	--		
13	マロウ著：中世・14	IMAR	10-00000-0	㊳-306	701			--	--	--	--	--		
14	民族音楽大集成	MODNDX	13-00000-0	㊴-167	2012			--	--	--	--	--		
15	フティア著：アフリカの	AFRICA	14-00000-0	㊵-444	60			--	--	--	--	--		
16	Collection of	KOGSM(2)	04-00000-0	㊶-432	1619			--	--	--	--	--		
17	Marcuse	MARPT	18-00000-0	㊷-387	3369			--	--	--	--	--		
18	New Grove Dic. Appendix	NGA	17-00000-0	㊸-303	5285			--	--	--	--	--		
19	New Grove Dic. Musical Instr.	NGMI	19-00000-0	㊹-349	11488			--	--	--	--	--		

---リンクフィールド 必ず入力する

および整理用データベースの構造と件数

フィールド名/内容/レコード長

HVIC 番号	個々の資料/個々の楽器																	
	アイ4 CODE	コレクション 名	分類 1	分類 2	分類 3	番号	Xref	楽器名	漢字 形	欧語 形	別称	別称 sort	加 sort	アイ7 sort	地域 ・ 民族	材質 ・ 奏法	用途	備考
			日本語	欧語	特殊	or 頁数										=細目 (使用者の)		
20	8	18	36	50	14	108	2	32	24	34	30	14	24	32	58	116	56	36
	8	10	--	--	--	--	2	24	--	--	14	--	24	--	22	--	--	--
	8	4	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--
	8	12	30	--	--	4	2	20	18	26	20	14	14	24	58	62	38	26
	8	16	--	--	--	28	--	28	--	22	--	--	14	20	--	--	--	--
	8	16	26	28	14	12	--	22	8	26	--	--	16	24	36	6	--	36
	8	14	20	--	--	98	2	22	20	20	22	--	22	22	20	--	12	--
	8	12	--	--	--	24	--	28	--	30	10	--	24	30	--	--	--	--
	8	12	--	--	--	76	2	28	--	--	--	--	20	--	--	--	--	--
	8	16	22	--	--	20	2	32	--	28	22	--	22	28	54	22	--	--
	8	12	--	--	--	8	2	16	14	--	14	--	12	--	20	--	14	--
	8	14	36	--	--	4	2	16	18	24	22	--	12	22	32	68	46	--
	8	10	--	--	--	64	--	22	--	--	--	--	16	--	--	--	--	--
	8	14	22	50	--	4	2	22	18	26	30	--	22	22	50	116	38	36
	8	14	16	14	--	--	--	32	--	--	10	--	10	--	--	--	--	--
	8	18	--	--	--	108	2	28	4	24	20	--	16	24	--	--	--	--
	8	14	--	--	--	28	--	20	14	24	--	--	18	24	6	--	10	--
	8	6	24	--	--	--	2	22	--	18	6	--	14	20	36	48	56	--
	8	12	--	28	--	36	2	14	14	32	--	--	12	32	56	--	--	--
	8	6	--	36	--	--	--	--	--	30	30	--	--	30	58	102	56	--
	8	4	50	--	--	--	--	--	--	32	30	--	--	28	58	--	56	36 (refs)
	8	4	--	36	--	--	--	--	--	34	28	--	--	30	58	56	56 NGA	--

## 2.3. 登録用テキストファイルの作成

### 2.3.1. 整理用データベースのデータの整理

楽器データベースのデータ作成のよりどころとする基礎カードを出力するために、出典データの総合化によって構築した整理用データベースのデータの整理・編集を行った。それは以下に示す手順により行われた。

- (1) すでに大まかに付与されている楽器分類番号（「HS番号」と「AVMC番号」）を、同類の楽器を集めることが可能な程度の桁数まで精度を高めた。
- (2) データベースのデータを作成するには必要としないフィールドを削除することにより、フィールド数を29から20に絞り込んだ。
- (3) 基礎カードによるデータ作成作業を容易にするために、(2)で付与した楽器分類番号を用いておおむね近い分類番号をもつ楽器をまとめ、さらに次の方法によりレコードをグルーピングして抽出した。
  - ・ ascsort/アルファsortで配列して近いもの
  - ・ 分類2（タイプ名）で配列して近いもの
  - ・ 説明の中に同じ楽器名やタイプ名が入っているものこの段階で、データベースのデータ作成には不要なレコードは抽出から除外した。抽出されたレコードのファイルに対しては、グルーピングに用いた楽器名やタイプ名をファイル名として用いた。
- (4) レコードのデータをCSV形式から改行区切り形式に変換し、各フィールドの先頭にそのフィールド名を付加した。

### 2.3.2. 基礎データのカード出力

基礎カード出力用データからA5の大きさの基礎カード約33,500枚をプリントアウトし、それをファイル名順、ページ順に配列した。

プリントアウトした基礎カードの実例を図2-4に示す。

### 2.3.3. データの編集・作成

基礎カードを基にして、図2-5に示す書式を用いて、直接パソコンに入力する方法でデータベースのデータを作成した。データ項目のうち「楽器名」「解説」「HS番号」「AVMC番号」「記載資料」は必ず入力されているが、その他は必要に応じて記録したため、書式に用意されている項目名が必ずしも全部使用されているわけではない。基礎カードの出典名は「記載資料」として記録され、事典以外の場合にはその記載箇所（収録ページまたは収録番号）も付記された。複数の基礎カードが1データに集約されることが通例であるが、その場合には1データに出典名が複数列記された。出典別楽器データの対象としなかった資料を参考として用いた場合には、それも記載資料として記録した。

カsort	:	シク
アルファsort	:	siku
統一名sort	:	シク
ア行A CODE	:	01004880
楽器名	:	シーク
漢字形	:	×
欧語形	:	siku
別称	:	×
資料内分類	:	気鳴--パ`ンパイ`
資料内ジャンル	:	AERO- --panpipes
コレクション名	:	東芸小泉目録
該当箇所	:	443
地域・民族	:	アル、ポリビア=アヤマ
材質・素材	:	葦管 7管1列
用途	:	×
備考	:	×
SH番号	:	421.112
SH項目	:	
AVMC番号	:	768.37
AVMC項目	:	

図 2-4 基礎カードの実例

楽器名	:	
漢字形	:	
欧語形	:	
別称	:	
解説	:	
地域・民族・時代	:	
材質・素材	:	
用途	:	
備考	:	
HS番号	:	
AVMC番号	:	
LC番号	:	
[記載資料]	:	

図 2-5 楽器データベースのデータの書式

1 データを作成する単位については次の基準に従った。

◆タイプを表す名称／総称的な名称

◇通常は楽器群の単位の名称に対して作成する。

#### ◆個別楽器名

◇通常、同一種類の楽器の単位で作成される。

・同一種類の楽器に対する別称等は共通のデータに表示し、それに対して独立したデータは作成しない。

◇同一種類の楽器であるが別の側面や性格、背景をもつものが独特の名称で呼ばれる場合には、それに対して独立したデータを作成する。

「解説」の作成にあたっては、このデータベースの意図する目的から、できる限り1～2行でその楽器のイメージがわくような説明を心がけた。類似異種の楽器がある場合には相違がわかるように、より詳しい解説を行った。「解説」の作成においては、基礎カードと共に下記の資料を、この優先順序で参考として使用した。

①New Grove Dictionary of Musical Instruments. London: Macmillan, 1984

②Marcuse, Sibyl. Musical Instruments: A Comprehensive Dictionary. New York: W.W. Norton, 1975

③その他の参考資料

短い「解説」によってその楽器を表現できる場合には、「地域・民族・時代」や「材質・素材」、「用途」の項目に関する内容も「解説」の中に含めた。逆に、「解説」が長めになる場合には、その他の項目名も用いて記録した。

多数の基礎カードを集約して作成されたデータの実例を図2-5に示す。

今回の委託事業の期間内には、約3,500枚の基礎カードを処理し、約1,000件のデータを作成した。当初は、非統制楽器名データを独立したデータとして登録する予定だったが、検索機能への考慮からそれを本データに別称として表示し、そのデータの索引として登録する方法に変更したので、データの登録件数は予定よりも少なくなった。しかし、処理した基礎データの件数は計画どおりである。

作成されたデータは文書型データベース・ソフトに読み込むために、テキスト・ファイルの形式で登録された。

詳しいデータの仕様については、「3.1. データの仕様」を参照のこと。

#### 2.4. 楽器データベースへの登録

2.3.3.で作成されたテキスト・ファイルを文書データベース・ソフトに読み込み、さらに表題および索引(キーワード)の登録を行った上で、最終的に楽器データベースのデータとして登録した。

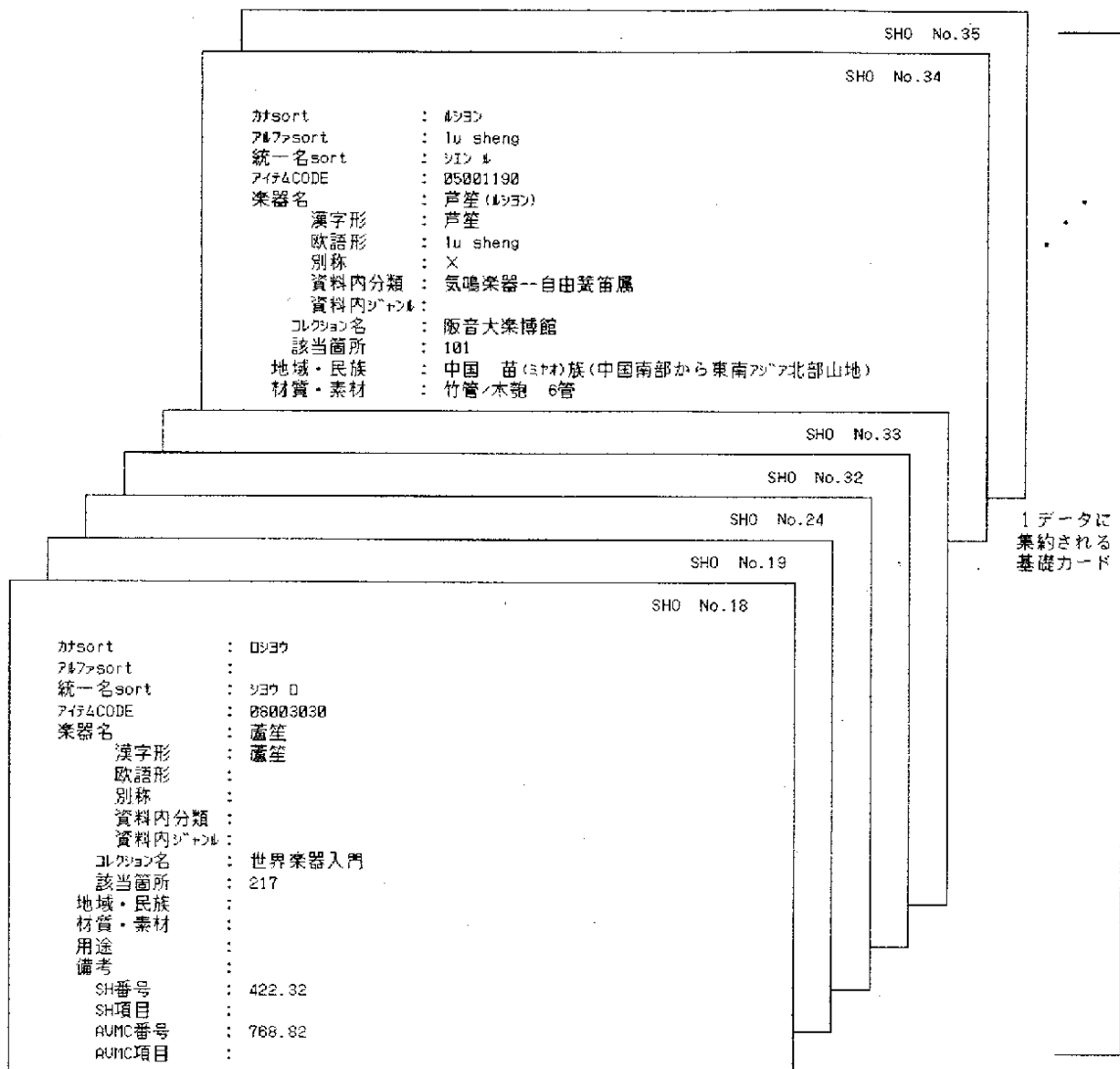
#### 2.5. 画像資料の試験登録

今回の構築作業においては、試験的に下記の楽器に関する画像資料の登録を各1点ずつ行った。

◇楽器の写真

◇楽器を演奏している写真

◇歴史的な文献に見られる楽器の図



上の基礎カードを集約して作成された楽器データベースのデータ

楽器名 : 蘆笙/芦笙 ロジャウ(日本語)/ル-ジャン lu(02)she(05)ng/lu sheng/lu-sheng(中国語・漢族)

別称 : 蘆笙/芦笙 アジャウ(日本語)/433D(中国語); kaeng ケン(ラオ語); 梗 gaeng/geng(ミョ族/トウ族/スイ族); 嘎斗 gadou(ミョ族); 嘎杰 gajie(ミョ族)

解説 : 東南アジア、中国南西部(ミョ族/イ族/トン族/マフン族/イ族)で用いられるマウス・リコーン。細長い木製の気室に竹管が差し込まれている  
 →ケン(1) →胡蘆笙 →胡蘆絲 を参照

材質・素材 : 竹管(通常6) / 木製の気室 / 金属製のリコーン

用途 : 独奏/合奏・舞踏の伴奏。野外での芦笙舞(種々の祭で芦笙を吹きながら踊る)、若い男女の交流、葬儀などで重要な役割を果たす

HS番号 : 412.132  
 AUMC番号 : 768.82  
 LC番号 :

〔記載資料〕  
 大阪音楽大学附属楽器博物館目録  
 音楽大事典 平凡社  
 楽器資料集 VII 国立音楽大学楽器学資料館 996  
 楽器の博物誌 朝日新聞社 49-51, 80, 127  
 郡司すみ 世界楽器入門 217  
 シルク・ロードの楽器と芸能具展 楽器 94  
 中国少数民族楽器志 中央民族学院少数民族文学芸術研究所 130  
 民族音楽大集成 解説書 シルク・ロード 133  
 Collection of Musical Instruments, Kunitachi College of Music Research Institute 93, 94  
 New Grove Dictionary of Music and Musicians, Appendix A  
 New Grove Dictionary of Musical Instruments

図2-5 基礎カードを基にした楽器データベースのデータの作成

### 3. データの作成基準

楽器データベースのデータは以下の基準で作成されている。

#### 3.1. 全般的事項

##### 3.1.1. データの各部分の名称

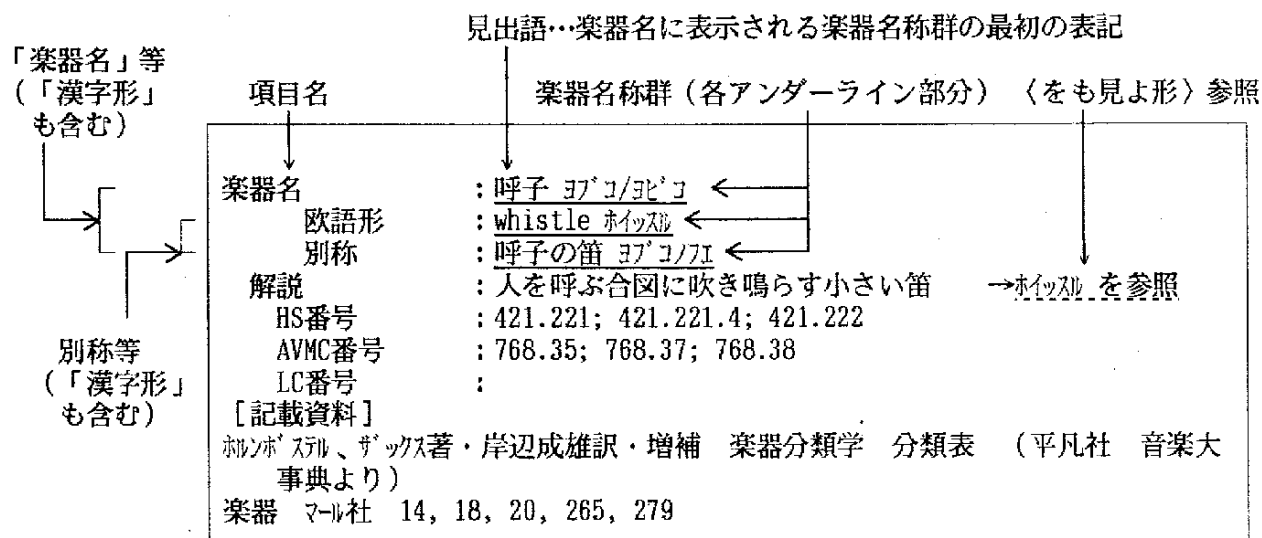


図 3-1 データの部分の名称

##### 3.1.2. データ項目

楽器データベースのデータは次の項目から構成されている。

- ◇「楽器名」等  
楽器名、漢字形、欧語形、別称
- ◇「解説」等  
解説、地域・民族・時代、材質・素材、用途、備考
- ◇楽器分類番号  
HS番号、AVMC番号
- ◇記載資料  
記載資料

※ただし、各データにおいて上記の項目を必ずしも全部入力するわけではない。

##### 3.1.3. データ作成の基本原則

###### ■ 1データとする単位

###### ◆ タイプを表す名称／総称的な名称

- ◇ 通常は楽器群の単位の名称に対して作成される。

###### ◆ 個別楽器名

- ◇ 通常、同一種類の楽器の単位で作成される。  
・ 同一種類の楽器の同称別表記や別称等は共通のデータに表示し、それに対して独立したデータは作成しない。
- ◇ 同一種類の楽器であるが別の側面や性格、背景をもつものが独特の名称で呼ばれる場合には、それに対して独立したデータを作成する。



■基本的に次の2種類の材料を基に作成する

- (1) 基礎カード(文字資料)でわかる範囲の情報
  - ・複数のカードを同一データとすることができる場合はそれらを統合し、わかる範囲で作成する。出典によって説明の精度が異なることが少なくないが、適宜処理する。
- (2) 参考資料(次の優先順序で用いる)
  - ①New Grove Dictionary of Musical Instrument
  - ②Marcuse, Sibyl. Musical Instruments: A Comprehensive Dictionary
  - ③その他の参考資料

3.1.4. 楽器名称の種類とデータとの関係

- 基礎カードにある楽器名称はおおよそ次の①～③に大別され、通常下記のようにデータ化される。  
 ◇ただし、これは類型であり中間的な楽器名称も存在する。

名称の種類	該当するもの	データ化
①個別楽器名	◇個別の種類楽器に対する代表的な名称	・通常これを見出語としてデータを作成する。
②別称・異綴	◇個別楽器名の別称・異綴	・通常、個別楽器名のデータの中に表示される。 ・個別楽器名と同一種類の楽器であるが、別の側面や性格、背景をもつものが独特の名称で呼ばれる場合のみ独立したデータとなる。
③タイプをあらわす名称	◇楽器群の単位の名	・これを見出語としてデータを作成する。

■同一名称の異楽器の取扱方法

- ◇次のいずれかの方法を用いる。
  - ①一つのデータにまとめ、「解説」の定義で(1)(2)...の項番を用いて区別する。
  - ②次のように「楽器名」の見出語を特定化し、各々別データとする。
    - (1)
    - (2)
    - (3)

3.1.5. 楽器名称の関係の表示

(1) 前提事項

- 下記①②の楽器データベース構築の目的、条件を考慮し、このデータベースにおいては、楽器名称の等価関係および連想関係、階層関係の厳密な整理は行わない。

- ①このデータベースが目的としているのは、概念ではなく、実際の物(楽器)と呼び名の整理である。
- ②多数の言語にわたる名称を1つのデータベースにおいて取り扱う必要がある。  
(概念の整理をするシソーラスは、基本的に1つの言語の範囲で作成される。)

- ◆従って、各データにおいて他の楽器名称との関係を可能な範囲で表示するが、それはシソーラスのような厳密性をもたない。

## (2) 各データにおいて他の楽器名称との関係を表示する手段

- (a) 「楽器名」の項目に見出語に続いて列記される、見出語と同一楽器名称群の別表記（漢字、カナ、アルファベットの別の形）  
…これらはほぼ〈を見よ形〉に近い関係である。
- (b) 「漢字形」「欧語形」「別称」（以後これらを「別称等」と総称する）  
…ここに表示される名称は、必ずしも「楽器名」に対する〈を見よ形〉ではなく、「楽器名」といろいろな重なり合い方をする。
- (c) 〈をも見よ形〉参照  
※この表示形式については次項を参照のこと。

## (3) データにおける〈をも見よ形〉参照の表示形式

◆参照すべきデータの見出語のみを表示する。

◆「解説」等の末尾に「→○○\_を参照」の形式を用いて表示する。

・解説、備考等の文章の最後に2スペース（□□）を置いてから表示する。

・ただし、改行後の新しい行に表示する場合は、項目名のコロンの後の桁位置から表示する。

◇参照すべきデータが複数ある場合は「→○○\_→○○\_を参照」の形で表示する。

（例）□□→鼈太鼓 →日月太鼓 を参照

## (4) 楽器名称の関係の表示基準（関係のパターン別）

◆凡例

☆…各名称に対する独立したデータ作成の有無

★…楽器名称の関係の表示方法



…パターン図

[パターン図の見方]

・①②③…楽器名称

・〈 〉…1データ

・【 】は各データで作成する別称等および、〈をも見よ形〉参照の表示を示す。

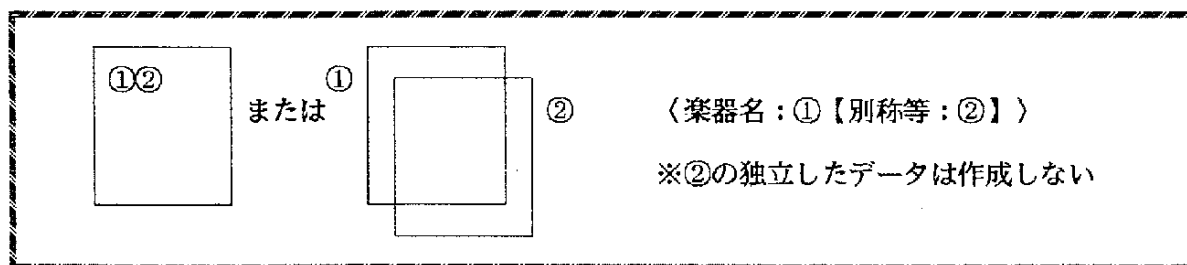
※「別称等」は「漢字形」または「欧語形」、「別称」のいずれかの項目名のもとに表示することを意味する。

### ■パターン1：重なり合う、またはほぼ重なり合う

◇通常の別称等がこれにあたる

☆①を「楽器名」とするデータのみ作成し、②の独立したデータは作成しない。

★②は①のデータの別称等に表示する。



(例) ①「ティン・ホイッスル tin whistle」と②「penny whistle」

楽器名	: ティン・ホイッスル tin whistle
別称	: ペニー・ホイッスル penny whistle
解説	: タブ・フルートの普及版、6つの指孔を伴う。19世紀末から路上の音楽に広く使用されてきた。特にアイルランドでは、今日でもガブなどによく使用される → アイリッシュ・ティン・ホイッスル → ペニー・ホイッスル を参照
材質・素材	: 通常は真鍮製

■パターン2：重なり合う部分がある（非階層関係）

☆①と②共に独立したデータを作成する。

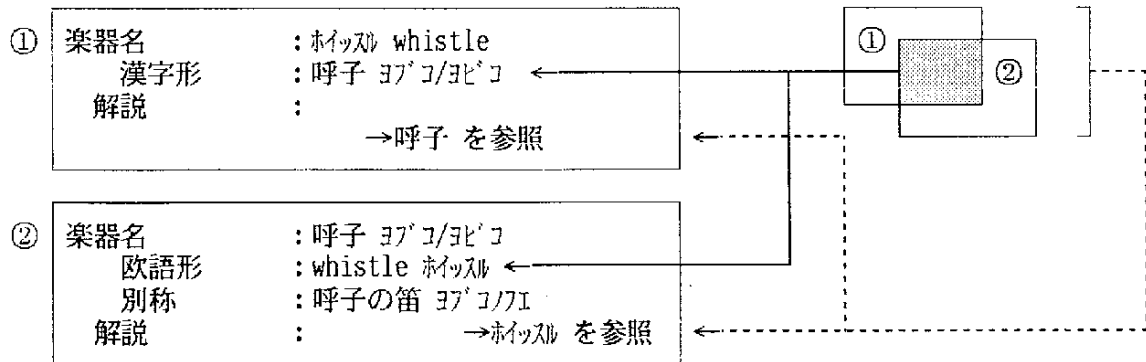
★相互に他方を別称に表示すると共に、相互に他方への〈をも見よ形〉参照を作成する。

◆このパターンの別称等および参照語の表示についての考え方

- ◇b (①=②) の部分が存在することの表現：→①の別称等に②を、②の別称等に①を表示する。
- ◇①②は重なり合う部分と相違する部分があるという関係を相互に作成する〈をも見よ形〉で表現する。



(例) ①「ホイッスル whistle」と②「呼子 ヲブ'コ/ヱビ'コ」の場合

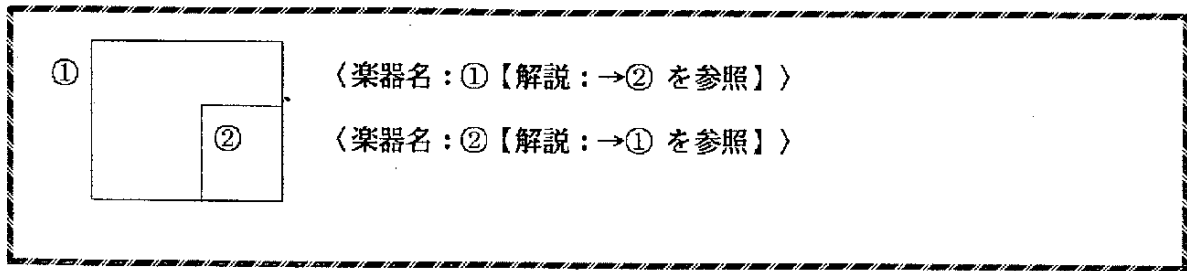


(注) 上記の方法は両方が優先語で非優先語であるという形式であり、通常のシソーラスの理論からすると矛盾している。しかし(1)の前提事項に示したように、このデータベースはシソーラスが行うような概念の整理を目的とするものではないため、この方法を用いる。

■パターン3：ある楽器名とその楽器が特定の条件に置かれた場合の名称

☆①と②共に独立したデータを作成する。

★相互に他方への〈をも見よ形〉参照を作成する。



◆その1：ある楽器名とその楽器の特定の地域における名称  
 (例)

①	楽器名	: ティン・ホイッスル tin whistle
	別称	: ペニー・ホイッスル penny whistle
	解説	: タブ・フルートの普及版、6つの指孔を伴う。19世紀末から路上の音楽に広く使用されてきた。特にアイルランドでは、今日でもガブなどによく使用される →アイルッシュ・ティン・ホイッスル →ペニー・ホイッスルを参照
	材質・素材	: 通常は真鍮製

②	楽器名	: アイルッシュ・ティン・ホイッスル Irish tin whistle
	解説	: アイルランドで用いられるティン・ホイッスル →ティン・ホイッスルを参照

◆その2：ある楽器名とその楽器がある状態に置かれた場合/特定の属性を持った場合の名称  
 (例)

①	楽器名	: 鼈太鼓/大太鼓 タダイ dadaiko/da daiko
	解説	: 日本の大型の樽型太鼓。雅楽の舞楽で使用される →火焰太鼓 →日月太鼓を参照

②	楽器名	: 日月太鼓 ニチゲツダイ
	別称	: 鼈太鼓/大太鼓 タダイ
	解説	: 日本の雅楽で用いる左方、右方の鼈太鼓(だだいこ)。名称は火焰の上方に日輪と月輪の装飾を持つことに由来する →鼈太鼓 →火焰太鼓を参照

■パターン4：階層関係

☆①②③共に独立したデータを作成する。

★全体と各構成部分との間で相互に〈をも見よ形〉参照を作成する。



(例)

◇①は用途、②③は形態を示す名称であるが、いずれも日本における具体的な楽器を示す言葉としての使われ方には階層関係があると判断される。

①	楽器名 解説	: 題目太鼓/お題目太鼓 タ' 任ダ' 任/杵' 任ダ' 任 daimoku daiko/ daimoku-daiko : 日蓮宗で、題目を唱える際に用いる団扇太鼓と柄太鼓の総称 →団扇太鼓 →柄太鼓 を参照
②	楽器名 解説 用途	: 団扇太鼓/うちわ太鼓 ヲ' 任ダ' 任 uchiwa daiko : 日本で用いられる片面の杵太鼓。円形の団扇に似た形状をしている。片手で柄を持ち、ばちで打つ。 : 主として日蓮宗で題目を唱えるときに用いる。また、歌舞伎の下座音楽で殺人場面の伴奏にも用いる →題目太鼓 を参照
③	楽器名 解説	: 柄太鼓/柄付太鼓/柄付け太鼓 イダ' 任/イツタ' 任/イツタ' 任 edaiko : 日蓮宗徒で用いる、柄の付いた両面の杵太鼓。片手に持ち、ばちで叩く →題目太鼓 を参照

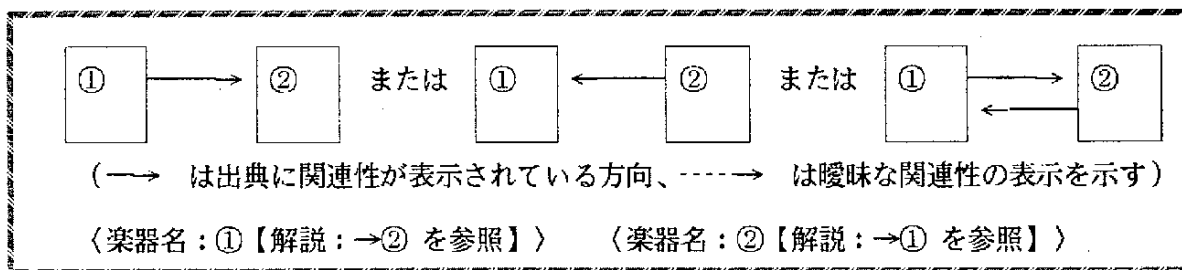
### ■パターン5：連想関係

◇非階層関係にあるものにおいて、その関連性が出典に言及されている場合

◆パターン5-(1) 出典に関連性が明確に説明されている場合

☆①と②共に独立したデータを作成する。

★相互に他方への〈をも見よ形〉参照を作成する。



(例)

①	楽器名 別称 解説 用途 備考	: imfengwane : impempe(1)/indweba : アフリカ南部のZulu族が用いるホップル : しばしば少女達によって、娯楽の踊り歌のリズムを強調するために用いられる : ヨーロッパの警官の用いるホップルは、この楽器を模倣して作られ、imfengwaneとも呼ばれる →itanki を参照
---	-----------------------------	--

②	楽器名	: itanki
	解説	: アフリカ南部のXhosa族が用いるホイッスル
	用途	: 通常は踊りのリーダーによって、踊りの変わり目の合図に用いられる
	備考	: ヨーロッパの警官の用いるホイッスルの別名でもある → <u>imfengwane</u> を参照

②の出典における説明

"Itanki. Whistle of the Xhosa people of southern Africa. ... See also Imfengwane."

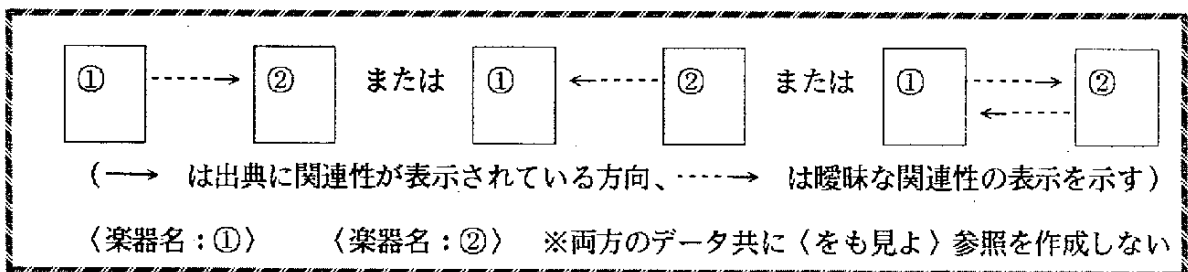
◇関連はあるが、その実体が不明である場合はここに含める。

(例) かつてミャンマーから中国へ伝わったという記録のある「ケン」と現在の「ケン」

◆パターン5-(2) 出典に関連性が曖昧に説明されている場合

☆①と②共に独立したデータを作成する。

★両方のデータ共に〈をも見よ形〉参照を作成しない。



(例)

①	楽器名	: imfengwane
	別称	: impempe(1)/indweba
	解説	: アフリカ南部のZulu族が用いるホイッスル
	用途	: しばしば少女達によって、娯楽の踊り歌のリズムを強調するために用いられる
	備考	: ヨーロッパの警官の用いるホイッスルは、この楽器を模倣して作られ、imfengwaneとも呼ばれる → itanki を参照

②	楽器名	: impembe
	解説	: アフリカ南部のSwazi族が用いるホイッスル

①の出典における説明

"Imfengwane[impempe, indweba]. Whistle of the Zule people of southern Africa ... are often used by Zulu girls to accentuate the rhythm in recreational dance-songs, as also among the Swazi to whom the whistle is known as impembe."

②の出典における説明

"Impembe. Whistle of the Swazi people of southern Africa. See Imfengwane."

3.1.6. 文字、カナ表記

■片仮名

◆半角を使用する。

### ■丸かっこ

#### ◆半角の丸かっこを使用するデータ項目

◇楽器名等における名称に対する付加的説明

◇HS番号、AVMC番号のデータ項目においては：→半角を使用する。

#### ◆全角の丸かっこを使用するデータ項目

◇解説 ◇材質・素材 ◇備考

◇地域・民族・時代 ◇用途

### ■特殊文字の入力

#### ◆音標符号付ローマ字／特殊アルファベット（半角）

◇資料3「音標符号付ローマ字／特殊アルファベット仮表示付加コード表」のコードを使用する。

◇「対応するローマ字+{コード}」の形で表示する

(例)「Flöte」→「Flo{08}te」

「Baß」→「Bass{55}」

※上記の方法はAV/MARCオンラインシステムで作る予定の外字(691字)にいずれ置き換えることを考慮した処置である。

#### ◆全角外字

◇MS-DOSの「ユーザ定義文字」による外字(84字まで可能)を使用する。

## 3.2. 楽器名、漢字形、欧語形、別称

### (1) 各種の楽器名称の表示方法

#### ■楽器名、漢字形、欧語形、別称(以下、「楽器名」等、とする)には次の名称表記のみを表示する。

①1データに集約する基礎カードおよび参考資料として用いた資料にある楽器名の表記

②①に含まれる漢字や平仮名の楽器名の片仮名表記

#### ■楽器名称群単位で表示する

◆ある楽器名称とその音訳語からなる、1つの楽器名称から派生した名称のグループ(同一名称の異綴を全て含む)を楽器名称群と呼ぶこととする。「楽器名」等においては、楽器名称群単位で各種の楽器名およびその表記を表示する。

(注)意識語や別系統の名称は別の楽器名称群として扱う。

例:「ピアノ piano」に対する「洋琴 ヲケン」

#### ■複数の楽器名称群がある場合のその表示箇所

◆1つのデータに統合される複数の楽器名称群がある場合にはその中から代表的な1つを選択し「楽器名」として表示する。

◆「楽器名」に選択しない名称群については、次の手順によってどの項目名のもとに表示するかを決定する。

(a)「楽器名」として選択しない当該名称群と選択した名称群が、それぞれ漢字形と欧語形のいずれに類別されるかを判断する。類別は下記のフロー図およびケース別類別表に従って行う。

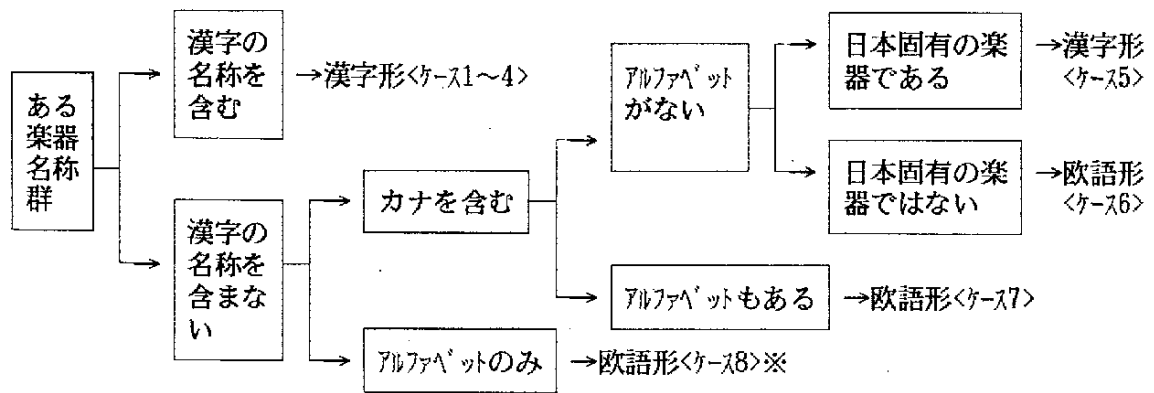


図 3-2 楽器名称群類別フロー図

表 3-1 楽器名称群のケース別類別表

ケース		楽器名称群を構成する表記文字			楽器名称群の類別	備考
		漢字	カナ	アルファベット		
漢字がある	1	①	②	③	漢字形	
	2	①	②			
	3	①		②		
	4	①				
漢字がない	カナがある	5	①		欧語形	…日本固有の楽器
		6				…上記以外
	7	①	②	※		
	アルファベットのみのみ	8		①		

(b)「楽器名」に選択しない当該名称群の類別を「楽器名」に選択した名称群のそれと比較の上、次の基準によりその表示に用いる項目名を決定する。

- ・類別が同一の場合：→「別称：」
- ・類別が相違する場合：→それぞれ該当する類別の項目名（「漢字形：」または「欧語形：」）

◆上記のフロー図およびケース別類別表の※印のケースに該当する、ヨーロッパの言語以外の楽器名を「楽器名：」以外の項目名を用いて表示する場合には適宜、「欧語形：」以外の違和感のない項目名のもとに表示する。通常は「別称：」として表示するのが適切である。

### ■「楽器名」等の表示形式

◆各々の楽器名称群を構成する各種の表記を記録する順序

◇「楽器名」「漢字形」「別称」の場合

①漢字（または、漢字+かな/か）→②か→③アルファベットの順

◇「欧語形」の場合

①アルファベット→②か の順

◆各々の表記の種類の間は半角スペース（）で区切る。

◆同一種類の表記が複数ある場合にはそれらを半角スラッシュ（`/`）で区切る。

◆「楽器名」以外の項目には複数の楽器名称群を記録することがありうる。その場合にはその間を半角セミコロン+半角スペース（`;`）で区切る。

(例) 楽器名 : 蘆笙/芦笙 りんしょう(日本語)/ル-ション lu{02}she{05}ng/lu sheng/  
lu-sheng(中国語・漢族)  
別称 : 蘆笙/芦笙 りんしょう(日本語)/ルシエン(中国語); kaeng ケン(ラオ語);  
梗 gaeng/geng(ミャオ族/トン族/スィ族); 嘎斗 gadou(ミャオ族);  
嘎杰 gajie(ミャオ族)



## (2) 楽器名称の個別化

### ■異なる楽器に対する同一の名称表記

- ◆異なる楽器に対する同一の名称表記の中に見出語(「楽器名:」の最初に記入する表記)が含まれる場合にのみ、(1)(2)(3)...を付加することにより各々の楽器の種類を特定化する。
  - ・この場合、見出語だけでなく、別称等も含めた異なる楽器に対する同一の名称表記全てに付加する。

(例) 楽器名 : 楽太鼓(1) がクダ'イ kakudaiko/gaku daiko  
別称 : 吊太鼓/釣太鼓/つり太鼓 ツリ'イ

楽器名 : 平吊太鼓/平釣太鼓 ヒラツリ'イ/ヒラツリ'イ hiratsuridaiko/  
hiratsuri-daiko  
別称 : 楽太鼓(2) がクダ'イ; 平丸太鼓 ヒラマル'イ

### ■音標符号等の相違する同綴

※つまり、音標符号付ローマ字/特殊アルファベットを対応するローマ字に直すと、同綴になる名称が存在する場合。(これらは通常別の楽器に対する名称である。)

- ◆各データの見出語のみに限定し、それらの中に音標符号の相違する同綴がある場合に(ア)(イ)(ウ)...を付加し、綴りの音標符号等の相違を区別する。
  - ・この場合には見出語にのみ付加する。見出語以外にそうしたものがあっても無視する。

### ■同名異楽器を区別するための(1)(2)(3)...および音標符号の相違する同綴を区別するための(ア)(イ)(ウ)...は、蓄積されているデータの範囲内でそれが必要な場合にのみ付加する。

- ◆つまり、参考資料から将来付加することが必要になると予想されるというような場合には付加しない。

## (3) 楽器名称に対する付加的説明

### ■必要に応じて、次のような種類の説明語句を丸かっこ(半角)に入れて付加する。

#### ◆言語名ないしは民族名

(例) 楽器名 : ヴァイオリン/バ'イオリン violin(英語)  
別称 : ヴィオリノ violino(イタリア語); ヴィオリネ Violine(ドイツ語);  
ガ'イ Geige(ドイツ語); ヴィオロン violon(1)(フランス語)

(例) 楽器名 : 葫蘆絲/葫蘆糸 フス hu{02}lu{02}si{05}/hu-lu-si(中国語・漢族)  
別称 : 箏朗叨 bilangdao(タイ族); 澆勒翁 poleweng(アチャン族); 葫蘆簫  
: huluxiao(アチャン族); 拜洪廖 baihongliao(ワ族); 布頼 bulai  
(ドイツ族)

#### ◆表記の綴りの単数形、複数形の別

(例) 楽器名 : gwizdek/gwizdki(複数形)  
解説 : ポ'ランドの、柳の樹皮や木、土でできた、子供用のホイッスル。大きさ形ともに多種多様である

#### ◆HS (ホソ'ステル=ザックス) 楽器分類の第一区分を示すタイプ名

◇同一の楽器名の表記が全く別類の楽器に使用されるときこの説明語句を付加する。

----- (1)(弦鳴)

----- (2)(気鳴)

■説明語句として付加しないもの

- ◆別称等に表示する楽器名称に対する「(俗称)」

(4) 「楽器名」等の表示における注意事項

■カナ表記を記録する場合には連濁音をそのまま正確に表示するように注意すること。

火焰太鼓/火炎太鼓 カンダ'イ [「カンタイ」ではなく]  
呼子笛 ヨ'コ'イ/ヰ'コ'イ [「ヨ'コ'イ/ヰ'コ'イ」ではなく]

3.2.1. 楽器名

■見出語

- ◆「楽器名」の最初に記録する表記を「見出語」と呼ぶこととする。

(例) 楽器名: 呼子 ヨ'コ'ヰ'コ



◇漢字はあるがそれを使わない傾向の楽器名(例えば、朝鮮語の楽器名)の場合であっても、漢字を見出語とする。

■日本の楽器の名称のアルファベット形のみあり、日本ではそのような呼び方はしない場合

- ◆日本語の漢字形が判明する場合には、楽器名称表示原則の例外として、欧語形に漢字形を丸かっこに入れて説明語として付記する。

(例) 楽器名: asobi-daiko(遊び太鼓)

◇片仮名は不要である。(日本でそのように呼ばないのだから。)

■次のような楽器名のデータは作成しない。

- ◆楽器名が造語ないしは翻訳者による新語であると判断される場合

◇例: 「民族呼子笛」

・これは「世界の楽器」の翻訳者による造語ないしは新語であると判断される。

- ◆ある範囲の楽器に対する説明的な語

◇例: 「雅楽の太鼓」「アジアの太鼓」「中国・朝鮮の太鼓」

3.2.2. 漢字形

この項目に表示される楽器名称については「3.2. (1)」の項を参照のこと。

3.2.3. 欧語形

この項目に表示される楽器名称については「3.2. (1)」の項を参照のこと。

3.2.4. 別称

この項目に表示される楽器名称については「3.2. (1)」の項を参照のこと。

### 3.3. 解説、地域・民族・時代、材質・素材、用途

#### 3.3.1. 全般的基準

##### ■句読点

- ◇日本語の全角句読点（、。）を使用する。
  - ・ただし、1つのデータ項目の最後の読点は不要である。

##### ■ルビの付け方

- ◇その文字の直後に平仮名を丸かっこ（全角）に入れて付記する。例：「丸（がん）」

##### ■「解説」の一部として記録した他のデータ項目に関する内容の取扱

- ◆全く重複している場合：→省く
- ◆独自の要素がある場合、または迷う場合：→残す

#### 3.3.2. 解説

##### 「解説」作成基準

###### (1) 全般的事項

##### ■「解説」作成にあたっては、このデータベースの意図する目的から、できる限り1～2行でその楽器のイメージがつかめるような説明を心がける。

- ◆短い「解説」によってその楽器を表現できる場合には、「地域・民族・時代」や「材質・素材」、「用途」の項目に関する内容も「解説」の中に含める。
  - ◇従って、他のデータ項目と内容が重複するとしても、それを「解説」に反映させることが必要な場合がある。
- ◆解説が長めになる場合、その中に他のデータ項目に移すことができる内容があればそこへ移す。

##### ■同一楽器名の別の実体を一つのデータにまとめて取り扱う場合

- ◆「解説」の定義において(1)(2)...の項番を用いて区別する。

##### ■出典にある誤った定義は次のいずれかの方法で扱う

- ①取りあげない。（無視する）
- ②間違っていると指摘して備考に記録する。

###### (2) 言葉の使用

##### ■言葉の選択

- ◆こなれていない表現／不自然な表現を避ける
  - (例)「数音」（「単音」はいいが）→「数個（または、複数／いくつか）の音が出せる」（kiluka(Alur族)）
- ◆全体の色調から浮いてしまうような表現は避ける
  - (例)「ジャマ功の人里離れた地域にみられる、3または4弦の切り出し弦式擦奏ツィター」の「人里離れた地域にみられる、」は削除する。(bamboo violin)
- ◆専門的な用語でも音楽事典を引けばわかるような言葉なら使用してよい。（用語の説明まではしない。）
  - (例)「循環呼吸」（管楽器の専門家は知っている）

■助詞「の」の類繁な連続は避ける。(連続は2つまでなら許容できる。)

(例)「竹管の一方の端近くの小さな長方形の…」(把烏 バウ)

■造語を避ける。

(例)「フリーリード' 気鳴楽器」→「フリーリード' の気鳴楽器」「フリーリード' をもつ気鳴楽器」(把烏 バウ)

※NGMIの原文は"Free-reed aerophone of the Miao (Hmong), Yi, Hani and other minority cultures of south-western China ..."

■概念の重複を避ける

(例)「フリーリード' をもつマウス・オルガンの総称」→「マウス・オルガンの総称」(笙管属 ショウカンゾク)

・フリーリード' をもたないマウス・オルガンはない。

■なくても十分わかる言葉は省く。

(例)「中国の漢民族の」→「漢民族の」(排笙 pa{02}ishe{05}ng)

■地名

◆古い地名の使用に注意する。

(例)「地域・民族・時代: イト' ネア/マレーシア/ボルネオ」(インクルイ engkerurai)

・イト' ネア/マレーシアは国で、ボルネオは島である。(「世界楽器大事典」が出典)

・ボルネオ島は現在ではカマンラン島の別称である。

◆不自然な地域の呼び方は避ける。

(例)「特に中央および北方中国で用いる。」(笙 she{05}ng)

・「中央中国」は不自然である。(NGMIの "in central and north China" の訳語。)

■記号の使用法

◆範囲を示すための記号…記載資料の記載箇所以外では「～」(全角)を用いる。

◇数字が連続する場合にも範囲の表現にする。

(例)「5、6、7管」→「5～7管」(葫芦笙 コロショウ(日本語)/フーロン(中国語))

「3または4弦の」→「3～4弦の」(bamboo violin)

■植物名

◆植物名は漢字を使用できるものは漢字で書く。

(例)「リュウ' ヲツン」→「竜舌蘭」、「イツ' マツ」→「蝦夷松」、「カラマツ」→「落葉松」

### (3) 文章

■解説の最初の文章は長くなりすぎないように注意する。

◆「〈場所〉の〈楽器の最も特定のなカテゴリー〉」に1つ限定要素を加える程度が適切である。

◇限定要素を加えないと「…の一種」を付加する傾向が生ずるがそれはできるだけ避ける。

◇加える1つの限定要素以外の限定要素は次の文章に入れる。

(例)

「中国の半音階演奏の可能な、25本の竹管を持つマウス・オルガン」(二十五管笙 コジューコ' カンショウ)

→「中国の25本の竹管を持つマウス・オルガン。半音階の演奏が可能である」

■解説の最初の文章に盛り込む楽器のカテゴリー

◆その楽器が含まれているカテゴリーを表す最も特定のな言葉で表現する。

・気鳴楽器→管楽器→トランペット

※その特定のな言葉が一般になじみがない場合もそれを使用する。

(その言葉でデータベースを検索すれば意味がわかる。)

◆できるだけ形を表す言葉を使用する。

・「管楽器」は形を表すのに対して、「打楽器」は行為を表す言葉なので使用しない方がいい。

◇ただし、打楽器としか出典における説明に出てこなければそれを使うしかない。

◇また、次のように形を表す言葉の使用が不自然な場合は行為を表す言葉を使用してよい。

(例)「吹奏楽器」…普通の管楽器のイメージからはほど遠いものに対して使用する。

■最初の文章の体言止めは気にならないが、途中[2番目以後]の文章では不自然である。

(例)「…。蛙の鳴き声の擬音」(ノ' ngo)→「…。蛙の鳴き声を模倣する」

## ■伝聞の形式の文章

…次の場合には伝聞の形の文章にする。

### ◆内容が不確実な場合

(例)「日本の子供が用いる柄の付いた片面の杵太鼓。欧米の文献で紹介されている」  
(asobi-daiko) ※日本には「遊び太鼓」という名称は存在しない。

### ◆細か過ぎて不自然な説明

(例)「鳥の鳴き声を模する、鳥の呼び寄せ笛。Marcuseによれば1380年以降の使用とされている」  
(appeau(2))

## ■表現の不統一を避ける。

(例1)・「イリアでの小さなホイッフルを総称する語」(zuffolo)

・「ホイッフルを意味するイリア語」(fischietto)

(例2)・「ホイッフルを指すKurdの語」→「ホイッフルを指すKurd語」(fiqna)

・「ホイッフルを意味するKurd語」(fif fita)

## ■時制の相違の不自然さに注意する。

(例)「ウガンダのLango族が用いる長い円錐状の動物の骨製のホイッフル。(中略)戦争や狩の際に各人を識別することができた」(ecoc)

→最後の文の「できた」を「できる」に変更するのが望ましい。

### ◆時制の表現を含む動詞を用いた形から助詞「の」を用いた体言止めの形に変更するのも1つの方法である。(助詞「の」の連続は2つまでなら不自然ではない。)

(例)「セネガルのJola族が用いるホイッフル」→「セネガルのJola族のホイッフル」

## (4) 内容の選択

### ■次の内容は解説等を含めない(ただし、それを除くと類似異種の楽器の区別ができない場合を除く)

#### ◆弦鳴楽器の調弦

## 3.3.3. 地域・民族・時代

### ■「地域・民族・時代」はそこに記録する内容がその一部だけの場合でもこの項目名を用いる。

### ■地名の表記について

#### ◆「コンサイス外国地名事典」の表記に従って統一をはかる。

### ■民族名の表示

#### ◆次の民族名は片仮名ではなく、アルファベットを用いて記述する。

##### ◇アフリカの民族名

(例)ザイールのLuba族が用いる動物の角でできた狩猟用のホイッフル

※ただし、「ピグミー」および「アッシュムン」は片カナで表示する。

(例)中央アフリカ共和国のピグミーが用いるホイッフル

##### ◇北アメリカのインディアンおよびエスキモーの民族名

(例)Nava.joインディアン

#### ◆「ピグミー」の表示について

◇民族がわかる場合：→「Mbutiピグミー」「Lesekピグミー」の形で表示する。

◇民族がわからない場合(ピグミーとだけ指定されている場合)：→「Mbutiピグミー」とする。

- ◆「エスキモー」の場合も「ピグミー」と同様の形で表示する。  
(例) Inuitエスキ-

### 3.3.4. 材質・素材

楽器の材質や素材に関する情報がある場合、それを簡明な形で記録する。

(例) 胴は木製。弦は金属またはがット

### 3.3.5. 用途

楽器の用途に関する情報がある場合、それを簡明な形で記録する。

(例) 歌舞伎の下座音楽、寄席の囃子

## 3.4. 備考

■次の情報はこの項目に記録する

- ◆楽器名称の本来の意味  
(例) 「葫芦」は瓢箪の意味である」(葫芦笙 コロショウ(日本語)/フルーシヨウ(中国語))
- ◆ただし書きのような内容  
(例) 「和音を奏することができる双管フルートのAkkordflo{08}teと混同してはならない」  
(accord flo{08}te)  
(例) 「...。イタンキ」の警官の用いるホイッスルの別名でもある」(itanki)
- ◆一般的でない、ないしは誤った定義をその旨ことわって記録する場合  
(例) 「鼈太鼓(だだいこ)、吊太鼓、荷太鼓(にないだいこ)を樂太鼓と総称することもある」

■備考の内容が複数ある場合の記録方法

備考 : (1)-----  
(2)-----

## 3.5. HS番号、AVMC番号

### 3.5.1. 全般的事項

#### (1) 表示形式

■同一データ項目に複数の分類番号を記録する場合は、複数の分類番号の楽器名との関係に応じて次の区切り記号を用いる。

複数の分類番号の楽器名との関係	区切り記号
複数の両方に該当する (AND)	_+_
範囲のある番号に該当する	~
複数の番号のいずれかに該当する (OR)	;-

## (2) 分類付与方針

### ■機械楽器について

- ◇発音そのものは何らかの原理を使っているのでHSはそれに従う。
- ◇AVMCは次のいずれかである。
  - ・一まとめの項目に分類されるもの(766.6)
  - ・個別の番号があるもの(766.64-.69)

- いわゆる音具は楽器として扱い番号を付与する。  
(例)カシークダンスで使うスプーン

## 3.5.2. HS番号

### (1) 分類表

対象とする楽器のホルンボステル=ザックス楽器分類表[資料1]の番号をここに記録する。

### (2) 分類付与方針

#### ■HSの扱い方に違和感のあるものについて

- ◆HSの正統的な番号を最初に付与し、可能性のある他の番号を「( )」に入れて付記する。  
(一般の人の感じる違和感を考慮して。)  
(例)中国の笛子(ディーズ)の場合は膜鳴楽器の番号を付与し、気鳴楽器の番号を付記する。

#### ■オルガン

- ◆リードオルガンとそれ以外は区別する必要がある。
  - ◇楽器が大きい場合は多種の発音原理のパイプを含むため「4」のみを付与する。

#### ■電鳴楽器の分類法

- ◆次の2つに分ける。これは「図解音楽事典」でも用いている方法だが、HSの正統的な方法ではなく、楽器データベース独自の方法と考えるべきである。
  - ◇増幅楽器…51
    - ・「/」(半角)に続けて形状による2次分類(通常のHS番号)を付加する。
  - ◇電気振動の楽器…52
    - ※「52」の展開の可能性は、将来検討する。

## 3.5.3. AVMC番号

対象とする楽器のAV/MARC分類表[資料2]の番号をここに記録する。

## 3.6. 記載資料

### 3.6.1. 記録する対象

- 次の資料名をここに記録する。
- ・データの基になった基礎カードの出典名
  - ・参考資料として用いたその他の資料名

### 3.6.2. 記録の位置

- ◇データの末尾の「[記載資料]」という行の次行の1桁目から記録する。
- ◇1資料ごとに改行して記録する。
- ◇1資料の表示が複数行にわたる場合、2行目以降は半角で5列目から記録する。

### 3.6.3. 各資料の記録の形式

- ◆「資料名」→「記載箇所」の順に記録する。
  - ・資料名と記載箇所の間には、日本語の場合は全角スペース(　)、欧文の場合は半角のハイフン+スペース(,\_)により区切る。

- ◆資料名…代表的なものは次の形とする(※資料名の先頭の冠詞は除く。)

網代景介・岡田知之共著 新版打楽器事典  
大阪音楽大学附属楽器博物館目録  
音楽大事典 平凡社  
楽器 マル社  
楽器資料集 国立音楽大学楽器学資料館  
楽器の博物誌 朝日新聞社  
黒沢隆朝 図解世界楽器大事典  
郡司すみ 世界楽器入門  
佐竹悦子編 中南米の楽器  
柴田南雄 楽器への招待  
シカ・ロート'の楽器と芸能具展 楽器  
弾・吹・打 日本の楽器とその系譜 国立歴史民俗博物館  
東京芸術大学音楽学部小泉文夫記念資料室所蔵楽器目録  
日本音楽大事典 平凡社  
ルソボ'スル、ザックス著・岸辺成雄訳・増補 楽器分類学 分類表 (平凡社 音楽大事典より)  
マロウ著・柿木吾郎訳 中世・ルネサンスの楽器  
民族音楽大集成 解説書 キングレコード  
ソテア著・龍村あや子訳 アフリカの音楽  
AV-MARC分類表  
Collection of Musical Instruments. Kunitachi College of Music Research Institute  
Marcuse, Sibyl. Musical Instruments: A Comprehensive Dictionary  
New Grove Dictionary of Music and Musicians, Appendix A  
New Grove Dictionary of Musical Instruments

- ◆記載箇所

- ◇資料におけるその楽器の記載ページ(または記載番号)を記録する。
  - ◇複数ある場合の記録方法
    - ・複数のページ数を半角のハイフン+スペース(,\_)で区切る。(例: 20, 279)
    - ・範囲を示す場合は半角ハイフンを用いる。(例: 210-212)
- ※ただし、事典の場合には記載箇所を記録しない。

### 3.6.4. 記録する順序

次の順序で記録する。(上記の資料名リストの順序に等しい。)

- ①日本語(五十音順)
- ②欧文(アルファベット順)



#### 4. データの表題および索引の登録基準

データの表題と索引（キーワード）については以下の基準に従って登録された。

■表題と索引には次を登録する。

表題	「楽器名」に表示されている楽器名称群全体 ※ただし、64文字（半角で）を越える場合には、楽器名称の表記単位で可能な範囲までを登録する。
索引	①「楽器名」等に表示されている全ての楽器名称の表記
	②〈くをも見よ〉参照に表示されている見出語
	③「HS番号」、「AVMC番号」に表示されている個々の分類番号

■索引が28を越える場合

- ◆同一データをもう1つ読み込み、29番目以降の索引はその2番目のデータに登録する。
- ◆2番目のデータには「楽器名」の上部に次の2行を追加し、表題には最初の行の表示を登録する。
  - ・「」→『○○』と同一内容」（○○は見出語）
  - ・（空白の1行）

■表題および索引登録の実例

楽器名	: 呼子 ヨブコ/ヨビコ
欧語形	: whistle ホィッル
別称	: 呼子の笛 ヨブコフエ
解説	: 人を呼ぶ合図に吹き鳴らす小さい笛 →ホィッル を参照
HS番号	: 421.221; 421.221.4; 421.222
AVMC番号	: 768.35; 768.37; 768.38
LC番号	:
[記載資料]	
楽器 マル社 14, 18, 20, 265, 279	
ホィッステル、ザッス著・岸辺成雄訳・増補 楽器分類学 分類表（平凡社 音楽大事典より）	

表題	呼子 ヨブコ/ヨビコ
索引	① 呼子/ヨブコ*/ヨビコ/ホィッル/whistle/呼子の笛/ヨブコフエ
	② ホィッル [ただし①に同一のものがあるので登録を省略する]
	③ 421.221*/421.221.4/421.222/768.35/768.37/768.38

(注) \* の索引は他の索引の前方一致で検索されるので索引に入力したとしても登録の際に自動的に削除される。

## 5. システム構成

### 5. 1. 機器構成

- ◇パーソナルコンピュータ NEC PC-9801 RA
- ◇ハードディスク
- ◇ディスプレイ
- ◇プリンタ

### 5. 2. ソフトウェア構成

- ◇基本ソフトウェア……………MS-DOS<sup>1)</sup> Ver. 3.30
- ◇日本語入力システム……………ATOK7<sup>2)</sup>
- ◇データベース・ソフトウェア……………知子の情報<sup>3)</sup> Ver. 4

## 6. データベースの機能

### 6. 1. 使用するデータベース・ソフト

楽器データベースの構築を計画するにあたって、当面は市販のデータベース・ソフトを使用し、パソコン単体で運用できるデータベースを構築するという基本方針を設定し、ソフトの選定を行った。その結果、次の理由からこのデータベースには文書データベース・ソフト「知子の情報」<sup>3)</sup>を用いることとした。

- ◇検索機能が充実している。
  - ・and検索、or検索、not検索が可能である。
  - ・1データに28個までキーワードを付与できる。
  - ・絞り込み検索、追加検索が可能である。
  - ・キーワード検索だけでなく全文検索も可能である。
- ◇データの情報量の差に柔軟に対応できる。
- ◇MS-DOSの「ユーザ定義文字」による全角外字を使用できる。
- ◇扱えるデータ数と容量が楽器データベースの構築に適する。
- ◇MS-DOSのテキストファイルの読み込みが容易である。
- ◇値段が安価であり、データベースを普及させやすい。

楽器データベースにおいては、文書データベース・ソフト「知子の情報」をそのままの形で用いる。従って、以下に説明するデータベースの機能は、全てこのソフトが本来有している機能の一部を楽器データベースに適用したものである。

<sup>1)</sup>MS-DOSは米国マイクロソフト社の登録商標です。

<sup>2)</sup>ATOK7は株式会社ジャストシステムの登録商標です。

<sup>3)</sup>知子の情報は有限会社テグレット技術開発の登録商標です。

## 6.2. 検索機能

### 6.2.1. 検索の手順

楽器データベースの検索は次の手順により行う。

#### ■起動

- ①「知子の情報」を起動する
- ②読み込みファイルの指定…楽器データベースのファイルを指定する  
→〈新規入力画面〉

#### ■検索

- ③ [f:1] → 〈ファイル操作メニュー1〉
- ④ 「S:検索」を選択 → 〈検索索引入力画面〉
- ⑤ 検索索引の入力 → [f:1] → 〈検索方法選択画面〉
- ⑥ 検索方法の選択 → (⑦非優先索引との一致数の指定 [非優先索引の指定をした場合のみ])  
→ 〈検索された最初のデータを表示〉

### 6.2.2. 検索方法

選ぶことができる選択方法は9種類ある。これは検索の種類が3種類、検索対象データの指定方法が3種類あり、その組み合わせにより指定するからである。

#### ■検索の種類

検索の種類には高速検索、普通検索、全文検索の3種類がある。それぞれの機能を表6-1に示す。

表 6-1 検索の種類と機能

検索の種類	検索対象			検索方法	半角大/小文字の区別をするかどうかの切り換え	拡張検索
	索引	表題	本文			
高速検索	○			前方一致		
普通検索	○	○		任意一致	可能	可能
全文検索	○	○	○	任意一致	可能	可能だが時間がかかる

#### ■検索対象データの指定方法

検索対象データの指定方法には全データ検索、絞り込み検索、追加検索の3種類があるが、1回目の検索は「全データ検索」でなければならない。1回目の検索結果にさらに別の条件を加えて絞り込むのが絞り込み検索、また、別の条件を加えて1回目の検索の該当データに追加するのが追加検索である。その関係を図6-1に示す。

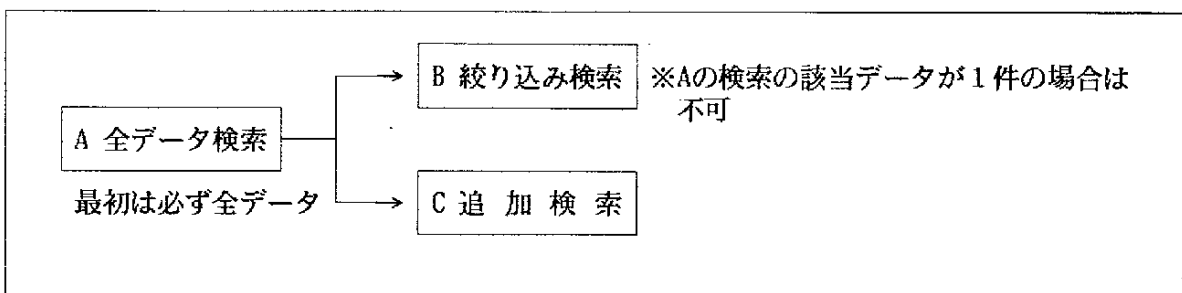


図 6-1 検索対象データの指定方法

### 6.2.3. 論理演算

検索索引の入力の際に、優先索引、非優先索引、否定索引を指定して論理演算を行うことができる。優先索引の指定をすると○が、否定索引を指定すると×が検索索引の行の左端に表示される。これらの機能と指定方法を整理したものが表6-2である。

表 6-2 優先索引、非優先索引、否定索引

指定の種類	記号	指定方法	説明
①優先索引	○	[f・2]/ [TAB]	◇必ず含まれていなければならない索引。 ★これを指定すると検索が早くなる。
②非優先索引	なし		◇その中の一部が含まれていればよいという索引。 ・1つの場合→優先索引と同等になる ・2つ以上の場合→検索開始直前に「非優先索引との一致数」（その内いくつが含まれていればよいか）を指定
③否定索引	×	[f・3]/ [SHIFT] +[TAB]	◇その索引が含まれていないデータを検索するという指定。 ★これを指定すると検索が遅くなる。①と一緒に使うと検索時間が短くなる。（ただし、①と③では③の方が検索時に優先される。）

### 6.2.4. 楽器データベースの検索例

- (1) 「whistle」を優先索引として、「penny」「swanee」「antler」を非優先索引として検索索引を入力。
- (2) 非優先索引との一致数を「1」（つまり3つのうちの1つを含むデータを検索する）と指定。

```

検索優先否定解除辞書 前回 文字列日付
B:YGDB.TMM No.0/1500 (新規入力)
検索索引の入力
○1 : whistle
  2 : penny
  3 : swanee
  4 : antler
  5 :
  6 :
  7 :
  8 :
  9 :
 10:
 11:
 12:
 13:
-TAB, SHIFT+TAB で、優先、否定の設定が可能
    
```

3個の非優先索引との一致数(省略=1)  
 1

```

[1 :1 ] 222KB-<知子の情報> 16:11 - NF HOK[挿入]
    
```

(3) 検索方法として「普通検索 (全データ)」を選択。

検索優先	否定解除	辞書	前回	文字列	日付
B:YGDB.TMM No.0/1500 (新規入力)					
検索索引の入力					
○1	:	whistle			
2	:	penny			
3	:	swanee			
4	:	antler			
5	:				
6	:				
7	:				
8	:				
9	:				
10	:				
11	:				
12	:				
13	:				
TAB, SHIFT+TAB で、優先、否定の設定が可能					
			検索方法の選択		
1	:	高全		高速検索	(全データ)
2	:	高絞		高速検索	(絞り込み)
3	:	高追		高速検索	(追加)
4	:	普全		普通検索	(全データ)
5	:	普絞		普通検索	(絞り込み)
6	:	普追		普通検索	(追加)
7	:	全全		全文検索	(全データ)
8	:	全絞		全文検索	(絞り込み)
9	:	全追		全文検索	(追加)
[1 :1 ] 222KB-<知子の情報> 16:11 - NF HOK[挿入]					

(4) 検索されたデータの最初のデータが画面に表示される。表示データの全データ件数中の番号、および検索されたデータ件数中の番号が左上のファイル名の後に次のように表示されている。

「No.203/1500 (該当番号1,該当数4)」

↑ ↑  
表示しているデータは検索された4件中の1番目  
表示しているデータは全1500データ中の203番目

ファイル	索引	編集	KIT	一覧	範囲	削除	確定	複写	窓管理
B:YGDB.TMM No.203/1500 (該当番号1,該当数4)									
楽器名	:	スワニー・ホイッスル swanee whiste/swanee whistle							
別称	:	スライド・ホイッスル slide whistle; スワニー・笛; ソング・ホイッスル song whistle; jazz flute; lotus flute; piston flute; piston pipe							
解説	:	指孔のない閉管のダウトフルート。音高はピストンやストッパーにより調整する							
地域・民族・時代	:	ヨーロッパ/イギリス							
材質・素材	:	民俗楽器は竹製、近代西洋のものはプラスチックまたは金属製							
備考	:	(1)名称のスワニーは、スワニー河と直接の関連はないと思われる (2)玩具として用いられるバード・ホイッスル bird whistleもスワニー・ホイッスルの一種であるが、その起源は19世紀にあり、時としてオーケストラ作品でも使われた →バード・ホイッスル を参照							
HS番号	:	421.221.312; 421.221.4							
AVMC番号	:	768.35; 768.38							
LC番号	:								
【記載資料】									
楽器	:	マル社 18							
ホルンボーステル、ザックス著・岸辺成雄訳・増補 楽器分類学 分類表 (平凡社 音楽大事典より)									
Collection of Musical Instruments. Kunitachi College of Music Research Institute 174									
New Grove Dictionary of Musical Instruments									
[1 :1 ] 222KB-<知子の情報> 16:11 - NF HOK[挿入]									

(5) [f.5] を押すと検索された4件の表題一覧が表示される。

ファイル1 索引編集 KIT 一覧 範囲削除確定複写窓管理		
表題一覧		
203	[スワン・ホイッスル swanee whistle/swannee whistle	]文書
204	[ペンニー・ホイッスル penny whistle	]文書
205	[ティン・ホイッスル tin whistle	]文書
212	[アントラー・ホイッスル antler whistle	]文書

り)  
 Collection of Musical Instruments. Kunitachi College of Music Research  
 Institute 174  
 New Grove Dictionary of Musical Instruments  
 [1 :1 ] 222KB-<知子の情報> -----16:11 - NF HOK[挿入]

(6) [↓] [↑] でカーソルを移動し回を押すとそのデータを画面に表示する。例えば、表題一覧の4列目にカーソルを移し回を押すと次のデータを表示する。

ファイル1 索引編集 KIT 一覧 範囲削除確定複写窓管理	
B:YGDB.TMM No.212/1500 (該当番号4,該当数4)	
楽器名	: アントラー・ホイッスル antler whistle
漢字形	: 枝角ホイッスル エグツツホイッスル
解説	: 鹿などの枝角でできたホイッスル・フルート。青銅時代以降多く発見されている
HS番号	: 421.221
AVMC番号	: 768.35
LC番号	:
[記載資料]	
マロウ著・柿木吾郎訳 中世・ルネサンスの楽器 32	

[1 :1 ] 222KB-<知子の情報> -----16:11 - NF HOK[挿入]

### 6.3. 登録機能

「知子の情報」は直接データを入力して登録することもできるが、楽器データベースの構築においては通常、別に入力したデータをテキストファイル形式で保存し、それを「知子の情報」に読み込んで登録するという方法を用いた。その手順を以下に示す。また、その実例を図6-2に示す。

#### 6.3.1. データのテキストファイルの読み込み

- ①作成したデータをテキストファイルの形式で保存しておく。
- ②「知子の情報」を起動する。
- ③読み込むファイルを指定する。
  - ◇最初のデータを登録する場合には新規に作成するファイル名を入力する。
  - ◇作成されているファイルに追加登録する場合はそのファイル名を指定する。
- ④新規入力画面において [f・1] を押す→〈ファイル操作メニュー1〉
- ⑤「I:文中へのファイル読み込み」を選択する。
- ⑥ドライブ名を指定し、読み込むテキストファイルを指定する。  
→〈テキストファイルが読み込まれて画面に表示される〉

#### 6.3.2. 読み込んだデータの表題と索引の入力

■表題および索引の登録の対象については「4. データの表題および索引の登録基準」を参照のこと。

##### ■入力方法

###### ◆表題

◇キーボードから入力することもできるが、データから範囲指定して入力する次の方法が最も便利である。

###### [方法]

- ・ [f・6] を押す。
- ・ [→] [←] で範囲指定する。
- ・ [SHIFT] + [f・2] を押すと範囲指定した文字列が表題に入力される。

###### ◆索引

◇キーボードから入力するなどいくつかの方法があるが、データから範囲指定して入力する次の方法が最も便利である。

###### [方法]

- ・ [f・6] を押す。
- ・ [→] [←] で範囲指定する。
- ・ [f・2] を押すと範囲指定した文字列が表題に入力される。

◆表題・索引入力画面とデータ表示画面とは [f・2] を押すことにより切り替わる。

#### 6.3.3. データの登録

- ①表題・索引入力後、データ表示画面に切り換え、[f・1] を押す→〈ファイル操作メニュー1〉
- ②「W:データ登録」を選択する。→〈データの《追加》保存確認画面〉
- ③「S:登録」を選択する。→〈データが登録される〉

作成したデータの  
テキストファイル

登録されるとデータの番号表示が  
「No.1501/1501」に変わる

↓①読み込む

↑④登録

→読み込まれたデータ

ファイル 索引編集 KIT 一覧 範囲削除確定複写窓管理

B:YGDB.TMM No.0/1500 (新規入力)

楽器名 : 平吊太鼓/平釣太鼓 ヒラツリダ'イ/ヒラツ'リダ'イ hiratsuridaiko/  
hiratsuri-daiko

別称 : 楽太鼓(2) ガク'イ; 平丸太鼓 ヒラマルダ'イ

解説 : 日本の胴の浅い両面太鼓。枠に吊され、ばちで奏する

用途 : 歌舞伎の下座音楽など

HS番号 : 211.312

AVMC番号 : 766.92; 766.95

LC番号 :

【記載資料】

大阪音楽大学附属楽器博物館目録

音楽大事典 平凡社

楽器の博物誌 朝日新聞社

黒沢隆朝 図解世界楽器大事典 112

東京芸術大学音楽学部小泉文夫記念資料室所蔵楽器目録 190

民族音楽大集成 解説書 キングレコード 120

[1 :1 ] 222KB-<知子の情報> 16:11 - NF HOK[挿入]

↓②データから範囲指定して入力する

↑③ [f:2]

→表題・索引入力画面

辞書

文字列日付

B:

ファイル:  
表題: 平吊太鼓/平釣太鼓 ヒラツリダ'イ/ヒラツ'リダ'イ hiratsuridaiko/hiratsuri-daiko

1 : 平吊太鼓

2 : 平釣太鼓

3 : ヒラツリダ'イ

4 : ヒラツ'リダ'イ

5 : hiratsuridaiko

6 : hiratsuri-daiko

7 : 楽太鼓(2)

8 : ガク'イ

9 : 平丸太鼓

10 : ヒラマルダ'イ

11 : 211.312

ESCで終了、TAB で索引、表題、ファイル名間を移動します

[1 :1 ] 222KB-<知子の情報> 16:11 - NF HOK[挿入]

図 6-2 テキストファイルの読み込みによるデータ登録



## 7. データベースの評価と今後の課題

### 7. 1. データベースの評価

今回の「楽器データベースの構築」事業において計画した中心的な業務内容は、楽器に関する市販されている日本語の文献、英語の代表的な文献を対象とした基本データを収集し、その第一次分のデータ作成・登録を行うことだった。また、楽器および演奏場面の図像データも試験的に登録することも予定した。以上については、ほぼ計画に沿った作業を完了することができた。普及をはかれる程度のデータ件数にできるだけ早期に到達するために、計画よりも多くのデータ作成・登録を行うことをめざしていたが、準備作業としての出典別楽器データの収集・入力の数々が、予定をはるかに上回ったため、それに対して予定以上の労力を注ぐことができなかった。

当初は、非統制楽器名データを独立したデータとして登録する予定だったが、検索機能への考慮からそれを本データに別称として表示し、そのデータの索引として登録する方法に変更したため、データの登録件数は予定よりも少なくなった。しかし、処理した基礎データの件数は計画どおりである。

内容および特性、機能に関しては、楽器データベースは次を目標として構築された。

- ①現在一般に使用されている楽器だけでなく、民族楽器、古楽器、電子楽器を含むあらゆる楽器を対象とする。
- ②非統制楽器名データにより、日本で知られている自然語の楽器名のあらゆる形からの検索を可能とする。
- ③基本的にシソーラスの形を念頭に作成し、楽器名の階層的な関係を知ることができるようにする。
- ④研究者用の分類番号（HS）と図書館用の分類番号（AVMC）の両方を付与し、種々の分野で活用できるものとする。

構築したデータベースは、上記の目標をおおむね実現していると思われる。ただし、③の楽器名の階層関係については十分な形で表現することができなかった。すなわち、英語の文献にのみある楽器名称が予想以上に多かったという事情から、全て日本語表記にする予定だった見出語を多言語にせざるを得ず、技術的にシソーラスの形のまとめ方が難しくなったからである。そこで、結果的にソシーラスを念頭においた辞書形式に落ち着いた。

## 7. 2. 今後の課題

### (1) 早急に取り組むべき課題

このデータベースの普及をはかるために次の課題に早急に取り組む必要がある。

#### a) 基本データ二次分のテキストの追加

今回の事業では楽器に関する市販されている日本語の文献、英語の代表的な文献を対象とした基本データを収集し、その第一次分のデータ作成・登録を行った。従って、楽器名等のデータを出典別に収集、入力、加工、出力した基礎カードは、基本データの対象とした文献全体に対して作成されているが、それを元にしたデータベース・データの作成・登録はその第一次分のみが行われている。楽器データベースの普及をはかるためには、収録している楽器名称の網羅性を高める必要があるため、基本データ二次分のテキストの追加が必要である。

#### b) オフライン形態のデータの普及

楽器データベースは各種の検索機能を備えており、データベースとして使用する場合に最もその特長を発揮することは勿論である。しかし、このデータベースのデータはシソーラスを念頭においた辞書形式で作成されているため、適切な索引を付加した冊子形態でも利用が可能である。a)の課題が実現した後はこの形態によって、パソコンやソフトを保有していない層に対しても普及をはかることができる。

### (2) 長期的な展望による課題

#### a) ヴィジュアルな部分の強化

楽器の情報においてはヴィジュアルな情報が非常に大きな効果を発揮する。図や写真は言葉による説明を補強することができるし、時には言葉で説明するよりも見る方が早く、わかりやすいという場合も多いと思われる。今回も楽器および演奏場面の図像データの試験的な登録を行ったが、そうしたヴィジュアルな部分を強化していくことが必要である。

ただし、ヴィジュアルな情報はその入手手段、著作権等の問題があり、実現のためには今後クリアしなければならない課題が少なくないと思われる。

#### b) オンライン化、CD-ROM化、マルチメディア化

「楽器データベース」は市販のソフトを用いてパソコン単体で運用するという方針で構築された。しかし、利便の向上のために将来は、当社のAV/MARCネットワーク等によるオンライン化を実現したい。また、CD-ROM化、さらにヴィジュアルな情報と共に楽器の音の情報も加えたマルチメディア化についても展望していきたい。

## 参考文献

### ■楽器関係

- 1) 網代景介・岡田知之共著 新版打楽器事典
- 2) 大阪音楽大学附属楽器博物館目録 豊中：大阪音楽大学，1984年3月。-- 171 p.
- 3) 音楽大事典 東京：平凡社，1981-1983年。-- 6 v.
- 4) 雅楽事典 東京：音楽之友社，1989年6月。-- 349 p.
- 5) 楽器資料集 IV～X 東京：国立音楽大学楽器学資料館，1984-1992年。-- 7 v.
- 6) 楽器の博物誌 東京：朝日新聞社，1986年9月。-- 162 p.
- 7) 黒沢隆朝著 図解世界楽器大事典 東京：雄山閣，1972年2月。-- 443, 45 p.
- 8) 郡司すみ著 世界楽器入門 東京：朝日新聞社，1989年1月。-- 238, vii p.
- 9) 佐竹悦子編 中南米の楽器 (非売品)，1991年8月。-- 44 p.
- 10) 柴田南雄著 楽器への招待 東京：新潮社，1983年8月。-- 138 p.
- 11) シルク・ロードの楽器と芸能具展 楽器 東京：国立劇場，1989年10月。p. 22-62
- 12) ダイヤグラムグループ編 楽器 東京：マル社，1992年4月。-- 319 p.
- 13) 瀧遼一著 中国音楽再発見 楽器編 東京：第一書房，1991。-- iv, 245 p.
- 14) 田辺尚雄著 日本の楽器：日本楽器事典 柏：柏出版，1964年11月。-- 381 p.
- 15) 田辺尚雄著 邦楽用語事典 東京：東京堂出版，1975年10月。-- 199 p.
- 16) 弾・吹・打 日本の楽器とその系譜 佐倉：国立歴史民俗博物館，1992年10月。-- 98 p.
- 17) 中央民族学院少数民族文学芸術研究所編 中国少数民族楽器志 北京：新世界出版社，1986年。-- 401 p.
- 18) 東京芸術大学音楽学部小泉文夫記念資料室所蔵楽器目録 東京：藝術研究振興財団，1987年10月。-- 210 p.
- 19) 日本音楽大事典 東京：平凡社，1989年3月。-- 1034, 46, 112 p.
- 20) マンウ著 柿木吾郎訳 中世・ルネサンスの楽器 東京：音楽之友社，1979年4月。-- 241 p.
- 21) ミヒル編 図解音楽事典 東京：白水社，1989年11月。-- 665 p.
- 22) 民族音楽大集成 解説書 東京：キング・ロード，1981年2月。-- 239 p.
- 23) カティヤ著 龍村あや子訳 アフリカの音楽 東京：晶文社，1989年。-- 270, xlvii p.
- 24) Collection of Musical Instruments. Tokyo: Kunitachi College of Music Research Institute, 1986. -- 319 p.
- 25) Marcuse, Sibyl. Musical Instruments: A Comprehensive Dictionary. New York: W.W. Norton, 1975. -- xii, 608 p.
- 26) Munrow, David. Instruments of the Middle Ages and Renaissance. London: Oxford University Press, 1976. -- 95 p.
- 27) New Grove Dictionary of Music and Musicians, Appendix A. London: Macmillan, 1980.
- 28) New Grove Dictionary of Musical Instruments. London: Macmillan, 1984. -- 3 v.

### ■楽器分類表

- 29) ホルボステル、ザックス著 岸辺成雄訳・増補 楽器分類表 (平凡社 音楽大事典第2巻「楽器学」より)
- 30) AV/MARC分類表 東京：ダイアメディアサービス、1990。-- 161 p. (非売品)

### ■その他

- 31) 岩波仏教辞典 東京：岩波書店，1989年12月。-- 978 p.
- 32) コンサイス外国地名事典 改訂版 東京：三省堂，1985年12月。-- 1199, 137 p.
- 33) 文化人類学事典 東京：弘文堂，1987年2月。-- 935 p.
- 34) Aitchison [ほか] 著 内藤衛亮 [ほか] 訳 シソーラス構築法 東京：丸善，1989年7月。-- vii, 195 p.

ホルンボステル=ザックス楽器分類表

《資料1》

ホルンボステル=ザックス楽器分類表

※主網表と要目表は体系全体を鳥瞰するための表なので、具体的な分類項目は細目表で確認すること。

■ 主網表

分類名	番号	ドイツ語	英語
体鳴楽器	1	Idiophone	Idiophones
打奏体鳴楽器	11	Schlag-Idiophone	struck idiophones
摘奏体鳴楽器	12	Zupf-Idiophone	plucked idiophones
擦奏体鳴楽器	13	Reib-Idiophone	friction idiophones
吹奏体鳴楽器	14	Blas-Idiophone	blown idiophones
膜鳴楽器	2	Membranophone	Membranophones
打奏太鼓	21	Schlagtrommeln	struck drums
摘奏太鼓	22	Zupftrommeln	plucked drums
擦奏太鼓	23	Reibtrommeln	friction drums
歌奏太鼓 (ミルリトン)	24	Ansingtrommeln (Mirlitons)	singing membranes (kazoos)
弦鳴楽器	3	Chordophone	Chordophones
単純弦鳴楽器またはツィター	31	Einfache Chordophone oder Zithern	simple chordophones or zithers
複合弦鳴楽器	32	Zusammengesetzte Chordophone	composite chordophones
気鳴楽器	4	Aerophone	Aerophones
自由気鳴楽器	41	Freie Aerophone	free aerophones
本来の吹奏楽器	42	(Eigentliche) Blasinstrumente	wind instruments proper
電鳴楽器★	5	Elektrophone	Electrophones
増幅楽器★	51		
電気楽器★	52		

■ 要目表

分類名	番号	ドイツ語	英語
体鳴楽器	1	Idiophone	Idiophones
打奏体鳴楽器	11	Schlag-Idiophone	struck idiophones
直接打奏体鳴楽器	111	Unmittelbar geschlagene Idiophone	idiophones struck directly
間接打奏体鳴楽器	112	Mittelbar geschlagene Idiophone	indirectly struck idiophones
摘奏体鳴楽器	12	Zupf-Idiophone	plucked idiophones
枠型摘奏体鳴楽器	121	In Rahmenform	in the form of a frame
板型または櫛型摘奏体鳴楽器	122	In Brett- oder Kammform	in board- or comb-form
擦奏体鳴楽器	13	Reib-Idiophone	friction idiophones
擦奏棒	131	Reibstäbe	friction sticks
擦奏板	132	Reibplatten	friction plaques
擦奏容器	133	Reibgefäße	friction vessels
吹奏体鳴楽器	14	Blas-Idiophone	blown idiophones
吹奏棒	141	Blasstäbe	blown sticks
吹奏板	142	Blasplatten	blown plaques

ホルンボステル=ザックス楽器分類表

分類名	番号	ドイツ語	英語
<b>膜鳴楽器</b>	<b>2</b>	<b>Membranophone</b>	<b>Membranophones</b>
打奏太鼓	21	Schlagtrommeln	struck drums
直接打奏太鼓	211	Unmittelbar geschlagene Trommeln	drums struck directly
振奏太鼓 (間接打奏太鼓)	212	Rasseltrommeln	rattle drums
摘奏太鼓	22	Zupftrommeln	plucked drums
擦奏太鼓	23	Reibtrommeln	friction drums
棒付き擦奏太鼓	231	Stab-Reibtrommeln	friction drums with stick
紐付き擦奏太鼓	232	Schnur-Reibtrommeln	friction drum with cord
手擦り式擦奏太鼓	233	Hand-Reibtrommeln	hand friction drums
歌奏太鼓 (ミルリトン)	24	Ansingtrommeln (Mirlitons)	singing membranes (kazoos)
自由ミルリトン	241	Freie Mirlitons	free kazoos
管型または器型ミルリトン	242	Röhren- und Gefäßmirlitons	tube- or vessel-kazoos
<b>弦鳴楽器</b>	<b>3</b>	<b>Chordophone</b>	<b>Chordophones</b>
単純弦鳴楽器またはツィター	31	Einfache Chordophone oder Zithern	simple chordophones or zithers
棒型 (胴) ツィター	311	Stabzithern	bar zithers
管型 (胴) ツィター	312	Röhrenzithern	tube zithers
筏型 (胴) ツィター	313	Floßzithern	raft zithers
板型 (胴) ツィター	314	Brettzithern	board zithers
槽型 (胴) ツィター	315	Schalenzithern	trough zithers
枠型 (胴) ツィター	316	Rahmenzithern	frame zithers
複合弦鳴楽器	32	Zusammengesetzte Chordophone	composite chordophones
リュート	321	Lauten	lutes
ハープ	322	Harfen	harps
ハープ・リュート	323	Harfenlauten	harp lutes
<b>気鳴楽器</b>	<b>4</b>	<b>Aerophone</b>	<b>Aerophones</b>
自由気鳴楽器	41	Freie Aerophone	free aerophones
側逸奏気鳴楽器	411	Ablenkungs-aerophone	displacement free aerophones
中断奏気鳴楽器	412	Unterbrechungs-aerophone	interruptive free aerophones
破裂奏気鳴楽器	413	Explosivaerophone	plosive aerophones
本来の吹奏楽器	42	(Eigentliche) Blasinstrumente	wind instruments proper
刃型 (エッジ) 付き吹奏楽器またはフルート	421	Schneideninstrumente oder Flöten	edge instruments or flutes
リードパイプ (有簧吹奏楽器)	422	Schalmeien	reedpipes
トランペット	423	Trompeten	trumpets
<b>電鳴楽器★</b>	<b>5</b>	<b>Elektrophone</b>	<b>Electrophones</b>
増幅楽器★	51		
電気楽器★	52		

★の電鳴楽器はホルンボステル=ザックス楽器分類表に本来ある番号ではなく、楽器データベースのために設定されたものである。なお、電鳴楽器を増幅楽器と電気楽器に区分する方法は、U. ミヒェルス編「図解音楽事典 (dtv-Atlas zur Musik)」にも採用されている。

ホルンボステル = ザックス楽器分類表

■ 細目表

分類名	番号	ドイツ語
体鳴楽器	1	Idiophone
打奏体鳴楽器	11	Schlag-Idiophone
直接打奏体鳴楽器	111	Unmittelbar geschlagene Idiophone
相互打奏体鳴楽器 (拍子木)	111.1	Gegenschlag-Idiophone oder Klappern
相互打奏棒 (棒型拍子木)	.11	Gegenschlagstäbe oder Stabklappern
相互打奏板 (板型拍子木)	.12	Gegenschlagplatten oder Plattenklappern
相互打奏溝付き板 (溝付き板型拍子木)	.13	Gegenschlagrinnenn oder Rinnenklappern
相互打奏容器 (器型拍子木)	.14	Gegenschlaggefäße oder Gefäßklappern
カスタネット	.141	Kastagnetten
シンバル	.142	Becken
単打奏体鳴楽器 (棒などで打ち鳴らす)	111.2	Aufschlag-Idiophone
単打奏棒	.21	Aufschlagstäbe
(独立) 単打奏棒	.211	(Selbständige) Aufschlagstäbe
単打奏棒のセット	.212	Schlagstabspiele
単打奏板	.22	Aufschlagplatten
(独立) 単打奏板	.221	(Selbständige) Aufschlagplatten
単打奏板のセット	.222	Schlagplattenspiele
単打奏管	.23	Aufschlagröhren
(独立) 単打奏管	.231	(Selbständige) Aufschlagröhren
単打奏管のセット	.232	Schlagröhrenspiele
単打奏容器	.24	Aufschlaggefäße
ゴング	.241	Gongs
(独立) ゴング	.241.1	(Selbständige) Gongs
ゴングのセット (ゴング・チャイム)	.241.2	Gongspiele
ベル	.242	Glocken
(独立) ベル	.242.1	(Selbständige) Glocken
置きベル	. .11	Standglocken
吊りベル	. .12	Hängeglocken
槌奏式吊りベル	. .121	Schlägel-Hängeglocken
舌奏式吊りベル	. .122	Klöppelglocken
ベルのセット (チャイム)	. .2	Glockenspiele (Unterteilung entsprechend)
置きベルのセット	. .21	
吊りベルのセット	. .22	
槌奏式吊りベルのセット	. .221	
舌奏式吊りベルのセット	. .222	
接尾番号 (体鳴楽器) :		Gemeinsame Schlußteilung:
鍵盤付き	-8	Mit Klaviatur
装置で動かすもの	-9	Mit mechanischem Antrieb

ホルンポステル = ザックス楽器分類表

英語	楽器名 [楽器名または地域]
Idiophones	
struck idiophones	
idiophones struck directly.	
concussion idiophones or clappers concussion sticks or stick clappers concussion plaques or plaque clappers concussion troughs or trough clappers concussion vessels or vessel clappers castanets cymbals	クラベス (チーカ) <small>レインゴラシ</small> <small>カウマロ</small> 笏拍子, 拍板, 四竹  カスタネット, ワー (ミアンマー) シンバル, 鈸, シー (ミアンマー), <small>ボウリン</small> 碰鈴 (中国) ターラム (南インド)
percussion idiophones percussion sticks (individual) percussion sticks sets of percussion sticks percussion plaques (individual) percussion plaques sets of percussion plaques percussion tubes (individual) percussion tubes sets of percussion tubes percussion vessels gongs (individual) gongs sets of gongs (gong chimes) bells (individual) bells resting bells suspended bells suspended bells struck from the outside clapper bells sets of bells (chimes)	トライアングル 木琴, 鉄琴  <small>キョウバク</small> <small>キョウバン</small> <small>キョウバク</small> 木鐸, 魚板, 特磬 <small>ビエンリオン</small> 編磬, チェレスタ, グンデル  ウッド・ブロック テュービュラー・ベル, <small>カク</small> 砧, トントン (フィリピン)  <small>カク</small> <small>カク</small> 鐃, 鈺, タムタム, Gong 雲鑼, ボナン・バロンおよびクノン (インドネシア=マラヤ)  <small>カク</small> 鑿  特鐘, 梵鐘, 半鐘 鈴, ディルブ (チベット)  <small>ビエンリオン</small> 編鐘 カリヨン
suffixes for use with any division of this class (idiophones): with keyboard mechanically driven	

ホルンボステル=ザックス楽器分類表

分類名	番号	ドイツ語
間接打奏体鳴楽器	112	Mittelbar geschlagene Idiophone
振奏体鳴楽器(ラットルまたはがらがら)	112.1	Schüttel-Idiophone oder Rasseln
列型ラットル	.11	Reihenrasseln
紐通しラットル	.111	Schnurrasseln
棒ラットル	.112	Stabrasseln
枠型ラットル	.12	Rahmenrasseln
振り子式ラットル	.121	Pendelrasseln
転滑式ラットル	.122	Gleitrasseln
器型ラットル	.13	Gefäßrasseln
搔擦奏体鳴楽器	112.2	Schrap-Idiophone
搔擦奏棒	.21	Schrapstäbe
共鳴体なし	.211	Schrapstäbe ohne Resonator
共鳴体付き	.212	Schrapstäbe mit Resonator
搔擦奏管	.22	Schrapröhren
搔擦奏容器	.23	Schrapgefäße
搔擦奏車輪または歯車ラットル	.24	Schrapräder oder Ratschen
裂弹奏体鳴楽器	112.3	Reiß-Idiophone
摘奏体鳴楽器	12	Zupf-Idiophone
枠型摘奏体鳴楽器	121	In Rahmenform
クリクリ	121.1	Cricri
口琴(ジューズ・ハーブまたはピヤボン)	121.2	Maultrommeln
切り出し舌式口琴	.21	Idioglotte Maultrommeln
取り付け舌式口琴	.22	Heteroglotte Maultrommeln
(単一) 取り付け舌式口琴	.221	(Selbständige) heteroglotte Maultrommeln
取り付け舌式口琴のセット	.222	Heteroglotte Maultrommelspiele
接尾番号(体鳴楽器):		Gemeinsame Schlußteilung:
鍵盤付き	-8	Mit Klaviatur
装置で動かすもの	-9	Mit mechanischem Antrieb



ホルンボステル = ザックス 楽器分類表

英 語	楽器名 [楽器名または地域]
indirectly struck idiophones	
shaken idiophones or rattles suspension rattles strung rattles stick rattles frame rattles pendant rattles sliding rattles vessel rattles	ジングル シストルム  しやくばし 鶏杖 アングルン (インドネシア = ジャバ) マラカス, カバサ
scraped idiophones scraped sticks scraped sticks without resonator scraped sticks with resonator scraped tubes scraped vessels scraped wheels or cog rattles	すりざさら, 南アメリカ, インド, コンゴ, レコ・レコ (アマゾン) 篋 (中国, 朝鮮) 南インド グイロ (キューバ) クレセル, インド
split idiophones	カーシク (イタリヤ), バルカン, 喚頭 (中国)
plucked idiophones	
in the form of a frame	
clack idiophones (oricri)	メラネシア
guimbardes (Jew's harps) idioglot guimbardes  heteroglot guimbardes (single) heteroglot guimbardes sets of heteroglot guimbardes	ムックリ (アフリカ), ロホ (台湾), オンナ (東南アジア), メラネシア マウルトロンメル (ドイツ) インド, 中国, ヨーロッパ アウラ (ヨーロッパ)
suffixes for use with any division of this class (idiophones): with keyboard mechanically driven	

ホルンボステル = ザックス楽器分類表

分類名	番号	ドイツ語
板型または櫛型撥奏体鳴楽器	122	In Brett- oder Kammform
紐巻き舌式 共鳴体なし	122.1	Mit aufgeschnürten Zungen Ohne Resonator
共鳴体付き	.12	Mit Resonator
切り出し舌式 (オルゴール)	122.2	Mit ausgeschnitten Zungen: Spieldosen
<b>擦奏体鳴楽器</b>	<b>13</b>	<b>Reib-Idiophone</b>
擦奏棒	131	Reibstäbe
(独立) 擦奏棒	131.1	(Selbständige) Reibstäbe
擦奏棒のセット 直接摩擦式	131.2	Reibstabspiele Mit unmittelbarer Friktion
間接摩擦式	.22	Mit mittelbarer Friktion
擦奏板	132	Reibplatten
(独立) 擦奏板	132.1	(Selbständige) Reibplatten
擦奏板のセット	132.2	Reibplattenspiele
擦奏容器	133	Reibgefäße
(独立) 擦奏容器	133.1	(Selbständige) Reibgefäße
擦奏容器のセット	133.2	Reibgefäßspiele
<b>吹奏体鳴楽器</b>	<b>14</b>	<b>Blas-Idiophone</b>
吹奏棒	141	Blasstäbe
(独立) 吹奏棒	141.1	(Selbständige) Blasstäbe
吹奏棒のセット	141.2	Blasstabspiele
吹奏板	142	Blasplatten
(独立) 吹奏板	142.1	(Selbständige) Blasplatten
吹奏板のセット	142.2	Blasplattenspiele
接尾番号 (体鳴楽器) :		Gemeinsame Schlußteilung:
鍵盤付き	-8	Mit Klaviatur
装置で動かすもの	-9	Mit mechanischem Antrieb

ホルンボステル = ザックス楽器分類表

英 語	楽器名 [楽器名または地域]
in board- or comb-form	
with laced-on lamellae without resonator with resonator	サンザ ラメラフォン、ムビラ、リケンベ (アソコラ、サハイ、サントアほか)
with cut-out lamellae (musical boxes)	オルゴール
<b>friction idiophones</b>	
friction sticks	
(individual) friction sticks	ザックスにより「不詳」とされている
sets of friction sticks with direct friction with indirect friction	ネイル・ヴァイオリン クラヴィシリンダー
friction plaques	
(individual) friction plaques	ザックスにより「不詳」とされている
sets of friction plaques [livikal]	ニュー・アイルランド島 (メラネシア)
friction vessels	
(individual) friction vessels	ブラジル
sets of friction vessels	グラス・ハーブ
<b>blown idiophones</b>	
blown sticks	
(individual) blown sticks	ザックスにより「不詳」とされている
sets of blown sticks	エオルスクラヴィア
blown plaques	
(individual) blown plaques	ザックスにより「不詳」とされている
sets of blown plaques	ピアノ・シャントウール
suffixes for use with any division of this class (idiophones): with keyboard mechanically driven	



ホルンボステル = ザックス 楽器分類表

英 語	楽器名 [楽器名または地域]
Membranophones	
struck drums	
drums struck directly	
kettle drums (timpani) (separate) kettle drums sets of kettle drums	ティンパニ、ナッカーラ
tubular drums cylindrical drums single-skin cylindrical drums open cylindrical drums closed cylindrical drums double-skin cylindrical drums (individual) cylindrical drums sets of cylindrical drums barrel-shaped drums  double-conical drums hourglass-shaped drums conical drums goblet-shaped drums * to be sub-divided like 211.21	ボンゴ  マラッカ 西インド諸島  小太鼓 (チ-ロウカ)  アジア、アフリカ、古代メキシコ  ムリダンガム (南インド) 小鼓 (日本)、メラネシア、東アフリカ、アジア インド ダラブッカ
<p>suffixes for use with any division of this class (membranophones):</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>with membrane glued to drum</li> <li>with membrane nailed to drum</li> <li>with membrane laced to drum</li> <li>cord-(ribbon-) bracing</li> <li>without special devices for stretching</li> <li>with tension ligature</li> <li>with tension loops</li> <li>with wedge-bracing</li> <li>*cord-and-hide bracing</li> <li>*cord-and-board bracing</li> <li>*cord-and-flange bracing</li> <li>*cord-and-belt bracing</li> <li>*cord-and-peg bracing</li> <li>(* To be sub-divided as -81 above)</li> <li>with membrane lapped on</li> <li>with membrane lapped on by ring of cord</li> <li>with membrane lapped on by a hoop</li> <li>without mechanism</li> <li>with mechanism</li> <li>without pedal</li> <li>with pedals</li> </ul>	

ホルンボステル = ザックス 楽器分類表

分類名	番号	ドイツ語
枠型(胴)太鼓(枠太鼓) 無柄式枠型(胴)太鼓 片面(皮) 両面(皮) 有柄式枠型(胴)太鼓 片面(皮) 両面(皮)	211.3 .31 .311 .312 .32 .321 .322	Rahmentrommeln Rahmentrommeln (ohne Stiel) Einfellige Rahmentrommeln Zweifellige Rahmentrommeln Stieltrommeln Einfellige Stieltrommeln Zweifellige Stieltrommeln
振奏太鼓(間接打奏太鼓; 211直接打奏太鼓のように 下位区分される)	212	Rasseltrommeln (Unterteilung wie bei den unmittelbar geschlagenen Trommeln)
鍋型(胴)太鼓	212.1	
筒型(胴)太鼓 円筒型(胴)太鼓 樽型(胴)太鼓 片面(皮) 両面(皮) (個々の) 樽型(胴)太鼓のセット 二重円錐型(胴)太鼓 砂時計型(胴)太鼓 円錐型(胴)太鼓 杯型(胴)太鼓	212.2 .21 .22 .221 .222 . .1 . .2 .23 .24 .25 .26	
枠型(胴)太鼓	.3	
接尾番号(膜鳴楽器): 膜がかわ付けされたもの 膜が釘付けされたもの 膜が紐でかがられたもの 紐(リボン)で張ったもの 引き伸ばしに特別な仕掛けを伴わないもの 張りつめた紐を伴うもの 張りつめた輪を伴うもの 楔の支柱を伴うもの *紐と皮で張ったもの *紐と板で張ったもの *紐と輪罫(フランク)で張ったもの *紐と帯で張ったもの *紐と止め釘で張ったもの (*-81のように下位分類される) 膜が締めつけられたもの 紐の輪によって締めつけられた膜を伴うもの 輪によって締めつけられた膜を伴うもの 装置なし 装置付き ペダルなし ペダル付き	-6 -7 -8 -81 -811 -812 -813 -814 -82* -83* -84* -85* -86* -9 -91 -92 -921 -922 -9221 -9222	Gemeinsame Schlußteilung: Mit aufgeklebtem Fell Mit aufgenageltem Fell Mit aufgeschnürtem Fell Schnur-(Riemen-)Schnürung Ohne besondere Spannvorrichtung Mit Spannligatur Mit Spannringen Mit Spannkeilen *Schnur-Fell-Schnürung *Schnur-Brett-Schnürung *Schnur-Wulst-Schnürung *Schnur-Gurt-Schnürung *Schnur-Pflock-Schnürung (* Unterteilen wie oben -81) Mit angeklebtem Fell Mit Schnurklemmung Mit Reifeneinklemmung Ohne Maschinerie Mit Maschinerie Ohne Pedale Mit Pedalen

英 語	楽器名 [楽器名または地域]
frame drums frame drums (without handle) single-skin frame drums double-skin frame drums frame drum with handle single-skin frame drums with handle double-skin frame drums with handle	ダブ, タンブリン アドウフェ (オ'ルカ), カーハ (中南米), 北アフリカ  エスキモー ソーゴ (朝鮮), 題目太鼓 (日本), チベット
rattle drums (sub-divisions as for drums struck directly, 211)	
	でんでん太鼓, 鼗          ダマル (マイク)
suffixes for use with any division of this class (membranophones): with membrane glued to drum with membrane nailed to drum with membrane laced to drum cord-(ribbon-) bracing without special devices for stretching with tension ligature with tension loops with wedge-bracing *cord-and-hide bracing *cord-and-board bracing *cord-and-flange bracing *cord-and-belt bracing *cord-and-peg bracing (* To be sub-divided as -81 above) with membrane lapped on with membrane lapped on by ring of cord with membrane lapped on by a hoop without mechanism with mechanism without pedal with pedals	

ホルンボステル = ザックス楽器分類表

分類名	番号	ドイツ語
摘奏太鼓	22	Zupftrommeln
擦奏太鼓	23	Reibtrommeln
棒付き擦奏太鼓	231	Stab-Reibtrommeln
差し込み式棒付き擦奏太鼓	231.1	Mit durchgestecktem Stab-Reibtrommeln
固定差し込み式	.11	Fesselstab-Reibtrommeln
半固定差し込み式	.12	Halbfreistab-Reibtrommeln
可動差し込み式	.13	Freistab-Reibtrommeln
取り付け式棒付き擦奏太鼓	231.2	Mit aufgebundenem Stab-Reibtrommeln
紐付き擦奏太鼓	232	Schnur-Reibtrommeln
紐付き擦奏置き太鼓	232.1	Stehende Schnur-Reibtrommeln
片面(皮)	.11	Einfellige stehende Schnur-Reibtrommeln
両面(皮)	.12	Zweifellige stehende Schnur-Reibtrommeln
紐付き擦奏振り太鼓	232.2	Geschwungene Schnur-Reibtrommeln
手擦り式擦奏太鼓	233	Hand-Reibtrommeln
歌奏太鼓(ミルリトン)	24	Ansingtrommeln (Mirlitons)
自由ミルリトン	241	Freie Mirlitons
管型または器型ミルリトン	242	Röhren- und Gefäßmirlitons
接尾番号(膜鳴楽器):		Gemeinsame Schlußbezeichnung:
膜がかわ付けされたもの	-6	Mit aufgeklebtem Fell
膜が釘付けされたもの	-7	Mit aufgenageltem Fell
膜が紐でかがられたもの	-8	Mit aufgeschnürtem Fell
紐(リボン)で張ったもの	-81	Schnur-(Riemen-)Schnürung
引き伸ばしに特別な仕掛けを伴わないもの	-811	Ohne besondere Spannvorrichtung
張りつめた紐を伴うもの	-812	Mit Spannligatur
張りつめた輪を伴うもの	-813	Mit Spannringen
楔の支柱を伴うもの	-814	Mit Spannkeilen
*紐と皮で張ったもの	-82*	*Schnur-Fell-Schnürung
*紐と板で張ったもの	-83*	*Schnur-Brett-Schnürung
*紐と輪罫(フランク)で張ったもの	-84*	*Schnur-Wulst-Schnürung
*紐と帯で張ったもの	-85*	*Schnur-Gurt-Schnürung
*紐と止め釘で張ったもの	-86*	*Schnur-Pflock-Schnürung
(*-81のように下位分類される)		(* Unterzuteilen wie oben -81)
膜が締めつけられたもの	-9	Mit angeklebtem Fell
紐の輪によって締めつけられた膜を伴うもの	-91	Mit Schnurklemmung
輪によって締めつけられた膜を伴うもの	-92	Mit Reifeneinklemmung
装置なし	-921	Ohne Maschinerie
装置付き	-922	Mit Maschinerie
ペダルなし	-9221	Ohne Pedale
ペダル付き	-9222	Mit Pedalen



ホルンボステル=ザックス楽器分類表

英語	楽器名 [楽器名または地域]
plucked drums	ゴビーヤントラ (イマ), コモク (アーナンド・ラハリ) (イマ)
friction drums	
friction drums with stick	
with inserted stick	
friction drums with fixed stick	アフリカ
friction drums with semi-fixed stick	アフリカ
friction drums with free stick	ベネズエラ
with tied stick	クイーカ (アタラ), ヨーロッパ
friction drums with cord	
stationary friction drums with cord	ヨーロッパ, アフリカ
single-skin stationary drums with friction-cord	
double-skin stationary drums with friction-cord	
friction drums with whirling stick	ヴァルトトイフェル (ドイツ), 東アフリカ, ギリギリピー (イマの玩具)
hand friction drums	
singing membranes (kazoos)	ヨーロッパ, 西アフリカ
free kazoos	
tube- or vessel-kazoos	<sup>チベット</sup> 大琴 (朝鮮), <sup>チベット</sup> 笛子 (中国)
suffixes for use with any division of this class (membranophones): with membrane glued to drum with membrane nailed to drum with membrane laced to drum cord-(ribbon-) bracing without special devices for stretching with tension ligature with tension loops with wedge-bracing *cord-and-hide bracing *cord-and-board bracing *cord-and-flange bracing *cord-and-belt bracing *cord-and-peg bracing (* To be sub-divided as -81 above) with membrane lapped on with membrane lapped on by ring of cord with membrane lapped on by a hoop without mechanism with mechanism without pedal with pedals	

ホルンボステル = ザックス 楽器分類表

分類名	番号	ドイツ語
弦鳴楽器	3	Chordophone
単純弦鳴楽器またはツィター	31	Einfache Chordophone oder Zithern
棒型(胴)ツィター	311	Stabzithern
楽弓 切り出し弦式楽弓 切り出し弦式単弦楽弓 切り出し弦式複弦楽弓 取り付け弦式楽弓 取り付け弦式単弦楽弓 共鳴体なし 調律用結び目なし 調律用結び目付き 共鳴体付き 付属の共鳴体 結合した共鳴体 調律用結び目なし 調律用結び目付き 取り付け弦式複弦楽弓 調律用結び目なし 調律用結び目付き	311.1 .11 .111 .112 .12 .121 .121.1 .11 .12 .2 .21 .22 .221 .222 .122 .1 .2	Musikbögen Idiochorde Musikbögen Mono-idiochorde Musikbögen Poly-idiochorde Musikbögen oder Harfenbögen Heterochorde Musikbögen Monoheterochorde Musikbögen Ohne Resonator Ohne Stimmschlinge Mit Stimmschlinge Mit Resonator Mit unverbundenem Resonator Mit verbundenem Resonator Ohne Stimmschlinge Mit Stimmschlinge Polyheterochorde Musikbögen Ohne Stimmschlinge Mit Stimmschlinge
楽棒 弓型楽棒 (本来の)楽棒 単数共鳴器付き楽棒 複数共鳴器付き楽棒	311.2 .21 .22 .221 .222	Musikstäbe Musikbogenstäbe (Eigentliche) Musikstäbe Mit einer einzigen Resonanzkalebasse Mit mehreren Resonanzkalebassen
接尾番号(弦鳴楽器): ハンマーまたは棒によって鳴らされるもの 素手の指によって鳴らされるもの プレクトラムによって鳴らされるもの 次のような擦奏法によって鳴らされるもの 弓を伴う 車輪による リボン(紐)による 鍵盤を伴うもの 器械装置動力を伴うもの	-4 -5 -6 -7 -71 -72 -73 -8 -9	Gemeinsame Schlußteilung: Mit Hammer- oder Schlägelspielart Mit Fingerspielart Mit Plektrumspielart Mit Streichspielart Bogen Rad Band Mit Klaviatur Mit mechanischem Antrieb

ホルンボステル = ザックス楽器分類表

英語	楽器名 [楽器名または地域]
Chordophones	
simple chordophones or zithers	ツィター
bar zithers	
musical bows	
idiochord musical bows	
mono-idiochord musical bows	ニューギニア, トーゴ
poly-idiochord musical bows or harp-bows	西アフリカ
heterochord musical bows	
mono-heterochord musical bows	
without resonator	
without tuning noose	ガンザ (アフリカ)
with tuning noose	ンクンゴ, ウタ (南赤道アフリカ)
with resonator	
with independant resonator	ブソイ (モザンビーク), 梓弓 (日本)
with resonator attached	
without tuning noose	ハデ, ソモ (インド), ビリンバウ (アッサム)
with tuning noose	グボ (マダガスカル), フンゴ, ボブレ, ウマクウェヤナ (アフリカ南東部)
poly-heterochord musical bows	
without tuning noose	カロヴェ (インド)
with tuning noose	パゴロ (インド)
stick zithers	
musical bow cum stick	東南アジア
(true) stick zithers	
with one resonator gourd	トウイラ (インド), スレツペ (タイ)
with several resonator gourds	ヴィチトラ・ヴィーナー (インド)
suffixes for use with any division of this class (chordophones): sounded by hammers or beaters sounded with the bare fingers sounded by plectrum sounded by bowing with a bow by a wheel by a ribbon [Band] with keyboard with mechanical drive	

ホルンボステル = ザックス 楽器分類表

分類名	番号	ドイツ語
管型(胴) ツィター	312	Röhrenzithern
完全管型(胴) ツィター	312.1	Vollröhrenzithern
切り出し弦式完全管型(胴) ツィター	.11	Idiochorde (Voll-) Röhrenzithern
取り付け弦式完全管型(胴) ツィター	.12	Heterochorde (Voll-) Röhrenzithern
特別の共鳴体なし	.121	Ohne besonderen Resonator
特別の共鳴体付き	.122	Mit besonderen Resonator
不完全管型(胴) ツィター	312.2	Halbröhrenzithern
切り出し弦式不完全管型(胴) ツィター	.21	Idiochorde Halbröhrenzithern
取り付け弦式不完全管型(胴) ツィター	.22	Heterochorde Halbröhrenzithern
<small>いしむね</small> 筏型(胴) ツィター	313	Floßzithern
切り出し弦式筏型(胴) ツィター	313.1	Idiochorde Floßzithern
取り付け弦式筏型(胴) ツィター	313.2	Heterochorde Floßzithern
板型(胴) ツィター	314	Brettzithern
(本来の) 板型(胴) ツィター	314.1	(Eigentliche) Brettzithern
共鳴体なし	.11	Ohne Resonator
共鳴体付き	.12	Mit Resonator
共鳴殻式	.121	Mit Resonanzschale
共鳴箱式(箱型) ツィター	.122	Mit Resonanzkasten (Kastenzither)
板型(胴) ツィターの変種	314.2	Uneigentliche Brettzithern
地面ツィター	.21	Erdzithern
ハープ型ツィター	.22	Harfenzithern
接尾番号(弦鳴楽器):		Gemeinsame Schlußteilung:
ハンマーまたは棒によって鳴らされるもの	-4	Mit Hammer- oder Schlägelspielart
奏手の指によって鳴らされるもの	-5	Mit Fingerspielart
プレクトラムによって鳴らされるもの	-6	Mit Plektrumspielart
次のような擦奏法によって鳴らされるもの	-7	Mit Streichspielart
弓を伴う	-71	Bogen
車輪による	-72	Rad
リボン(紐)による	-73	Band
鍵盤を伴うもの	-8	Mit Klaviatur
器械装置動力を伴うもの	-9	Mit mechanischem Antrieb

ホルンボステル=ザックス楽器分類表

英 語	楽器名〔楽器名または地域〕
tube zithers	
whole-tube zithers idiochord (true) tube zithers heterochord (true) tube zithers without extra resonator with extra resonator	アフリカ、ゴンラ (イノネツア)、トーゴ (フィリピン)、 ヴァリハ (マダガスカル)、クリビ (フィリピン) ヴァリハ (スチール弦、マダガスカル)  ササンド (フィリピン)
half-tube zithers idiochord half-tube zithers	フロレス島
heterochord half-tube zithers	箏、古琴 (中国)、玄琴 (朝鮮)
raft zithers	
idiochord raft zithers	インド、ギニア、コンゴ、ふいんぐる三線 (八重山)
heterochord raft zithers	北ニアサ地域
board zithers	
true board zithers without resonator with resonator with resonator bowl with resonator box (box zither)	ボルネオ  ニアサ地域 (アフリカ南部) ツイター、ダルシマー、ピアノ、揚琴 (中国)、カーヌーン、 カンテレ (フィリピン)
board zither variations ground zithers harp zithers	マダガスカル ボルネオ
<p>suffixes for use with any division of this class (chordophones):</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>sounded by hammers or beaters</li> <li>sounded with the bare fingers</li> <li>sounded by plectrum</li> <li>sounded by bowing</li> <li>with a bow</li> <li>by a wheel</li> <li>by a ribbon [Band]</li> <li>with keyboard</li> <li>with mechanical drive</li> </ul>	

ホルンボステル = ギャックス楽器分類表

分類名	番号	ドイツ語
槽型(胴) ツィター	315	Schalenzithern
共鳴体なし	315.1	Ohne Resonator
共鳴体付き	315.2	Mit Resonator
枠型(胴) ツィター	316	Rahmenezithern
共鳴体なし	316.1	Ohne Resonator
共鳴体付き	316.2	Mit Resonator
複合弦鳴楽器	32	Zusammengesetzte Chordophone
リュート	321	Lauten
弓型柄リュート	321.1	Bogenlauten
ヨーク・リュートまたはリラ	321.2	Jochlauten oder Leiern
椀型(胴)	.21	Schalenleiern
箱型(胴)	.22	Kastenleiern
棹型柄リュート	321.3	Stiellauten
差し込み柄式リュート(スパイク・リュート)	.31	Spießlauten
鉢(椀)型(胴)差し込み柄リュート	.311	Schalen-Spießlauten
箱型(胴)差し込み柄リュートまたは差し込み柄ギター	.312	Kasten-Spießlauten oder Spießgitarren
筒型(胴)差し込み柄リュート	.313	Röhrenlauten
頸柄式リュート(ネック・リュート)	.32	Halslauten
鉢(椀)型(胴)頸柄リュート	.321	Schalen-Halslauten
箱型(胴)頸柄リュートまたは頸柄ギター	.322	Kasten-Halslauten oder Halsgitarren
接尾番号(弦鳴楽器):		Gemeinsame Schlußteilung:
ハンマーまたは棒によって鳴らされるもの	-4	Mit Hammer- oder Schlägelspielart
奏手の指によって鳴らされるもの	-5	Mit Fingerspielart
プレクトラムによって鳴らされるもの	-6	Mit Plektrumspielart
次のような擦奏法によって鳴らされるもの	-7	Mit Streichspielart
弓を伴う	-71	Bogen
車輪による	-72	Rad
リボン(紐)による	-73	Band
鍵盤を伴うもの	-8	Mit Klaviatur
器械装置動力を伴うもの	-9	Mit mechanischem Antrieb

ホルンボステル = ザックス楽器分類表

英 語	楽器名 [楽器名または地域]
trough zithers	東アフリカ
without resonator	
with resonator	
frame zithers	
without resonator	
with resonator	カニ (西アフリカ)
composite chordophones	
lutes	
bow lutes (pluriarco)	アカム, カラング, ワンビ (アフリカ)
yoke lutes or lyres	
bowl lyres	リラ, キタラ, リトゥング, クラール
box lyres	キタラ, クルース
handle lutes	
spike lutes	
spike bowl lutes	ペルシア, インド, インドネシア
spike box lutes or spike guitars	ラバープ (イラン), 三味線
spike tube lutes	フーゴン 胡琴 (中国), インドシナ
necked lutes	
necked bowl lutes	マンドリン, テオルボ, バララーイカ, 琵琶, ウード,
necked box lutes or necked guitars	サーランギー, シタール, チャランゴ ヴァイオリン, ヴィオラ・ダ・ガンバ, ギター
<p>suffixes for use with any division of this class (chordophones):</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>sounded by hammers or beaters</li> <li>sounded with the bare fingers</li> <li>sounded by plectrum</li> <li>sounded by bowing</li> <li>with a bow</li> <li>by a wheel</li> <li>by a ribbon [Band]</li> <li>with keyboard</li> <li>with mechanical drive</li> </ul>	

ホルンボステル = ザックス楽器分類表

分類名	番号	ドイツ語
ハープ	322	Harfen
<small>カク</small> 曲頭型ハープ 弓型ハープ  角型ハープ	322.1 .11  .12	Bügelharfen Bogenharfen  Winkelharfen
枠型ハープ 調律装置を持たないもの 全音階式枠型ハープ 半音階式枠型ハープ 一平面内に弦を持ったもの 互いに交差する2つの平面内に 弦を持つもの 調律装置を伴うもの ハンドル型ハープ ペダル型ハープ	322.2 .21 .211 .212 . .1 . .2  .22 .221 .222	Rahmenharfen Ohne UmstimmungsVorrichtung Diatonische Rahmenharfen Chromatische Rahmenharfen Mit einer einzigen Saitenebene Mit zwei gekreuzten Saitenebenen  Umstimmharfen Manualharfen Pedalharfen
ハープ・リュート	323	Harfenlauten
接尾番号（弦鳴楽器）： ハンマーまたは棒によって鳴らされるもの 素手の指によって鳴らされるもの プレクトラムによって鳴らされるもの 次のような撥奏法によって鳴らされるもの 弓を伴う 車輪による リボン（紐）による 鍵盤を伴うもの 器械装置動力を伴うもの	-4 -5 -6 -7 -71 -72 -73 -8 -9	Gemeinsame Schlußteilung: Mit Hammer- oder Schlägelspielart Mit Fingerspielart Mit Plektrumspielart Mit Streichspielart Bogen Rad Band Mit Klaviatur Mit mechanischem Antrieb



ホルンボステル = ザックス 楽器分類表

英 語	楽器名 [楽器名または地域]
harps	
open harps arched harps	サウン・ガウ (マンマ)、鳳首箏篋、アルディーン (E-992P)
angular harps	竖箏篋、アッシリア、古代エジプト
frame harps without tuning action diatonic frame harps chromatic frame harps with the strings in one plane with the strings in two planes crossing one another with tuning action with manual action with pedal action	中世ヨーロッパのハーブ  古い半音階式ハーブの大部分 リヨンの半音階式ハーブ  ハルピネラ 現代のペダル・アクション・ハーブ
harp lutes	カツソ、コーラ (西アフリカ)
<p>suffixes for use with any division of this class (chordophones):</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>sounded by hammers or beaters</li> <li>sounded with the bare fingers</li> <li>sounded by plectrum</li> <li>sounded by bowing</li> <li>with a bow</li> <li>by a wheel</li> <li>by a ribbon (Band)</li> <li>with keyboard</li> <li>with mechanical drive</li> </ul>	

ホルンボステル=ザックス楽器分類表

分類名	番号	ドイツ語
気鳴楽器	4	Aerophone
自由気鳴楽器	41	Freie Aerophone
側逸奏気鳴楽器	411	Ablenkungs-aerophone
中断奏気鳴楽器	412	Unterbrechungs-aerophone
自鳴中断奏気鳴楽器またはリード	412.1	Selbstklingende Unterbrechungs-aerophone oder Zungen
打ち合わせリード	.11	Gegenschlagzungen
打ち付けリード	.12	Aufschlagzungen
(独立) 打ち付けリード	.121	(Selbständige) Aufschlagzungen
打ち付けリードのセット	.122	Aufschlagzungen-spiele
打ち通りリード(フリー・リード)	.13	Durchschlagzungen
(独立) 打ち通りリード	.131	(Selbständige) Durchschlagzungen
打ち通りリードのセット	.132	Durchschlagzungen-spiele
リボン・リード	.14	Bandzungen
非自鳴中断奏気鳴楽器	412.2	Nichtselbstklingende Unterbrechungs-instrumente
移動中断奏気鳴楽器	.21	Wand-aerophone
旋回中断奏気鳴楽器	.22	Wirbel-aerophone
破裂奏気鳴楽器	413	Explosiv-aerophone
接尾番号(気鳴楽器):	Gemeinsame Schluß-teilung:	
空気の貯蔵器を伴う	-6	Mit Windbehälter
硬質の	-61	Mit starrem Windbehälter
柔軟な	-62	Mit flexibelem Windbehälter
指孔ストップを伴う	-7	Mit Griffloch-verschluß
音栓装置を伴う	-71	Mit Klappenmechanik
紐装置を伴う	-72	Mit Bandmechanik
鍵盤を伴う	-8	Mit Klaviatur
装置を伴う	-9	Mit mechanischem Antrieb

ホルンボステル = ザックス楽器分類表

英 語	楽器名 [楽器名または地域]
Aerophones	
free aerophones	
displacement free aerophones	剣
interruptive free aerophones	
idiophonic interruptive aerophones or reeds concussion reeds percussion reeds (individual) percussion reeds sets of percussion reeds free reeds (individual) free reeds sets of free reeds ribbon reeds	オルガンのリード・パイプ  ブリティッシュ・コロンビア (カカ) オルガンの古式のリード・ストップ  単音の自動車警笛 ハルモニウム, ハーモニカ, 笙, アコーディオン, ケーン (パイプ) ブリティッシュ・コロンビア (カカ)
non-idiophonic interruptive instruments rotating aerophones whirling aerophones	サイレン ブルローラー, うなり盤, 翼型送風機, 鳴りかぶら
plosive aerophones	空気銃
suffixes for use with any division of this class (aerophones): with air reservoir with rigid air reservoir with flexible air reservoir with fingerhole stopping with keys with Bandmechanik (presumably a perforated roll or ribbon) with keyboard with mechanical drive	

ホルンボステル = ザックス 楽器分類表

分類名	番号	ドイツ語
本来の吹奏楽器	42	(Eigentliche) Blasinstrumente
刃型(エッジ)付き吹奏楽器またはフルート	421	Schneideninstrumente oder Flöten
風路(ダクト)なしのフルート	421.1	Flöten ohne Kernspalte
縦吹きフルート	.11	Längsflöten
単一の縦吹きフルート	.111	Einzellängsflöten
開管型単一縦吹きフルート	.1	Offene Einzellängsflöten
指孔なし	.11	Ohne Grifflöcher
指孔付き	.12	Mit Grifflöchern
閉管型単一縦吹きフルート	.2	Gedackte Einzellängsflöten
指孔なし	.21	Ohne Grifflöcher
指孔付き	.22	Mit Grifflöchern
縦吹きフルートのセット(パンパイプ)	.112	Längsflötenspiele oder Panflöten
開管型パンパイプ管型パンパイプ	.1	Offene Panflöten
筏式開管型パンパイプ	.11	Offene (Floß-) Panflöten
束式開管型(パン)パイプ	.12	Offene Bündel-(Pan-)flöten
閉管型パンパイプ	.2	Gedackte Panflöten
開管閉管複合型パンパイプ	.3	Kombiniert offene und gedackte Panflöten
横吹きフルート	.12	Querflöten
単一の横吹きフルート	.121	Einzelquerflöten
開管型横吹きフルート	.1	Offene Querflöten
指孔なし	.11	Ohne Grifflöcher
指孔付き	.12	Mit Grifflöchern
半閉管型横吹きフルート	.2	Halbgedackte Querflöten
閉管型横吹きフルート	.3	Gedackte Querflöten
指孔なし	.31	Ohne Grifflöcher
固定底付き	.311	Mit festem Mündungsboden
移動底付き(ピストン・フルート)	.312	Mit verschiebbarem Mündungsboden (Stempelflöten)
指孔付き	.32	Mit Grifflöchern
横吹きフルートのセット	.122	Querflötenspiele
開管型	.1	Offene Querflötenspiele
閉管型	.2	Gedackte Querflötenspiele
器型フルート(明白な吹き口の無い)	.13	Gefäßflöten (ohne ausgebildeten Schnabel!)
接尾番号(気鳴楽器):	Gemeinsame Schlußteilung:	
空気の貯蔵器を伴う	-6	Mit Windbehälter
硬質の	-61	Mit starrem Windbehälter
柔軟な	-62	Mit flexibelem Windbehälter
指孔ストップを伴う	-7	Mit Grifflochverschluss
音栓装置を伴う	-71	Mit Klappenmechanik
紐装置を伴う	-72	Mit Bandmechanik
鍵盤を伴う	-8	Mit Klaviatur
装置を伴う	-9	Mit mechanischem Antrieb

ホルンボステル = ザックス 楽器分類表

英 語	楽器名 [楽器名または地域]
wind instruments proper	
edge instruments or flutes	
flutes without duct	
end-blown flutes	
(single) end-blown flutes	
open single end-blown flutes	
without fingerholes	ベンガル
with fingerholes	ほとんど全世界, 尺八, ネイ, ケーナ, 洞簫 <sup>トウソウ</sup> (中国宋代以後)
stopped single end-blown flutes	
without fingerholes	
with fingerholes	ニューギニア
sets of end-blown flutes or panpipes	シュリンクス, シーク <sup>シーク</sup> (アフメ地方), 排簫 <sup>バイソウ</sup>
open panpipes	
open (raft) panpipes	洞簫 (中国漢代)
open bundle (pan-)pipes	ソロモン諸島, ビスマルク諸島
stopped panpipes	ナイ (ルミア), ヨーロッパ, 南アメリカ
mixed open and stopped panpipes	ソロモン諸島, 南アメリカ
side-blown flutes	
(single) side-blown flutes	
open side-blown flutes	
without fingerholes	ティモール島
with fingerholes	ヨーロッパのフルート, 龍笛 <sup>リウヒツ</sup> , 能管 (日本)
partly-stopped side-blown flutes	北西ボルネオ
stopped side-blown flutes	
without fingerholes	ザックスにより「存在しないと思われる」とされている
with fixed stopped lower end	ニューギニア
with adjustable stopped lower end (piston flutes)	
with fingerholes	東ベンガル
sets of side-blown flutes	
sets of open side-blown flutes	
sets of stopped side-blown flutes	北西ブラジル
vessel flutes (without distinct beak)	ブラジル, コンゴ, 南アフリカ, 土笛 <sup>ドク</sup> , 埙 <sup>クワン</sup>
suffixes for use with any division of this class (aerophones):	
with air reservoir	
with rigid air reservoir	
with flexible air reservoir	
with fingerhole stopping	
with keys	
with Bandmechanik (presumably a perforated roll or ribbon)	
with keyboard	
with mechanical drive	

ホルンボステル = ザックス楽器分類表

分類名	番号	ドイツ語
風路(ダクト)付きフルート	421.2	Flöten mit Kernspalte oder Spaltflöten
外側風路を伴うフルート	.21	Außenspaltflöten
外側風路を伴う(単一の)フルート	.211	(Einzelne) Außenspaltflöten
開管型	.1	Offene Außenspaltflöten
指孔なし	.11	Ohne Grifflöcher
指孔付き	.12	Mit Grifflöchern
半閉管型	.2	Halbgedackte Außenspaltflöten
閉管型	.3	Gedackte Außenspaltflöten
外側風路を伴うフルートのセット	.212	Außenspaltflötenspiele
内側風路を伴うフルート	.22	Innenspaltflöten
内側風路を伴う(単一の)フルート	.221	(Einzelne) Innenspaltflöten
開管型	.1	Offene Innenspaltflöten
指孔なし	.11	Ohne Grifflöcher
指孔付き	.12	Mit Grifflöchern
半閉管型	.2	Halbgedackte Innenspaltflöten
閉管型	.3	Gedackte Innenspaltflöten
指孔なし	.31	Ohne Grifflöcher
固定底付き	.311	Mit festem Mündungsboden
移動底付き	.312	Mit verschiebbarem Mündungsboden
風路(ダクト)付きの器型フルート	.4	Spalt-Gefäßflöten
指孔なし	.41	Ohne Grifflöcher
指孔付き	.42	Mit Grifflöchern
内側風路を伴うフルートのセット	.222	Innenspaltflötenspiele
開管型	.1	Offene Innenspaltflötenspiele
指孔なし	.11	Ohne Grifflöcher
指孔付き	.12	Mit Grifflöchern
半閉管型	.2	Halbgedackte Innenspaltflötenspiele
閉管型	.3	Gedackte Innenspaltflötenspiele
接尾番号(気鳴楽器):	Gemeinsame Schlußteilung:	
空気の貯蔵器を伴う	-6	Mit Windbehälter
硬質の	-61	Mit starrem Windbehälter
柔軟な	-62	Mit flexibelem Windbehälter
指孔ストップを伴う	-7	Mit Grifflochverschluß
音栓装置を伴う	-71	Mit Klappenmechanik
紐装置を伴う	-72	Mit Bandmechanik
鍵盤を伴う	-8	Mit Klaviatur
装置を伴う	-9	Mit mechanischem Antrieb

ホルンボステル＝ザックス楽器分類表

英語	楽器名 [楽器名または地域]
<p>flutes with duct or duct flutes                      flutes with external duct                      (single) flutes with external duct                      open flutes with external duct                      without fingerholes                      with fingerholes                      partly-stopped flutes with external duct                      stopped flutes with external duct                      sets of flutes with external duct                      flutes with internal duct                      (single) flutes with internal duct                      open flutes with internal duct                      without fingerholes                      with fingerholes                      partly-stopped flute with internal duct                      stopped flutes with internal duct                      without fingerholes                      with fixed stopped lower end                      with adjustable stopped lower end                      vessel flutes with duct                        without fingerholes                      with fingerholes                      sets of flutes with internal duct                      sets of open flutes with internal duct                      without fingerholes                      with fingerholes                      sets of partly-stopped flutes with internal duct                      sets of stopped flutes with internal duct</p>	<p>あんま笛 (日本), 中国, ボルネオ                      スリン (インドネシア)                        チベット                        呼子                        シグナル管 (ヨーロッパ)                      リコーダー                      インド, インドネシア                        シグナル管 (ヨーロッパ)                      スワニ・ホイッスル                        鳩笛                      オカリナ                        オルガンの開管フルー・パイプ                      複管フラジオレット                      オルガンのフルー・パイプ                      オルガンの閉管フルー・パイプ</p>
<p>suffixes for use with any division of this class (aerophones):                      with air reservoir                      with rigid air reservoir                      with flexible air reservoir                      with fingerhole stopping                      with keys                      with Bandmechanik (presumably a perforated roll or ribbon)                      with keyboard                      with mechanical drive</p>	

ホルンボステル＝ザックス楽器分類表

分類名	番号	ドイツ語
リードパイプ(有簧吹奏楽器)	422	Schalmeien
オーボエ (単一の)オーボエ 円筒状の管を伴う 指孔なし 指孔付き 円錐状の管を伴う オーボエのセット 円筒状の管を伴う 円錐状の管を伴う	422.1 .11 .111 .1 .2 .112 .12 .121 .122	Oboen Einzeloboen Mit zylindrischer Röhre Ohne Grifflöcher Mit Grifföchern Mit konischer Röhre Oboenspiele Mit zylindrischer Bohrung Mit konischer Bohrung
クラリネット (単一の)クラリネット 円筒状の管を伴う 指孔なし 指孔付き 円錐状の管を伴う クラリネットのセット	422.2 .21 .211 .1 .2 .212 .22	Klarinetten Einzelklarinetten Mit zylindrischer Röhre Ohne Grifflöcher Mit Grifföchern Mit konischer Röhre Klarinettenspiele
フリー・リード 単式 複式	.3 .31 .32	Durchschlagzungen-Schalmeien Einzelne Durchschlagzungen-Schalmeien Doppelte Durchschlagzungen-Schalmeien
接尾番号(気鳴楽器): 空気の貯蔵器を伴う 硬質の 柔軟な 指孔ストップを伴う 音栓装置を伴う 紐装置を伴う 鍵盤を伴う 装置を伴う		Gemeinsame Schlußteilung: -6 Mit Windbehälter -61 Mit starrem Windbehälter -62 Mit flexibelem Windbehälter -7 Mit Grifflochverschluß -71 Mit Klappenmechanik -72 Mit Bandmechanik -8 Mit Klaviatur -9 Mit mechanischem Antrieb



ホルンボステル = ザックス楽器分類表

英 語	楽器名 [楽器名または地域]
reedpipes	
oboes (single) oboes with cylindrical bore without fingerholes with fingerholes with conical bore sets of oboes with cylindrical bore with conical bore	ブリティッシュ・コロンビア (カナダ) アウロス, クルムホルン 普通にいうオーボエ, スルナーイー, シャハナーイ, 唢呐 (中国) 双管アウロス インド
clarinets (single) clarinets with cylindrical bore without fingerholes with fingerholes with conical bore sets of clarinets	ブリティッシュ・コロンビア (カナダ) 普通にいうクラリネット サクソフオーン ズンマーラ (アラブ, 北アフリカなど), ミトバジュ (イスラエル)
reedpipes with free reeds single pipes with free reed double pipes with free reed	インドネシア
suffixes for use with any division of this class (aerophones): with air reservoir with rigid air reservoir with flexible air reservoir with fingerhole stopping with keys with Bandmechanik (presumably a perforated roll or ribbon) with keyboard with mechanical drive	

ホルンポステル = ザックス楽器分類表

分類名	番号	ドイツ語
トランペット	423	Trompeten
自然トランペット	423.1	Naturtrompeten
ほら貝型トランペット	.11	Schnecken trompeten
上端吹き	.111	Mit endständigem Mundloch
マウスピースなし	.1	Ohne Mundstück
マウスピース付き	.2	Mit Mundstück
側面吹き	.112	Mit seitenständigem Mundloch
管型トランペット	.12	Röhrentrompeten
上端吹きトランペット	.121	Längstrompeten
上端吹き直状管	.1	Längstuben
マウスピースなし	.11	Ohne Mundstück
マウスピース付き	.12	Mit Mundstück
上端吹きホルン	.2	Längshörner
マウスピースなし	.21	Ohne Mundstück
マウスピース付き	.22	Mit Mundstück
側面吹きトランペット	.122	Quertrompeten
側面吹き直状管	.1	Quertuben
側面吹きホルン	.2	Querhörner
半音階式トランペット	423.2	Chromatische Trompeten
指孔式トランペット	.21	Griffloch trompeten
スライド式トランペット	.22	Zugtrompeten
ヴァルブ付きトランペット	.23	Ventiltrompeten
信号らっぱ	.231	Signalhörner
ホルン	.232	Waldhörner
トランペット	.233	Trompeten
接尾番号 (気鳴楽器) :	Gemeinsame Schlußteilung:	
空気の貯蔵器を伴う	-6	Mit Windbehälter
硬質の	-61	Mit starrem Windbehälter
柔軟な	-62	Mit flexibelem Windbehälter
指孔ストップを伴う	-7	Mit Grifflochverschluss
音栓装置を伴う	-71	Mit Klappenmechanik
紐装置を伴う	-72	Mit Bandmechanik
鍵盤を伴う	-8	Mit Klaviatur
装置を伴う	-9	Mit mechanischem Antrieb

ホルンボステル = ザックス楽器分類表

英 語	楽器名 [楽器名または地域]
trumpets	
natural trumpets conches end-blown without mouthpiece  with mouthpiece side-blown tubular trumpets end-blown trumpets end-blown straight trumpets without mouthpiece with mouthpiece end-blown horns without mouthpiece with mouthpiece side-blown trumpets side-blown straight trumpets side-blown horns	インド  ほら貝 (日本) オアセニア  デイジェリドゥー (オーストラリア) ほとんど全世界  アジア ルール  南アメリカ アフリカ
chromatic trumpets trumpets with fingerholes slide trumpets trumpets with valves valve bugles valve horns valve trumpets	ツィンク、有鍵ビューグル スライド・トランペット、トロンボーン ヨーロッパ  トラペット、コルネット
suffixes for use with any division of this class (aerophones): with air reservoir with rigid air reservoir with flexible air reservoir with fingerhole stopping with keys with Bandmechanik (presumably a perforated roll or ribbon) with keyboard with mechanical drive	

ホルンボステル=ザックス楽器分類表

分類名	番号	ドイツ語
電鳴楽器★	5	Elektrophone
増幅楽器★ ※「/」に続けて形状による2次分類(通常のHS番号)を付加する	51	
電気楽器★	52	

★の電鳴楽器はホルンボステル=ザックス楽器分類表に本来ある番号ではなく、楽器データベースのために設定されたものである。なお、電鳴楽器を増幅楽器と電気楽器に区分する方法は、U.ミヒェルス編「図解音楽事典(dtv-Atlas zur Musik)」にも採用されている。

ホルンボステル=ザックス楽器分類表

英 語	楽器名 [楽器名または地域]
Electrophones	

《資料2》

AVMC760分類表

この分類表は、AV/MARCのために、DDC20版に基いて作成されたものである。基本的には、NDCとの整合性をはかるために、DDCの780番代を760番代に置き換えた。日本での使用に適するように、日本音楽の項が加えられ、それに伴う若干の手直しが行われている。(日本音楽関係の詳細は検討中)

チャート式AVMC本表(楽器分類に関係する部分のみの抜粋)

「分類番号」欄以外に引用される分類番号のうち、760-769は、特に指示のない限りAVMC番号であるが、その他の番号は、その部度、DDC、NDCの別が示される。なお、AVMC番号が存在するのは760-769のみであり、AV/MARCにおいては、その他の番号は原則としてNDCを使用する。

ファセット構成法と例	分類番号	統一語と参照語(日本語形)
	763	<p>① 単声のための音楽 声</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>概要 763.001-.009 音楽細目 .01-.09 [一般原理および形式] .1 単声の組合わせ .2 単声 .3 高声 .4 中声 .5 低声 .6-.8 女声、児童、男声 .9 他の種類の声</p> </div>
<p>[構成法] (分類番号) + (表6b) [例] 世俗カンツナラ (分類番号) + (762.48)</p>	.9 .96 .97 .98 .99	<p>① 単声(他の種類の---)(声楽) ② 語り(単声の---)(声楽) ③ ユアレキタリング(単声の---)(声楽) ④ 口笛(単声の---)(声楽) ⑤ 声の楽器的使用(単声の---)(声楽) ガス 偽声(楽器) ディージェリト ミルトン ロフア(楽器)</p>
	> 766-768	<p>⑥ 個々の楽器およびその音楽 独奏楽器 独奏器楽曲</p>
<p>[構成法] (766) + (表8a)</p>	766	<p>⑦ 鍵盤楽器、機械楽器、電子楽器、打楽器</p> <p>機械楽器 鍵盤楽器(不特定の---) 鍵盤楽器(独奏曲) 弦鳴鍵盤楽器 打楽器 電子楽器</p>
<p>( ) = ファセット要素/網掛け部分を結合する 網掛けされている音楽細目は、内容が標準細目と共通</p>		<p>→ = 見よ ( ) = 注記・補足/観点を示す付加語 → = も見よ [ ] = 使用しない</p>
<p>◎ 統一語: DDC20の基本標目語の邦訳語 ○ 統一語: DDC20の合成標目語の邦訳語 ● 統一語: AVMC独自の基本標目語 ★ 統一語: AVMCの合成標目語</p> <p style="text-align: right;">AVMC基本標目語</p>		<p>&lt;h&gt; 参照語: DDC20の基本標目語 (統一語に採用されなかったもの) &lt;m&gt; 参照語: あるクラスの主要な部分である下位論題 &lt;u&gt; 参照語: 1:1になっている標目語の一単位 &lt;v&gt; 参照語: 別名注記の論題</p>

AVMC760 要目表

760	音楽
761	一般原理および音楽形式
762	声楽 声
763	単声のための音楽
764	楽器と合奏およびその音楽
765	1パートに1つの楽器のみの音楽
766	鍵盤楽器、機械楽器、電気・電子楽器、打楽器
767	弦楽器
768	管楽器
769	日本の音楽

統一語と参照語 (欧米語形)	注記
<p>Single voice, Music for &lt;m&gt; Voice, The</p>	<p>単声用声楽形式で、特定の声種またはその組合せのためのもののスコアおよびパート譜 →763 単声用声楽形式で、特定の声種またはその組合せを扱った著作・録音→762.1-4 特定の声楽形式や、特定の声種またはその組合せの演奏技術→当該の声種、組合せ、形式 例) 重唱曲の呼吸技術→763.5148 歌劇の呼吸技術→762.1148</p>
<p>Solo voice, Other type of (Vocal music) Speaking solo voice (Vocal music) Sprechgesang, Solo (Vocal music) Whistle, Solo (Vocal music) Voice instrument, Solo (Vocal music) &lt;s&gt; Kazoo &lt;s&gt; Voice disguiser (Musical instrument) &lt;s&gt; Didjeridu &lt;s&gt; Mirliton &lt;i&gt; Roarer (Musical instrument)</p>	<p>例) ティー・ジョー・エルトワ、ミルトン (カズー) 偽声 (人声の共鳴による音響効果) および大声を含む</p>
<p>Instrument and their music, Specific Solo instrument Music for solo instruments accompanied by one other instrument</p>	<p>例) 独奏楽器のための音楽 例) 補助的であることが明白な他の1つの楽器の伴奏を伴う独奏楽器のための音楽 現代楽器の先駆形は固有の番号のある場合を除き、現代楽器と一緒に分類する 例) オーボエの先駆形ジョー4には固有の番号がない →オーボエと共に768.52 ホルンの先駆者であるロウイラ →0767.86 (固有の番号) X767.87 (ホルン) 全般的著作→764 室内楽→765 声の楽器的使用→763.99</p>
<p>Keyboard, mechanical, electrophonic, percussion instrument &lt;u&gt; Mechanical instrument Keyboard instrument, Unspecified &lt;i&gt; Keyboard instrument (Solo music) Keyboard stringed instrument &lt;u&gt; Percussion instrument &lt;u&gt; Electrophonic instrument</p>	<p>例) 鍵盤楽器に関する全般的著作、弦鳴鍵盤楽器に関する全般的著作、不特定の鍵盤楽器用音楽はここに分類する</p>

音楽細目使用可のもの ○1「ここに分類せよ注記 (Class here ...)」/○2「一般的観点注記 (General aspects)」  
音楽細目使用・番号組立不可のもの ×1「含む (Including...)」注記/×2「包含 (Contains...)」注記/×3「例 (Examples:)」注記

<g> 参照語: 「一般的観点注記」の論題 (全下位区分に適用可の観点)	<d> 参照語: 「定義と範囲の注記」の論題	-syn 同意語
<c> 参照語: 「ここに分類せよ注記」の論題	-tla 意識語 (統一語・参照語が音訳語の場合)	-inv 倒置語
<s> 参照語: 「立ち見席注記」の論題	-tli 音訳語 (統一語・参照語が意識語の場合)	-drc 正置語
<i> 参照語: DDC20の関連索引の語	-sng 単数形の語	
	-plu 複数形の語 (特に必要な場合のみ)	

ファセット構成法と例	分類番号	統一語と参照語(日本語形)
[構成法] {766} + {表8a}	766(Cont.)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>概要</p> <p>766.2 ピアノ</p> <p>.3 クラヴィコト</p> <p>.4 ハープシコト</p> <p>.5 鍵盤管楽器 オルガン</p> <p>.6 機械楽器および風力による楽器</p> <p>.7 電気・電子楽器</p> <p>.8 打楽器</p> <p>.9 太鼓および打楽器効果用の装置</p> </div>
	> 766.2-.5	◎鍵盤楽器
	> 766.2-.4	◎弦鳴鍵盤楽器
<p>[構成法] {AUMC番号} + {表8a}</p> <p>参考: 表8aより</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>1a) 演奏会 078 = {766.778}</p> <p>2a) 関係者 092 = {766.092}</p> <p>2b) クラヴィコト 767.2092 = {766.2092} + {766.092}</p> <p>2c) クラヴィコト製作者 767.21092 = {766.21092} + {764.109} + {766.092}</p> <p>3a) 演奏技術 143 = {766.143}</p> <p>3b) 楽器演奏の技術 193 = {764.193}</p> <p>4a) ソナ形式 183 = {764.183}</p> </div>	<p>.2</p> <p>.2092</p> <p>.28</p> <p>.3</p> <p>.4</p> <p>.4092</p> <p>.5</p> <p>.5092</p> <p>.55</p> <p>.59</p> <p>.6</p> <p>&gt; 766.64-.69</p> <p>.64</p> <p>.65</p> <p>.66</p> <p>.67</p> <p>.68</p> <p>.69</p>	<p>◎ピアノ</p> <p>○ピアノ</p> <p>&lt;i-tla&gt;ピアノ奏者</p> <p>◎ピアノ・ピアノ</p> <p>◎クラヴィコト</p> <p>◎ハープシコト</p> <p>スピネット</p> <p>チェンバロ</p> <p>○ハープシコト奏者</p> <p>◎鍵盤管楽器</p> <p>オルガン(楽器)</p> <p>○オルガン奏者</p> <p>&lt;i-tli&gt;オルガニスト</p> <p>◎リット・オルガおよびリガ</p> <p>アメリカン・オルガン</p> <p>キビネット・オルガン</p> <p>ハモニア</p> <p>リガ</p> <p>◎電子オルガン</p> <p>鍵盤電子楽器</p> <p>◎機械楽器および風力楽器</p> <p>機械楽器(独奏曲)</p> <p>機械楽器</p> <p>風力楽器</p> <p>◎機械楽器</p> <p>◎機械で打つ体鳴楽器</p> <p>カリヨン</p> <p>機械化されたベル</p> <p>◎機械演奏体鳴楽器</p> <p>オルゴール</p> <p>シンフォニオン</p> <p>◎機械鍵盤楽器</p> <p>自動ピアノ</p> <p>ピアノ</p> <p>◎機械弦鳴楽器</p> <p>◎機械管楽器</p> <p>フェア・オルガン</p> <p>◎風力楽器</p> <p>&lt;tli&gt;イタリアン楽器</p>
<p>{ } = ファセット要素/網掛け部分を結合する                  網掛けされている音楽細目は、内容が標準細目と共通</p>		
<p>→ = 見よ ( ) = 注記・補足/観点を示す付加語                  ⇨ = も見よ [ ] = 使用しない</p> <p>◎ 統一語: DDC20の基本標目語の邦訳語                  ○ 統一語: DDC20の合成標目語の邦訳語                  ● 統一語: AUMC独自の基本標目語                  ★ 統一語: AUMCの合成標目語</p> <p>AVMC基本標目語</p> <p>&lt;h&gt; 参照語: DDC20の基本標目語                  (統一語に採用されなかったもの)                  &lt;m&gt; 参照語: あるクラスの主要な部分である下位論題                  &lt;u&gt; 参照語: エントリになっている標目語の単一位                  &lt;v&gt; 参照語: 別名注記の論題</p>		



統一語と参照語 (欧米語形)	注記
<p>Keyboard instrument</p> <p>Keyboard stringed instrument</p>	<p>全般的著作→766                      機械鍵盤楽器→766.66                      体鳴鍵盤楽器→766.83                      全般的著作→766</p>
<p>Piano</p> <p>&lt;i&gt; Pianist</p> <p>&lt;i&gt; Pianist</p> <p>Prepared piano</p> <p>Clavichord</p> <p>Harpsichord</p> <p>Spinet</p> <p>&lt;syn&gt; Cembalo</p> <p>&lt;i&gt; Harpsichordist</p> <p>Keyboard wind instrument</p> <p>&lt;m&gt; Organ (Musical instrument)</p> <p>&lt;i&gt; Organist</p> <p>&lt;i&gt; Organist</p> <p>Reed organ and regal</p> <p>&lt;v&gt; American organ</p> <p>&lt;v&gt; Cabinet organ</p> <p>&lt;v&gt; Harmonium</p> <p>&lt;u&gt; Regal</p> <p>Electronic organ</p> <p>Keyboard electrophone</p> <p>Mechanical and aeolian instrument</p> <p>&lt;i&gt; Mechanical musical instrument (Solo music)</p> <p>&lt;u&gt; Mechanical musical instrument</p> <p>&lt;u&gt; Aeolian instrument</p> <p>Mechanical instrument</p> <p>Mechanical struck idiophone</p> <p>&lt;s&gt; Carillons</p> <p>&lt;s&gt; Mechanized bells</p> <p>Mechanical plucked idiophone</p> <p>&lt;s&gt; Music box</p> <p>&lt;s&gt; Symphonion</p> <p>Mechanical keyboard instrument</p> <p>&lt;s&gt; Player piano</p> <p>&lt;s&gt; Pianola</p> <p>Mechanical stringed instrument</p> <p>Mechanical wind instrument</p> <p>&lt;s&gt; Fair organ</p> <p>Aeolian instrument</p> <p>Aeolian instrument</p>	<p>01 ヴァージナル、スピネットはここに分類する</p> <p>コンチェタイ→768.84                      アコーディオン→768.86</p> <p>リード・オルガンの別名：アメリカン・オルガン、キャビネット・オルガン、ハーモニウム</p> <p>01 鍵盤電子楽器に関する全般的著作はここに分類する                      演奏手段として使用される鍵盤電子楽器はここに分類する                      作曲手段として使用される電子楽器 →766.74                      電氣的増幅や電子的変化が加えられていても通常の発音方式による楽器と同じ場所に分類する 例) 電気ピアノ/766.2</p> <p>全般的著作→766.6                      *3 例) 機械化されたベル、カリヨン                      01 機械的な体鳴楽器に関する全般的著作はここに分類する                      機械で弾く体鳴楽器→766.65                      *3 例) オルゴール、シンフォニオン</p> <p>鍵盤に自動演奏機能が追加された機械楽器                      *3 例) 自動ピアノ(ピアノラ)                      機械的な鍵盤管楽器→766.68                      機械的な弦鳴鍵盤楽器→766.66                      *3 例) フェア・オルガン</p> <p>送風によって鳴る楽器</p>

音楽細目使用可のもの 01「ここに分類せよ注記 (Class here ...)」/02「一般的観点注記 (General aspects)」  
 音楽細目使用・番号組立不可のもの \*1「含む (Including...)」注記/\*2「包含 (Contains...)」注記/\*3「例 (Examples:)」注記

<g> 参照語：「一般的観点注記」の論題 (全下位区分に適用可の観点)	<d> 参照語：「定義と範囲の注記」の論題	-syn 同意語
<c> 参照語：「ここに分類せよ注記」の論題	-tla 意識語 (統一語・参照語が音訳語の場合)	-inv 倒置語
<s> 参照語：「立ち見席注記」の論題	-tli 音訳語 (統一語・参照語が意識語の場合)	-drc 正置語
<i> 参照語：DDC20の相関索引の語	-sng 単数形の語	
	-plu 複数形の語 (特に必要な場合のみ)	

ファセット構成法と例	分類番号	統一語と参照語（日本語形）
<p>[構成法] (AUMC番号) + (表8a) 参考：表8aより</p> <p>1a) 演奏会 078 = {760.78}</p> <p>2a) 関係者 092 = {760.92}</p> <p>2b) ユーライリスト 767.2092 = {767.2} + {760.92}</p> <p>2c) ユーライン製作者 767.21092 = {767.2} + {764.19} + {760.92}</p> <p>3a) 演奏技術 143 = {761.43}</p> <p>3b) 楽器演奏の技術 193 = {764.193}</p> <p>4a) ヴァ形式 183 = {764.183}</p>	<p>766.7</p> <p>.73</p> <p>.74</p>	<p>◎電鳴楽器 電子楽器 電気楽器 電鳴楽器（独奏曲）</p> <p>◎単声電鳴楽器 &lt;syn&gt;単声電子楽器 オート・マトノ テレシ</p> <p>◎シンセサイザー</p> <p>電子音楽</p>
	<p>.75</p> <p>.76</p>	<p>◎テープ（電鳴楽器） 具体音楽 磁気テープ ミュージック・コンクレート</p> <p>◎コンピュータ（電鳴楽器） &lt;syn?&gt;コンピュータ音楽</p>
<p>[構成法] (AUMC番号) + (表8a) 参考：表8aより</p> <p>1a) 演奏会 078 = {760.78}</p> <p>2a) 関係者 092 = {760.92}</p> <p>2b) ユーライリスト 767.2092 = {767.2} + {760.92}</p> <p>2c) ユーライン製作者 767.21092 = {767.2} + {764.19} + {760.92}</p> <p>3a) 演奏技術 143 = {761.43}</p> <p>3b) 楽器演奏の技術 193 = {764.193}</p> <p>4a) ヴァ形式 183 = {764.183}</p>	<p>.8</p> <p>.82</p> <p>.83</p> <p>&gt; 766.84-.87</p> <p>.84</p>	<p>◎打楽器 打楽器（独奏曲）</p> <p>◎体鳴楽器（振動する発音物質） 板（楽器） さお（楽器） 槽（楽器） 筒（楽器） フロック（楽器） 棒（楽器） 棒（楽器） 容器（楽器）</p> <p>◎鍵盤体鳴楽器 チェン</p> <p>◎複式体鳴楽器 ◎打奏体鳴楽器（複式） 複式打奏体鳴楽器</p>
<p>[構成法] (AUMC番号) + (766.8842-.8844) [例] 1) 棒状体鳴楽器 766.84 3 = {766.84} + {766.883}</p> <p>2) 棒状体鳴楽器の演奏会 766.84 3 078 = 766.84 3 + {760.78}</p>	<p>.842-.848</p> <p>.842</p> <p>.843</p> <p>.844</p>	<p>◎発音固体（個々の形状の—）</p> <p>○さお（複式打奏体鳴楽器） さお（打奏体鳴楽器）</p> <p>○棒（複式打奏体鳴楽器） グイフ・ラフオン グロックンシュピール スチール・ドラム 西インド諸島のスチール・ドラム 棒（打奏体鳴楽器） マリカ 木琴 ムサフン(?)</p> <p>○槽（複式打奏体鳴楽器） 槽（打奏体鳴楽器）</p>
<p>{ } = ファセット要素／網掛け部分を結合する 網掛けされている音楽細目は、内容が標準細目と共通</p> <p>→ = 見よ ( ) = 注記・補足／観点を示す付加語 → = も見よ [ ] = 使用しない</p> <p>◎ 統一語：DDC20の基本標目語の邦訳語 ○ 統一語：DDC20の合成標目語の邦訳語 ● 統一語：AUMC独自の基本標目語 ★ 統一語：AUMCの合成標目語</p> <p>AVMC基本標目語</p> <p>&lt;h&gt; 参照語：DDC20の基本標目語 (統一語に採用されなかったもの)</p> <p>&lt;m&gt; 参照語：あるクラスの主要な部分である下位論題</p> <p>&lt;u&gt; 参照語：11位になっている標目語の1単位</p> <p>&lt;v&gt; 参照語：別名注記の論題</p>		



統一語と参照語（欧米語形）	注記
<p>Electrophone                      &lt;m&gt; Electronic instrument                      &lt;m&gt; Electric instrument                      &lt;i&gt; Electrophones (Solo music)</p> <p>Monophonic electrophone                      Monophonic electronic instrument                      &lt;s&gt; Ondes martenot                      &lt;s&gt; Theremin                      Synthesizer</p> <p>Electronic music</p>	<p>01 電氣的に制作された、または操作された音声による音楽は、ここに分類する                      鍵盤電子楽器→766.59に                      鍵盤楽器以外の楽器を電氣的に増幅させたり変化させたりしたもの→当該楽器 例)電気ギター→767.87(ギター)                      単一音程の音を作る能力のある電子音発生装置                      ※例) オルト・マートノ、フレミン</p> <p>01 電子音楽はここに分類する                      作曲手段として用いられる電子楽器はここに分類する                      演奏手段として使用する鍵盤式電子楽器 →766.59                      テープ→766.75                      コンピューター→766.76</p>
<p>Tape (Electrophone)                      Concrete music                      &lt;i&gt; Magnetic tape                      Musique concrete                      Computer (Electrophone)                      Computer Music</p>	<p>01 ミュック・コンクレート(具体音楽)はここに分類する</p>
<p>Percussion instrument                      &lt;i&gt; Percussion instrument (Solo music)                      Idiophone (Vibrating sonorous solid)                      &lt;i&gt; Plate (Musical instrument)                      &lt;i&gt; Rod (Musical instrument)                      &lt;i&gt; Trough (Musical instrument)                      &lt;i&gt; Tube (Musical instrument)                      &lt;i&gt; Block (Musical instrument)                      &lt;i&gt; Stick (Musical instrument)                      &lt;i&gt; Bar (Musical instrument)                      &lt;i&gt; Vessel (Musical instrument)                      Keyboard idiophone                      Celesta                      Set idiophone                      Percussed idiophone (Set)                      &lt;syn&gt; Set percussed idiophone</p>	<p>太鼓→766.92-.98                      打楽器鳴楽器→767.7                      01 定まった音程を持つ打楽器に関する全般的著作はここに分類する                      音程が定まらない打楽器→766.88                      機械体鳴楽器→766.64                      鍵盤体鳴楽器→766.83                      複式体鳴楽器→766.84-.87                      単式体鳴楽器→766.88</p> <p>01 チェレスはここに分類する</p> <p>全般的著作→766.84                      01 発音しない物体で打つ、または発音しない物体を打つこと                      ことで発音する固体 例)地面を棒で打つ                      複式体鳴楽器(ひとつの楽器として構成された、複数の類似発音固体)はここに分類する                      弾く体鳴楽器→766.85                      摩擦する体鳴楽器→766.86                      打ち合わせる体鳴楽器→766.87</p>
<p>Sonorous solid of specific shapes (Set percussed idiophone)                      Rod (Set percussed idiophone)                      &lt;i&gt; Rod (Percussed idiophone)                      Bar (Set percussed idiophone)                      &lt;i&gt; Vibraphone                      &lt;i&gt; Glockenspiel                      &lt;i&gt; Steel drum                      &lt;i&gt; West Indian steel drum                      &lt;i&gt; Bar (Percussed idiophone)                      &lt;i&gt; Marimba                      &lt;i&gt; Xylophone                      Mendzan                      Trough (Set percussed idiophones)                      &lt;i&gt; Trough (Percussed idiophone)</p>	

音楽細目使用可のもの 01「ここに分類せよ注記(Class here...)」/02「一般的観点注記(General aspects)」  
 音楽細目使用・番号組立不可のもの ※1「含む(Including...」注記」/02「包含(Contains...」注記」/03「例(Examples:)」注記」

<p>&lt;g&gt; 参照語:「一般的観点注記」の論題                      (全下位区分に適用可の観点)</p>	<p>&lt;d&gt; 参照語:「定義と範囲の注記」の論題</p>	<p>-syn 同意語</p>
<p>&lt;o&gt; 参照語:「ここに分類せよ注記」の論題</p>	<p>-tla 意訳語(統一語・参照語が音訳語の場合)</p>	<p>-inv 倒置語</p>
<p>&lt;s&gt; 参照語:「立ち見席注記」の論題</p>	<p>-tli 音訳語(統一語・参照語が意訳語の場合)</p>	<p>-drc 正置語</p>
<p>&lt;i&gt; 参照語: DDC20の相関索引の語</p>	<p>-sng 単数形の語                      -plu 複数形の語(特に必要な場合のみ)</p>	

ファセット構成法と例	分類番号	統一語と参照語(日本語形)
<p>[構成法] {766.84} + {766.8842-8848}</p> <p>[例] 1) 棒状体鳴楽器 766.84 3 = {766.843} + {766.889}</p> <p>2) 棒状体鳴楽器の演奏会 766.84 3 078 = 766.84 3 + {766.878}</p>	<p>766.845</p> <p>.846</p> <p>.848</p>	<p>○筒(複式打奏体鳴楽器) 筒(打奏体鳴楽器)</p> <p>○容器(複式打奏体鳴楽器) 容器(打奏体鳴楽器)</p> <p>○ハム(複式打奏体鳴楽器) アングル チャム ハム(打奏体鳴楽器)</p>
<p>[構成法] {AUMC番号} + {表8a}</p>	<p>.85</p> <p>.86</p>	<p>◎摘奏体鳴楽器(複式) 棒(複式摘奏体鳴楽器) 棒(摘奏体鳴楽器) 親指ピッチ さお(摘奏体鳴楽器) さお(複式摘奏体鳴楽器) サハ サンガ</p> <p>◎擦奏体鳴楽器(複式)</p>
<p>[構成法] {766.86} + {766.8842-8848}</p> <p>[例] 1) 複数の容器(訳注:グラス・ホルモカ) 766.86 6 = {766.86} + {766.8848}</p> <p>2) 複数の容器のリハール 766.86 6 144 = 766.86 6 + {766.844}</p>	<p>.862-.868</p> <p>.862</p> <p>.863</p> <p>.864</p> <p>.865</p> <p>.866</p>	<p>◎発音固体(個々の形状の---)(複式擦奏体鳴楽器) ○さお(複式擦奏体鳴楽器) さお(擦奏体鳴楽器)</p> <p>○棒(複式擦奏体鳴楽器) サウンド・ペーパー・ブロック 棒(擦奏体鳴楽器)</p> <p>○槽(複式擦奏体鳴楽器) 槽(擦奏体鳴楽器)</p> <p>○筒(複式擦奏体鳴楽器) 筒(擦奏体鳴楽器)</p> <p>○容器(複式擦奏体鳴楽器) グラス・ホルモカ 容器(擦奏体鳴楽器)</p>
<p>[構成法] {766.87} + {表8a}</p>	<p>.87</p>	<p>◎相互打奏体鳴楽器</p>
<p>[構成法] {766.87} + {766.8842-8848}</p> <p>[例] 1) 拍子木 766.87 3 = {766.87} + {766.8848}</p> <p>2) 拍子木演奏のリハール 766.87 3 144 = 766.87 3 + {766.844}</p>	<p>.872-.878</p> <p>.872</p> <p>.873</p> <p>.874</p> <p>.875</p> <p>.876</p>	<p>◎発音物体(個々の形状の---)(相互打奏体鳴楽器) ○さお(相互打奏体鳴楽器) ウイント・チャム クラベス</p> <p>○棒(相互打奏体鳴楽器) カスネット シンバル</p> <p>○槽(相互打奏体鳴楽器)</p> <p>○筒(相互打奏体鳴楽器)</p> <p>○容器(相互打奏体鳴楽器)</p>
<p>{AUMC番号} + {表8a}</p>	<p>.88</p>	<p>◎単式体鳴楽器</p>
<p>( ) = ファセット要素/網掛け部分を結合する 網掛けされている音楽細目は、内容が標準細目と共通</p> <p>→ = 見よ ( ) = 注記・補足/観点を示す付加語 → = も見よ [ ] = 使用しない</p>		
<p>◎ 統一語: DDC20の基本標目語の邦訳語 ○ 統一語: DDC20の合成標目語の邦訳語 ● 統一語: AUMC独自の基本標目語</p> <p style="text-align: center;">AUMC基本標目語</p> <p>★ 統一語: AUMCの合成標目語</p>	<p>&lt;h&gt; 参照語: DDC20の基本標目語 (統一語に採用されなかったもの)</p> <p>&lt;m&gt; 参照語: あるクラスの主要な部分である下位論題</p> <p>&lt;u&gt; 参照語: エントになっている標目語の一単位</p> <p>&lt;v&gt; 参照語: 別名注記の論題</p>	

統一語と参照語（欧米語形）	注記
Tube (Set percussed idiophones) <i> Tube (Percussed idiophone) Vessel (Set percussed idiophones) <i> Vessel (Percussed idiophone) Bell (Set percussed idiophones) <i> Angklung <i> Chime <not in i> Bell (Percussed idiophones)	
Plucked idiophone (Set) <i> Bar (Set plucked idiophones) <i> Bar (Plucked idiophones) <s> Thumb piano <i> Rod (Plucked idiophones) <i> Rod (Set plucked idiophones) <i> Sape <s> Sanza Friction idiophone (Set)	✕ 通常は金属の弾性のある棒で、一方の端を固定し他方をはじいて振動させる 例) サンザ (親指ピアノ)  摩擦して一定の音程を発生する物体
Sonorous solid of specific shapes (Set friction idiophone) Rod (Set friction idiophone) <i> Rod (Friction idiophone) <i> Bar (Set friction idiophone) <i> Sandpaper block <i> Bar (Friction idiophone) <i> Trough (Set friction idiophone) <i> Trough (Friction idiophone) <i> Tube (Set friction idiophone) <i> Tube (Friction idiophone) Vessel (Set friction idiophone) 1 <?> Harmonica (Musical glasses) 2 <i> Musical glasses <i> Vessel (Friction idiophone)	
Concussion idiophone	2以上の類似の発音物体を打ち合わせて振動させる
Sonorous object of specific shapes (Concussion idiophone) <i> Rod (Concussion idiophone) <i> Wind chime <i> Claves Bar (Concussion idiophone) <i> Castanet <i> Cymbal Trough (Concussion idiophone) Tube (Concussion idiophone) Vessel (Concussion idiophone)	
Single idiophone	単一の発音物質による体鳴楽器 例 音程が定まらない打楽器に関する全般的著作はここに分類する 音程が定まらない個々の打楽器 → 当該楽器
音楽細目使用可のもの 例 「ここに分類せよ注記 (Class here ...)」 / 例 「一般的観点注記 (General aspects)」 音楽細目使用・番号組立不可のもの ✕ 「含む (Including... ) 注記」 / ✕ 「包含 (Contains... ) 注記」 / ✕ 「例 (Examples: ) 注記」	
<g> 参照語: 「一般的観点注記」の論題 (全下位区分に適用可の観点) <o> 参照語: 「ここに分類せよ注記」の論題 <s> 参照語: 「立ち見席注記」の論題 <i> 参照語: DDC20の関連索引の語	<d> 参照語: 「定義と範囲の注記」の論題 -tla 意訳語 (統一語・参照語が音訳語の場合) -tli 音訳語 (統一語・参照語が意訳語の場合) -sng 単数形の語 -plu 複数形の語 (特に必要な場合のみ) -syn 同意語 -inv 倒置語 -drc 正置語

ファセット構成法と例	分類番号	統一語と参照語(日本語形)
<p>() + (表8a)</p> <p>766.8842-.88485 「ATD#T」の入力形 スティックまたはさお (複式打奏体鳴楽器) 棒、板、アブロック (複式打奏体鳴楽器) 槽(複式打奏体鳴楽器) 筒(複式打奏体鳴楽器) 容器(複式打奏体鳴楽器) ハム(複式打奏体鳴楽器) ハム・ハム (複式打奏体鳴楽器)</p>	<p>766.884 .884 2 .884 3 .884 4 .884 5 .884 6 .884 8 .884 85 .885  .886  .887  .888  .9  .9092 &gt; 766.92-.98 .92 .93 .94</p>	<p>① 打奏体鳴楽器(単式) ① スティックまたはさお(単式打奏体鳴楽器) さお(単式打奏体鳴楽器) トライアングル ② 棒、板、アブロック(単式打奏体鳴楽器) 板(単式打奏体鳴楽器) 鉄敷 鉄床[カトコ] ゴング アブロック(単式打奏体鳴楽器) 木魚 ③ 槽(単式打奏体鳴楽器) ④ 筒(単式打奏体鳴楽器) ⑤ 容器(単式打奏体鳴楽器) ⑥ ハム(単式打奏体鳴楽器) カウハム ⑦ ハム・ハム(単式打奏体鳴楽器) ⑧ がらがる鳴る体鳴楽器 カハシ[?] シストラム マラカス ラットル ⑨ 撥奏体鳴楽器 グレイ 洗濯板 フットホールド・ラトル ラフエット ⑩ 摘奏体鳴楽器(単式) 口琴 さお(単式摘奏体鳴楽器) ジューズ・ホープ 棒(単式摘奏体鳴楽器) ⑪ 擦奏体鳴楽器(単式) さお(単式擦奏体鳴楽器) 槽(単式擦奏体鳴楽器) 筒(単式擦奏体鳴楽器) 鋸[ノコギリ](音楽) 棒(単式擦奏体鳴楽器) ミュージカル・ソー 容器(単式擦奏体鳴楽器) ⑫ 太鼓および打楽器効果用の装置 &lt;ti&gt; ドラム(音楽) 打楽器効果用の装置 ○太鼓奏者(音楽家) &lt;i-tti&gt;ドラマー(音楽家) ⑬ 太鼓 膜鳴楽器 ⑭ 打奏太鼓  ⑮ 錫形太鼓 タブラ ティンパニ  ナッカー ネカー ⑯ 筒形太鼓 小太鼓 サイド・ドラム スネア・ドラム</p>
<p>() = ファセット要素/網掛け部分を結合する 網掛けされている音楽細目は、内容が標準細目と共通</p> <p>◎ 統一語: DDC20の基本標目語の邦訳語 ○ 統一語: DDC20の合成標目語の邦訳語 ● 統一語: AUMC独自の基本標目語 ★ 統一語: AUMCの合成標目語</p> <p style="text-align: right;">AUMC基本標目語</p>	<p>→ = 見よ → = も見よ</p> <p>&lt;h&gt; 参照語: DDC20の基本標目語 (統一語に採用されなかったもの) &lt;m&gt; 参照語: あるクラスの主要な部分である下位論題 &lt;u&gt; 参照語: 1:1になっている標目語の単単位 &lt;v&gt; 参照語: 別名注記の論題</p>	<p>( ) = 注記・補足/観点を示す付加語 [ ] = 使用しない</p>

統一語と参照語（欧米語形）	注記
<p>Percussed idiophone (Single) Stick or rod (Single percussed idiophone) &lt;u&gt; Rod (Single percussed idiophone) &lt;s&gt; Triangle Bar, plate, block (Single percussed idiophone) &lt;u&gt; Plate (Single percussed idiophone) &lt;s&gt; Anvil &lt;s&gt; Anvil &lt;s&gt; Gong &lt;u&gt; Block (Single percussed idiophone) &lt;i&gt; Temple block (Single percussed idiophone) Trough (Single percussed idiophone) Tube (Single percussed idiophone) Vessel (Single percussed idiophone) Bell (Single percussed idiophone) &lt;i&gt; Cowbell Hand bell (Single percussed idiophone) Rattled idiophone &lt;i&gt; Cabaca &lt;s&gt; Sistrum &lt;s&gt; Maracas &lt;i&gt; Rattle Scraped idiophone &lt;i&gt; Guiro &lt;s&gt; Washboard &lt;s&gt; Football rattle &lt;i&gt; Ratchet Plucked idiophone (Single) &lt;s&gt; Jew's harp &lt;i&gt; Rod (Single plucked idiophone) &lt;s&gt; Jew's harp &lt;i&gt; Bars (Single plucked idiophone) Friction idiophone (Single) &lt;i&gt; Rod (Single friction idiophone) &lt;i&gt; Trough (Single friction idiophone) &lt;i&gt; Tube (Single friction idiophone) &lt;s&gt; Saw (Music) &lt;i&gt; Bar (Single friction idiophone) &lt;s&gt; Musical saw &lt;i&gt; Vessel (Single friction idiophone) Drum and device used for percussion effects</p> <p>Drum &lt;u&gt; Percussion effects, Device used for &lt;i&gt; Drummer (Musician) &lt;i&gt; Drummer (Musician) Drum &lt;i/c&gt; Membranophone Struck drum</p> <p>Kettle-shaped drum &lt;s&gt; Tabla &lt;s&gt; Kettledrum &lt;s&gt; Timpani Naqara &lt;s&gt; Naker Tubular drum &lt;s&gt; Side drum &lt;s&gt; Side drum &lt;s&gt; Snare drum</p>	<p>例) シンバル 766.873</p> <p>✕ 例) トライアングル</p> <p>✕ 例) 鉄敷、ゴング</p> <p>ベル→766.8848</p> <p>✕ 例) マラカス、シストラム</p> <p>2つの物体からなり、こすりつけられる片方には音を発生させるための刻みを入れてある体鳴楽器</p> <p>✕ 例) 洗濯板、フットボール・ラトル ✕ 例) 口琴 (ジューズ・ハープ)</p> <p>✕ 例) ミュージカル・ソー</p> <p>膜鳴楽器、膜を張って振動させる 全般的著作→766.9 鍋形太鼓→766.93 筒形太鼓→766.94 棒太鼓→766.95 ✕ 例) ティンパニ、ナッカー、タブラ</p> <p>✕ 例) 小太鼓 (サイド・ドラム)</p>

1  
2

音楽細目使用可のもの □「ここに分類せよ注記 (Class here ...)」/□「一般的観点注記 (General aspects)」  
音楽細目使用・番号組立不可のもの ✕「含む (Including...)」注記/✕「包含 (Contains...)」注記/✕「例 (Examples:)」注記

<g> 参照語: 「一般的観点注記」の論題 (全下位区分に適用可の観点)	<d> 参照語: 「定義と範囲の注記」の論題	-syn 同意語
<u> 参照語: 「ここに分類せよ注記」の論題	-tla 意訳語 (統一語・参照語が音訳語の場合)	-inv 倒置語
<s> 参照語: 「立ち見席注記」の論題	-tli 音訳語 (統一語・参照語が意訳語の場合)	-dro 正置語
<i> 参照語: DDC20の相関索引の語	-sng 単数形の語 -plu 複数形の語 (特に必要な場合のみ)	

ファセット構成法と例	分類番号	統一語と参照語（日本語形）																		
<p>[構成法] (AUMC番号) + (表8a)</p> <p>参考：表8aより</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>1a) 演奏会 078 = {760.078}</p> <p>2a) 関係者 092 = {760.092}</p> <p>2b) ユーイリニスト 767.2092 = {767.2092} + {760.092}</p> <p>2c) ユーイリニスト製作者 767.21092 = {767.21092} + {764.193} + {760.092}</p> <p>3a) 演奏技術 143 = {761.143}</p> <p>3b) 楽器演奏の技術 193 = {764.193}</p> <p>4a) ヴァリ形式 183 = {764.183}</p> </div>	<p>766.95</p> <p>.96</p> <p>.97</p> <p>.98</p> <p>.99</p>	<p>◎ 梓太鼓</p> <p>大太鼓 タムリン タムリン ホンゴ</p> <p>◎ 振奏太鼓</p> <p>◎ 摘奏太鼓</p> <p>◎ 撥奏太鼓</p> <p>クイカ ラクエット ロムボット ロムボット ロムボット</p> <p>◎ 打楽器効果用の装置</p> <p>空気銃 サリン むち モーターホーン</p>																		
	<p>767</p> <p>.2</p> <p>.2092</p> <p>.3</p> <p>.4</p> <p>.4092</p> <p>.5</p> <p>.6</p> <p>.62</p> <p>.63</p> <p>.64</p>	<p>◎ 弦楽器</p> <p>弦楽器（独奏曲） 弦鳴楽器 撥弦楽器 旋律楽器（不特定—） リュート属</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>概要</p> <p>767.2 ユーイリニ</p> <p>.3 ユーイラ</p> <p>.4 チェロ</p> <p>.5 ユーイラハース</p> <p>.6 その他の撥奏弦楽器 ユーイラ</p> <p>.7 摘奏弦楽器</p> <p>.8 摘奏リュート属</p> <p>.9 ユーイラおよび楽弓</p> </div> <p>◎ ユーイリニ</p> <p>ユーイリニ属 ○ ユーイリニ奏者 ユーイリニスト</p> <p>◎ ユーイラ</p> <p>◎ チェロ</p> <p>○ チェロ奏者 チェリスト</p> <p>◎ ユーイラハース</p> <p>ハース コントラバス</p> <p>◎ 撥奏弦楽器（その他の—）</p> <p>アルペジオオーネ グイオル ガトカカ サランギ ムルタンゲル・フィドル ラハープ グロース(?) ペナ(?)</p> <p>◎ デュスタン・グイオル</p> <p>◎ トアラ・グイオル</p> <p>◎ テナー・グイオル</p>																		
<p>{ } = ファセット要素/網掛け部分を結合する 網掛けされている音楽細目は、内容が標準細目と共通</p> <p>→ = 見よ ( ) = 注記・補足/観点を示す付加語 → = も見よ [ ] = 使用しない</p>																				
<table border="0"> <tr> <td>◎ 統一語：DDC20の基本標目語の邦訳語</td> <td rowspan="3">} AVMC基本標目語</td> <td>&lt;h&gt;</td> <td>参照語：DDC20の基本標目語</td> </tr> <tr> <td>○ 統一語：DDC20の合成標目語の邦訳語</td> <td></td> <td>(統一語に採用されなかったもの)</td> </tr> <tr> <td>● 統一語：AUMC独自の基本標目語</td> <td>&lt;m&gt;</td> <td>参照語：あるクラスの主要な部分である下位論題</td> </tr> <tr> <td>★ 統一語：AUMCの合成標目語</td> <td></td> <td>&lt;u&gt;</td> <td>参照語：エントリになっている標目語の単一位</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>&lt;v&gt;</td> <td>参照語：別名注記の論題</td> </tr> </table>			◎ 統一語：DDC20の基本標目語の邦訳語	} AVMC基本標目語	<h>	参照語：DDC20の基本標目語	○ 統一語：DDC20の合成標目語の邦訳語		(統一語に採用されなかったもの)	● 統一語：AUMC独自の基本標目語	<m>	参照語：あるクラスの主要な部分である下位論題	★ 統一語：AUMCの合成標目語		<u>	参照語：エントリになっている標目語の単一位			<v>	参照語：別名注記の論題
◎ 統一語：DDC20の基本標目語の邦訳語	} AVMC基本標目語	<h>	参照語：DDC20の基本標目語																	
○ 統一語：DDC20の合成標目語の邦訳語			(統一語に採用されなかったもの)																	
● 統一語：AUMC独自の基本標目語		<m>	参照語：あるクラスの主要な部分である下位論題																	
★ 統一語：AUMCの合成標目語		<u>	参照語：エントリになっている標目語の単一位																	
		<v>	参照語：別名注記の論題																	



統一語と参照語（欧米語形）	注記
<p>Frame-shaped drum</p> <p>&lt;s&gt; Bass drum</p> <p>&lt;s&gt; Tambourine</p> <p>&lt;s&gt; Tambourine</p> <p>&lt;i&gt; Bongo</p> <p>Rattle drum</p> <p>Plucked drum</p> <p>Friction drum</p> <p>&lt;s&gt; Quica</p> <p>&lt;s-syn&gt; Raguette</p> <p>&lt;s&gt; Roemel pot</p> <p>&lt;s&gt; Rommel pot</p> <p>&lt;s&gt; Rommelpot</p> <p>Percussion effects, Device used for</p> <p>&lt;s&gt; Poppun</p> <p>&lt;s&gt; Siren</p> <p>&lt;s&gt; Whip</p> <p>&lt;s&gt; Motor horn</p>	<p>胴の長さが皮面の直径より短いもの ×3 例) 大太鼓、タンバリン</p> <p>複数の小球や吊り下げ物が皮面を打ち鳴らす太鼓 膜の下に弦が結ばれていて、弦を掻き鳴らすことによって 膜に振動が伝わる太鼓 膜を直接摩擦するか、接触した棒や紐が摩擦することで膜 が振動する太鼓 ×3 例) クイカ、ロメルポット</p> <p>×3 例) むち、モーターホーン、サイレン、空気銃</p>
<p>Stringed instrument</p> <p>&lt;i&gt; Stringed instruments (Solo music)</p> <p>&lt;h&gt; Chordophone</p> <p>&lt;m&gt; Bowed stringed instrument</p> <p>Melody instrument, Unspecified</p> <p>Lute family</p> <p>Violin</p> <p>Violin family</p> <p>&lt;i&gt; Violinist</p> <p>&lt;i&gt; Violinist</p> <p>Viola</p> <p>Cello</p> <p>1 &lt;syn&gt; Violoncello</p> <p>2 &lt;i&gt; Violoncellist</p> <p>&lt;i&gt; Violoncellist</p> <p>Double bass</p> <p>&lt;i&gt; Bass</p> <p>Contrabass</p> <p>Bowed stringed instrument, Other</p> <p>&lt;i&gt; Arpeggione</p> <p>&lt;m&gt; Uiol</p> <p>&lt;i&gt; Gadulka</p> <p>&lt;i&gt; Sarangi</p> <p>&lt;i&gt; Hardanger fiddle</p> <p>&lt;i&gt; Rabab</p> <p>&lt;i&gt; Saroz</p> <p>&lt;i&gt; Pena</p> <p>Descant viol</p> <p>Treble viol</p> <p>Tenor viol</p>	<p>01 不特定旋律楽器のための音楽 リュート属（弦が共鳴する胴から頸部へ張られている楽器）に 関する全般的著作はここに分類する 弦鳴鍵盤楽器→766 機械弦鳴楽器→766.67</p> <p>01 ヴァイオリン属に関する全般的著作はここに分類する ヴァイオリン→767.3 チェロ→767.4 ヴァイオラ→767.5</p> <p>ヴァイオラ→767.5</p> <p>ヴァイオラ→767.5</p>
<p>音楽細目使用可のもの 01「ここに分類せよ注記 (Class here ...)」/02「一般的観点注記 (General aspects)」 音楽細目使用・番号組立不可のもの ×1「含む (Including...)」注記/×2「包含 (Contains...)」注記/×3「例 (Examples:)」注記</p> <p>&lt;g&gt; 参照語: 「一般的観点注記」の論題 (全下位区分に適用可の観点)</p> <p>&lt;o&gt; 参照語: 「ここに分類せよ注記」の論題</p> <p>&lt;s&gt; 参照語: 「立ち見席注記」の論題</p> <p>&lt;i&gt; 参照語: DDC28の相関索引の語</p> <p>&lt;d&gt; 参照語: 「定義と範囲の注記」の論題</p> <p>-tla 意訳語 (統一語・参照語が音訳語の場合)</p> <p>-tli 音訳語 (統一語・参照語が意訳語の場合)</p> <p>-sng 単数形の語</p> <p>-plu 複数形の語 (特に必要な場合のみ)</p> <p>-syn 同意語</p> <p>-inv 倒置語</p> <p>-dre 正置語</p>	

ファセット構成法と例	分類番号	統一語と参照語（日本語形）
<p>[構成法] (AUMC番号) + (表8a)            参考：表8aより</p> <p>1a) 演奏会 078 = (760.78)            2a) 関係者 092 = (760.92)            2b) ヲイリスト 767.2092 =                  (767.20) + (760.92)            2c) ヲイリン製作者 767.21092 =                  (767.21) + (764.10) + (760.92)            3a) 演奏技術 143 = (761.43)            3b) 楽器演奏の技術 193 = (764.193)            4a) ヲイ形式 183 = (764.183)</p>	<p>767.65            .66            .69            .7            &gt; 767.72-.75            .72            .73            .74            .75            .78            .8            .82            .83            .84            .85</p>	<p>④ ヲイター・ガフ            ハス・ウ・イール            ④ ヲイターモレ            ④ ハーティ・ハーティ            ウ・イール            ④ 演奏弦楽器            打奏弦鳴楽器            ツィター</p> <p>④ ツィター            ④ 棒ツィター、筒形ツィター、樽状ツィター            樽状ツィター            筒形ツィター            トンベト[?]            ④ 梓ツィター、地面ツィター、ハーフ型ツィター、筏形ツィター            筏形ツィター            カ            地面ツィター            ハーフ型ツィター            ムウエト            シクラン[?]            カハ[?]            ④ 平板ツィター            シンヂル            タムシマー            打奏平板ツィター            ツィンハロム            洋琴            洋琴 [ヤンツァン]            ④ 演奏平板ツィター            アンラチアフ・タルシマー            オートハーフ            エンサート・ツィター            ソールター            琴            琴 [チン]            チロリアン・ツィター            フリルリウム            .78            ④ ライア            グラム[?]            グレス            オブカノ[?]            ベグテンナ[?]            ④ 演奏リュート属            長い棹のリュート            短い棹のリュート            ④ 背面が丸いリュート属            ウート            フロネ            グレム[?]            シター            タンブーラ            ピーナ (琵琶)            クロヌ[?]            .83            ④ リュート            ④ ヲトツィ            ④ 背面が平らなリュート属            クウトラ[?]            クチャット[?]            カンツィ (三弦)            シター</p>

( ) = ファセット要素/網掛け部分を結合する  
 網掛けされている音楽細目は、内容が標準細目と共通  
 → = 見よ ( ) = 注記・補足/観点を示す付加語  
 → = も見よ [ ] = 使用しない

- |  |  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 統一語：DDC20の基本標目語の邦訳語</li> <li>○ 統一語：DDC20の合成標目語の邦訳語</li> <li>● 統一語：AUMC独自の基本標目語</li> <li>★ 統一語：AUMCの合成標目語</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;h&gt; 参照語：DDC20の基本標目語<br/>(統一語に採用されなかったもの)</li> <li>&lt;m&gt; 参照語：あるクラスの主要な部分である下位論題</li> <li>&lt;u&gt; 参照語：エントリになっている標目語の単一位</li> <li>&lt;v&gt; 参照語：別名注記の論題</li> </ul> |
|--|--|

統一語と参照語（欧米語形）	注記
<p>Viola da gamba                      &lt;h&gt; Bass viol                      Viola d'amore                      Hurdy-gurdy                      &lt;h&gt; Vielle                      Plectral instrument                      Struck stringed instrument                      Zither                      Zither                      Stick, tube, trough zither                      &lt;u&gt; Trough zither                      &lt;u&gt; Tube zither                      &lt;i&gt; Totombito                      Frame, ground, harp, raft zither                      &lt;u&gt; Raft zither                      &lt;i&gt; Kani                      &lt;u&gt; Ground zither                      &lt;u&gt; Harp zither                      &lt;i&gt; Mvet                      &lt;i&gt; Nkraton                      &lt;i&gt; Oba                      Board zither                      &lt;s&gt; Santir                      &lt;s&gt; Dulcimer                      Struck board zither                      &lt;s&gt; Cimbalom                      &lt;s&gt; Yokin                      &lt;s&gt; Yang ch'in                      Plucked board zither                      &lt;s&gt; Appalachian dulcimer                      &lt;s&gt; Autoharp                      &lt;s&gt; Concert zither                      &lt;s&gt; Psaltery (English)                      Kin                      &lt;i&gt; Ch'in                      &lt;s&gt; Tyrolean zither                      &lt;s&gt; Psalterium (Latin)                      Lyre                      &lt;i&gt; Kerar                      &lt;i&gt; Crwth                      &lt;i&gt; Obukano                      &lt;i&gt; Begana                      Plectral lute family                      Long-necked lute                      Short-necked lute                      Round-backed lute family                      &lt;i&gt; Oud                      &lt;i&gt; Chitarrone                      &lt;i&gt; Gurumi                      &lt;s&gt; Sitar                      &lt;s&gt; Tambura                      &lt;i&gt; P'i p'a                      &lt;i&gt; Keroune                      Lute                      Mandolin                      Flat-backed lute family                      &lt;i&gt; Kuitra                      &lt;i&gt; Ketjapi                      &lt;i&gt; San hsien                      &lt;s&gt; Cittern</p>	<p>01 ツター、打奏弦鳴楽器に関する全般的著作はここに分類する                      撥奏リュート属→767.8                      ハープおよび楽弓→767.9                      全般的著作→767.7</p> <p>※ 例) ツインバロー、ダムルマ、サンティル、洋琴                      01 打奏平板ツターはここに分類する                      撥奏平板ツター→767.75</p> <p>※ 例) フラチアン・ダムルマ、オートハープ、コンサート・ツター、ツールター（フサルテリウム）、フロリアン・ツター</p> <p>01 長い棹のリュート、短い棹のリュートはここに分類する</p> <p>※ 例) シタル、タンブーラ                      リュート→767.83                      マンドリン→767.84</p> <p>※ 例) 琵琶、シタフ                      ピウイラ→767.86                      キター→767.87                      ハンジョー→767.88                      三味線→769.783</p>

音楽細目使用可のもの 01「ここに分類せよ注記 (Class here ...)」/02「一般的観点注記 (General aspects)」  
 音楽細目使用・番号組立不可のもの ※1「含む (Including...)」注記/※2「包含 (Contains...)」注記/※3「例 (Examples:)」注記

<g> 参照語: 「一般的観点注記」の論題 (全下位区分に適用可の観点)	<d> 参照語: 「定義と範囲の注記」の論題	-syn 同意語
<c> 参照語: 「ここに分類せよ注記」の論題	-tla 意訳語 (統一語・参照語が音訳語の場合)	-inv 倒置語
<s> 参照語: 「立ち見席注記」の論題	-tli 音訳語 (統一語・参照語が意訳語の場合)	-dro 正置語
<i> 参照語: DDC20の相関索引の語	-sng 単数形の語	
	-plu 複数形の語 (特に必要な場合のみ)	

ファセット構成法と例	分類番号	統一語と参照語(日本語形)
<p>[構成法] (AUMC番号) + (表8a) 参考: 表8aより</p> <p>1a) 演奏会 078 = {760.078}</p> <p>2a) 関係者 092 = {760.092}</p> <p>2b) クワイヤリスト 767.2092 = {767.2092} + {760.092}</p> <p>2c) クワイヤリスト製作者 767.21092 = {767.2092} + {764.1092} + {760.092}</p> <p>3a) 演奏技術 143 = {764.143}</p> <p>3b) 楽器演奏の技術 193 = {764.193}</p> <p>4a) ソナ形式 183 = {764.183}</p>	<p>767.85(Cont.)</p> <p>.86</p> <p>.87</p> <p>.87092</p> <p>.875</p> <p>.88</p> <p>.89</p> <p>.9</p> <p>.9092</p> <p>.92</p> <p>.93</p> <p>&gt; 767.94-.98</p> <p>.94</p> <p>.95</p> <p>.98</p>	<p>トンプラ アスキ 琵琶</p> <p>①ヒウラ ①キター ○キター奏者 キタリスト</p> <p>①ハラバ ①ハツジョー ○ハツジョー奏者</p> <p>①ウレル</p> <p>①ハフ および楽弓 楽弓 ○ハフ奏者</p> <p>①楽弓 カラウク ジキウキ スズ[?] ウビ[?] ホトウゴ[?]</p> <p>①アリアク 複弦楽弓</p> <p>①ハフ ①弓形ハフ および角形ハフ 角形ハフ 弓形ハフ ウジエ[?]</p> <p>①梓ハフ アイリッシュハフ オーケストラハフ ケトハフ</p> <p>①ハフ・リュート コラ ア・リッジハフ</p>
	<p>768</p> <p>.1923</p> <p>.2</p> <p>.21923</p> <p>.29</p>	<p>①管楽器 管楽器(独奏曲) 気鳴楽器 ○管楽器(製作)</p> <div data-bbox="969 1288 1376 1537" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>概要</p> <p>768.2 木管楽器および自由気鳴楽器</p> <p>.3 フルート属</p> <p>.4 リート楽器</p> <p>.5 二重リート楽器</p> <p>.6 単一リート楽器</p> <p>.7 サクソフォン</p> <p>.8 フリーリート楽器</p> <p>.9 金管楽器(リップ・リート楽器)</p> </div> <p>①木管楽器および自由気鳴楽器 自由気鳴楽器 木管楽器(独奏曲) ○木管楽器(製作)</p> <p>①自由気鳴楽器 フ・1075-</p>

( ) = ファセット要素/網掛け部分を結合する  
網掛けされている音楽細目は、内容が標準細目と共通

→ = 見よ ( ) = 注記・補足/観点を示す付加語  
→ = も見よ [ ] = 使用しない

- |   |  |
|---|--|
| <p>◎ 統一語: DDC20の基本標目語の邦訳語</p> <p>○ 統一語: DDC20の合成標目語の邦訳語</p> <p>● 統一語: AUMC独自の基本標目語</p> <p>★ 統一語: AUMCの合成標目語</p> | <p>&lt;h&gt; 参照語: DDC20の基本標目語<br/>(統一語に採用されなかったもの)</p> <p>&lt;m&gt; 参照語: あるクラスの主要な部分である下位論題</p> <p>&lt;u&gt; 参照語: エントになっている標目語の一単位</p> <p>&lt;v&gt; 参照語: 別名注記の論題</p> |
|---|--|

統一語と参照語（欧米語形）	注記
<i> Dombra <i> Bouzouki <s> Biwa Uihuela Guitar <i> Guitarist <i> Guitarist  Balalaika Banjo <i> Banjoist Ukulele Harp and musical bow <u> Musical bow <i> Harpist Musical bow <i> Kalangu <i> Jigi-jigi <i> Zuzu <i> Wambi <i> Bodongo Pluriarc <i> Compound musical bow  Harp Bow harp and angle harp Angle harp Arched harp Wuj Frame harp Irish harp Orchestral harp Celtic harp Harp-lute Kora Bridge harp	ウクレレ→767.89  ひとつの弓に1本以上の弦を張った弦楽器 プリリア→767.93  複数の弓に弦を張った弦楽器  全般的著作→767.9 形状が曲頸で共鳴器つきのハープ  支柱が頸の端から共鳴器に連結しているハープ *例) オケストラ・ハープ、ウルト・ハープ  弦が駒を通して胴と垂直になっているリュート形のハープ *例) コラ
Wind instrument <i> Wind instrument (Solo music) <h> Aerophone <i> Wind instrument (Construction)            Woodwind instrument and free aerophone <u> Free aerophone <i> Woodwind instrument (Solo music) <i> Woodwind instrument (Construction)  Free aerophone <i> Bull-roarer	鍵盤管楽器→766.5 機械管楽器→766.68                      個々の木管楽器→768.3-768.8     空気が窪みや管へ導かれるのではなく、直接外気に出るかまたは空気が止まったままで楽器の方が動いて空気を振動させる気鳴楽器 *例) プリリア 打楽器的效果のために用いる気鳴楽器 →766.99
音楽細目使用可のもの O1「ここに分類せよ注記 (Class here ...)」/O2「一般的観点注記 (General aspects)」 音楽細目使用・番号組立不可のもの *1「含む (Including...)」注記/*2「包含 (Contains...)」注記/*3「例 (Examples:)」注記	
<g> 参照語: 「一般的観点注記」の論題 (全下位区分に適用可の観点) <sc> 参照語: 「ここに分類せよ注記」の論題 <ss> 参照語: 「立ち見席注記」の論題 <i> 参照語: DDC28の相関索引の語	<d> 参照語: 「定義と範囲の注記」の論題 -t1a 意訳語 (統一語・参照語が音訳語の場合) -t1i 音訳語 (統一語・参照語が意訳語の場合) -sng 単数形の語 -plu 複数形の語 (特に必要な場合のみ)
	-syn 同意語 -inv 倒置語 -drc 正置語

ファセット構成法と例	分類番号	統一語と参照語（日本語形）
<p>[構成法] (AUMC番号) + (表8a)</p> <p>参考：表8aより</p> <p>1a) 演奏会 078 = {760.78}</p> <p>2a) 関係者 092 = {760.92}</p> <p>2b) ヴァイオリニスト 767.2092 = {760.92} + {760.92}</p> <p>2c) ヴァイオリン製作者 767.21092 = {760.92} + {764.19} + {760.92}</p> <p>3a) 演奏技術 143 = {761.43}</p> <p>3b) 楽器演奏の技術 193 = {764.193}</p> <p>4a) ソナ形式 183 = {764.183}</p>	<p>&gt; 768.3-.8</p> <p>.3</p> <p>.32</p> <p>.32092</p> <p>.33</p> <p>.34</p> <p>.35</p> <p>.36</p> <p>.363</p> <p>.364</p> <p>.365</p> <p>.366</p> <p>.367</p> <p>.37</p> <p>.38</p> <p>.4</p> <p>.49</p> <p>.5</p> <p>.52</p>	<p>①木管楽器（個々の---）</p> <p>①フルト属</p> <p>フルト</p> <p>②フルト</p> <p>横吹きフルト</p> <p>○フルト奏者</p> <p>②ピッコおよびファイフ</p> <p>ファイフ</p> <p>横笛</p> <p>③ハースフルト</p> <p>③縦吹フルト、縦吹きフルト、切り込みつきフルト</p> <p>切り込みつきフルト</p> <p>ケーナ</p> <p>スリク</p> <p>縦吹きフルト</p> <p>ナイ</p> <p>フラジオレット</p> <p>フラジオレット</p> <p>ハニートンネル</p> <p>④リコーダー</p> <p>④ソプラノ・リコーダー</p> <p>④テサキント・リコーダー</p> <p>ソプラノ・リコーダー</p> <p>④トランペット・リコーダー</p> <p>フルト・リコーダー</p> <p>④テナー・リコーダー</p> <p>④ハース・リコーダー</p> <p>⑤複管フルト</p> <p>フルトガ</p> <p>トウグイニツエ</p> <p>ナイ</p> <p>ハフ・ハース</p> <p>ハフ・ハース</p> <p>⑥容器フルト</p> <p>オカリナ</p> <p>ソングル(?)</p> <p>ソフ(?)</p> <p>⑥リット楽器</p> <p>⑥ハックハース</p> <p>&lt;syn&gt;ハックハース</p> <p>ウレフ・ハース</p> <p>ガース</p> <p>コルニス</p> <p>コルニス</p> <p>ソングル・ハックハース</p> <p>ソフ・ハックハース</p> <p>トルム</p> <p>ノフ・ライフ・ハース</p> <p>エオン・ハース</p> <p>⑥タフルット楽器</p> <p>フルム</p> <p>フルム</p> <p>⑥オーボエ</p> <p>ショム</p> <p>スナイ</p> <p>ハックフルト</p> <p>フルム(?)</p>

{ } = ファセット要素/網掛け部分を結合する  
 網掛けされている音楽細目は、内容が標準細目と共通  
 → = 見よ ( ) = 注記・補足/観点を示す付加語  
 → = も見よ [ ] = 使用しない

- ◎ 統一語：DDC20の基本標目語の邦訳語
  - 統一語：DDC20の合成標目語の邦訳語
  - 統一語：AUMC独自の基本標目語
  - ★ 統一語：AUMCの合成標目語
- AUMC基本標目語
- <h> 参照語：DDC20の基本標目語 (統一語に採用されなかったもの)
  - <m> 参照語：あるクラスの主要な部分である下位論題
  - <u> 参照語：1ユニットになっている標目語の一単位
  - <v> 参照語：別名注記の論題

統一語と参照語（欧米語形）	注記
1: Woodwind instrument, Specific 2: Flute family Nose flute Flute <h> Side-blown flute <h> Transverse flute <i> Flutist	全般的著作→768.2 鼻フルートはここに分類する ピッコロおよびファイフ（横笛）→768.33 ハースフルート→768.34 竜笛→769
Piccolo and fife <u> Fife <u> Fife Bass flute Duct, end-blown, notched flute <u> Notched flute <s> Quena <i> Suling <u> End-blown flute <i> Nay <s> Flageolet <s> Flageolet <s> Penny whistle Recorder (Musical instrument) Sopranino recorder Descant recorder <h> Soprano recorder Treble recorder <h> Alto recorder Tenor recorder Bass recorder Multiple flute	*3 例) フラジオレット、ヘーニー・ホイッスル リコーダー→768.36を見よ 尺八→769.8331
<i> Alboka <i> Dvoynice <i> Nai <m> Pan pipes <syn> Panpipes Vessel flute <s> Ocarina <i> Nguru <i> Shiwaya Reed instrument	複数のフルートがひとつの楽器としてまとめられたもの  *3 例) オカリナ
Bagpipe Bagpipe <s> Uilleann pipe <i> Gaita <s> Cornemuse <s> Cornemuse Single-reed bagpipe Double-reed bagpipe <i> Tulum <s> Northumbrian pipe <s> Union pipe Double-reed instrument <s> Crumhorn <s> Rackett Oboe <i> Shawm <i> Surunai <i> Heckelphone <i> Jyeling	タブレット楽器→768.5 ショックレット楽器→768.6 フリーレット楽器→768.8 *3 例) コルム・ガ、ノースアライアン、ウレアン（エオン）パイプ O1 ショックレットおよびタブレットのバックパイプはここに分類する  *3 例) クルムホルン、ラケット バックパイプ→768.49

音楽細目使用可のもの O1「ここに分類せよ注記（Class here ...）」/O2「一般的観点注記（General aspects）」  
 音楽細目使用・番号組立不可のもの \*1「含む（Including...）」注記/\*2「包含（Contains...）」注記/\*3「例（Examples:）」注記

- |  |                          |          |
|--|--------------------------|----------|
| <g> 参照語：「一般的観点注記」の論題<br>（全下位区分に適用可の観点） | <d> 参照語：「定義と範囲の注記」の論題    | -syn 同意語 |
| <o> 参照語：「ここに分類せよ注記」の論題                 | -t1a 意訳語（統一語・参照語が音訳語の場合） | -inv 倒置語 |
| <s> 参照語：「立ち見席注記」の論題                    | -t1i 音訳語（統一語・参照語が意訳語の場合） | -drc 正置語 |
| <i> 参照語：DDC20の関連索引の語                   | -eng 単数形の語               |          |
|  | -plu 複数形の語（特に必要な場合のみ）    |          |

ファセット構成法と例	分類番号	統一語と参照語(日本語形)
<p>[構成法] (AUMC番号) + (表8a) 参考: 表8aより</p> <p>1a) 演奏会 078 = {760.78}</p> <p>2a) 関係者 092 = {760.92}</p> <p>2b) ヴァイオリスト 767.2092 = {767.2} + {760.92}</p> <p>2c) ヴァイオリン製作者 767.21092 = {767.2} + {764.109} + {760.92}</p> <p>3a) 演奏技術 143 = {761.43}</p> <p>3b) 楽器演奏の技術 193 = {764.193}</p> <p>4a) ソナ形式 183 = {764.183}</p>	<p>768.53</p> <p>.58</p> <p>.59</p> <p>.6</p> <p>.62</p> <p>.62092</p> <p>.65</p> <p>.7</p> <p>.7092</p> <p>.72</p> <p>.73</p> <p>.74</p> <p>.75</p> <p>.8</p> <p>.82</p> <p>.84</p> <p>.86</p> <p>.863</p> <p>.865</p> <p>.9</p> <p>.92</p> <p>.92092</p> <p>.93</p> <p>.93092</p> <p>.94</p> <p>.94092</p> <p>.95</p> <p>.96</p> <p>.96092</p> <p>.97</p> <p>.974</p> <p>.975</p>	<p>① イングリッシュ・ホルン ユーラングレ ユー・アングレ ホルン (イングリッシュユー)</p> <p>② ハースン トールファン</p> <p>③ ダブル・ハースン コントラハースン</p> <p>④ シンゲル・リット楽器</p> <p>⑤ クラリネット ムリ(?) ○クラリネット奏者</p> <p>⑥ ハース・クラリネット</p> <p>⑦ サクソフォン ○サクソフォン奏者</p> <p>⑧ ソプラノ・サクソフォン</p> <p>⑨ アルト・サクソフォン</p> <p>⑩ テナー・サクソフォン</p> <p>⑪ バス・サクソフォン</p> <p>⑫ フリー・リット楽器</p> <p>⑬ オース・オルガン □オルガン 笙 [シヨフ] ハーモニカ</p> <p>⑭ コーディオン ハントネオン</p> <p>⑮ アコーディオン ⑯ マタン・アコーディオン マタン</p> <p>⑰ ピアノ・アコーディオン</p> <p>⑱ 金管楽器 金管楽器 (独奏曲) リップ・リット楽器</p> <p>⑲ トランペット アルパホルン アルフホルン ○トランペット奏者</p> <p>⑳ トロンボーン ○トロンボーン奏者</p> <p>㉑ ホルン フレンチホルン ホルン (フレンチユー)</p> <p>○ホルン奏者</p> <p>㉒ ビューグホルン</p> <p>㉓ コルネット ○コルネット奏者</p> <p>㉔ フリュゲルホルン サクソルン</p> <p>㉕ テナーホルン E♭管ホルン B♭管ホルン ハルトン (イギリスとドイツにおけるB♭管ホルンの呼び名)</p> <p>㉖ 1-フォニアおよびハルトン (アメリカ) &lt;syn&gt;1-フォニア ハルトン (アメリカとフランスにおけるE♭管ホルンの呼び名)</p>

{ } = ファセット要素/網掛け部分を結合する  
網掛けされている音楽細目は、内容が標準細目と共通

→ = 見よ ( ) = 注記・補足/観点を示す付加語  
⇒ = も見よ [ ] = 使用しない

- ◎ 統一語: DDC20の基本標目語の邦訳語
  - 統一語: DDC20の合成標目語の邦訳語
  - 統一語: AUMC独自の基本標目語
  - ★ 統一語: AUMCの合成標目語
- AUMC基本標目語
- <h> 参照語: DDC20の基本標目語 (統一語に採用されなかったもの)
  - <m> 参照語: あるクラスの主要な部分である下位論題
  - <u> 参照語: エントリになっている標目語の単一位
  - <v> 参照語: 別名注記の論題



統一語と参照語 (欧米語形)	注記
<p>English horn            &lt;i&gt; Cor anglais            &lt;i&gt; Cor anglais            &lt;inv&gt; Horn, English            Bassoon            &lt;i&gt; Dulcian            Double bassoon            &lt;i&gt; Contrabassoon            Single-reed instrument</p> <p>Clarinet            &lt;i&gt; Murlí            &lt;i&gt; Clarinetist            Bass clarinet            Saxophone            &lt;i&gt; Saxophonist            Soprano saxophone            Alto saxophone            Tenor saxophone            Bass saxophone            Free reed            Mouth organ            Mouth organ</p> <p>&lt;s&gt; Sheng            &lt;m&gt; Harmonica (Mouth organ)            Concertina            &lt;s&gt; Bandoneon            Accordion            Button accordion            &lt;m&gt; Melodeon            Piano accordion            Brass instrument            &lt;i&gt; Brass instrument (Solo music)            &lt;h&gt; Lip-reed instruments            Trumpet</p> <p>&lt;i-syn&gt; Alpenhorn            &lt;i&gt; Alphorn            &lt;i&gt; Trumpeter (Musician)            Trombone            &lt;i&gt; Trombonist            Horn            &lt;h&gt; French horn            &lt;h-inv&gt; Horn, French            &lt;i&gt; Horn player            Bugle            Cornet            &lt;i&gt; Cornetist            Flugelhorn            &lt;h&gt; Saxhorn            Tenor horn            &lt;s&gt; E-flat horn            &lt;s&gt; B-flat horn            &lt;s&gt; Baritone (British and German b-flat horn)</p> <p>Euphonium and baritone (American)            Euphonium            &lt;u&gt; Baritone (American and French E-flat horn)</p>	<p>ダブ・ル・アン・スーン→768.59</p> <p>ハ・ク・ン・イフ→768.49            サクソフォン→768.7            ハ・ス・クラリネット→768.65</p> <p>個々のフリー・リードの組合わせからなる楽器            ×3 例) 笙            ×3 例) 笙</p> <p>×3 例) ハンツォン</p> <p>イングリッシュ・ホルン→768.53</p> <p>×3 例) B♭管ホルン (イギリスやドイツではハ・リオンとも呼ばれる)            E♭管ホルン (北アメリカやフランスではアル・ホルンとも呼ばれる)</p>

音楽細目使用可のもの

Q1「ここに分類せよ注記 (Class here ...)」/Q2「一般的観点注記 (General aspects)」

音楽細目使用・番号組立不可のもの ×1「含む (Including... ) 注記」/×2「包含 (Contains... ) 注記」/×3「例 (Examples:) 注記」

<g> 参照語: 「一般的観点注記」の論題 (全下位区分に適用可の観点)	<d> 参照語: 「定義と範囲の注記」の論題	-syn 同意語
<c> 参照語: 「ここに分類せよ注記」の論題	-tia 意訳語 (統一語・参照語が音訳語の場合)	-inv 倒置語
<s> 参照語: 「立ち見席注記」の論題	-tii 音訳語 (統一語・参照語が意訳語の場合)	-drc 正置語
<i> 参照語: DDC2Bの相関索引の語	-sng 単数形の語	
	-plu 複数形の語 (特に必要な場合のみ)	

ファセット構成法と例	分類番号	統一語と参照語（日本語形）
【構成法】（AUMC標準） + （表8a）	768.98          .99	① チューバ ヴァークナートゥーバ スーザフォン ワークナーチューバ ② その他の金管楽器 オフィクレイト コルネット セルパン（楽器） ツィンク
[ ] = ファセット要素／網掛け部分を結合する 網掛けされている音楽細目は、内容が標準細目と共通 → = 見よ ( ) = 注記・補足／観点を示す付加語 → = も見よ [ ] = 使用しない		
◎ 統一語：DDC20の基本標目語の邦訳語 ○ 統一語：DDC20の合成標目語の邦訳語 ● 統一語：AUMC独自の基本標目語 ★ 統一語：AUMCの合成標目語	} AVMC基本標目語	<h> 参照語：DDC20の基本標目語 （統一語に採用されなかったもの） <m> 参照語：あるクラスの主要な部分である下位論題 <u> 参照語：1ユニットになっている標目語の一単位 <v> 参照語：別名注記の論題

統一語と参照語（欧米語形）	注記
Tuba <i> Wagner tuba <i> Sousaphone <i> Wagner tuba Brass instruments, Other <s> Ophicleide <s> Cornett <s> Serpent (Musical instrument) <s> Cornett	※ 例) ツィンク、オフィクレイド、セルパソ

音楽細目使用可のもの ○1「ここに分類せよ注記 (Class here ...)」/○2「一般的観点注記 (General aspects)」  
 音楽細目使用・番号組立不可のもの ※1「含む (Including... ) 注記」/※2「包含 (Contains... ) 注記」/※3「例 (Examples: ) 注記」

<g> 参照語：「一般的観点注記」の論題 （全下位区分に適用可の観点）	<d> 参照語：「定義と範囲の注記」の論題	-syn 同意語
<c> 参照語：「ここに分類せよ注記」の論題	-tla 意訳語（統一語・参照語が音訳語の場合）	-inv 倒置語
<s> 参照語：「立ち見席注記」の論題	-tli 音訳語（統一語・参照語が意訳語の場合）	-drc 正置語
<i> 参照語：DDC28の相関索引の語	-sng 単数形の語	
	-plu 複数形の語（特に必要な場合のみ）	

《資料3》

音標符号付ローマ字／特殊アルファベット仮表示付加コード表

(1) 音標符号付ローマ字

○…大文字・小文字の両方に使用   ▽…大文字に使用   △…小文字に使用

表示形	コード	対応するローマ字 名称	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z
			/a	/b	/c	/d	/e	/f	/g	/h	/i	/j	/k	/l	/m	/n	/o	/p	/q	/r	/s	/t	/u	/v	/w	/x	/y	/z
ˆ	00	疑似クエスチョン	○				○				○						○						○				○	
˘	01	グレーブ(低アクセント)	○				○				○					○	○				○		○				○	
˙	02	アキュート	○		○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○
ˆ	03	サーカムフレクス(曲折アクセント)	○		○		○		○	○	○	○				○	○				○		○		○		○	
˜	04	チルド(波形符)	○		○		○				○					○	○		○	○	○		○		○		○	○
ˉ	05	マクロン(長音符)	○		○	○	○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○	○
◌̣	06	ブリーブ(短音符)	○		○		○		○		○				○		○						○				○	○
◌̇	07	上部ドット	○	○	○	○	○	○	○	○	▽		○	○	○	○	○	○		○	○	○	○		○		○	○
◌̈́	08	ウムラウト(ダイエレシス)	○		○		○		○		○	○					○				○	○		○	○		○	○
◌̈́	09	ハチェック(発音区分符)	○		○	○	○		○		○	○		○		○	○			○	○	○	○					○
◌̊	10	上部サークル(ワグストロム)	○				○		○				○							○	○		○				○	
◌̌	11	第1リガーチュア(連結符)				○			○		○	○				○	○	○				○						○
◌̎	12	第2リガーチュア(連結符)	○				○		○	○						○	○				○	○	○					○
◌̍	13	右上コンマ				○			○				○	○									○					
◌̏	14	ダブルアキュート	○														○						○					
◌̐	15	Candrabindu	○							○	○				○	○	○						○					
◌̑	16	セディラ			○		○		○					○		○						○						
◌̒	17	右フック	○				○		○	○						○						○	○	○				
◌̓	18	下部ドット	○	○		○	○		○	○		○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○		○	○	○
◌̔	19	下部ダブルドット		○		○			○					○								○	○					○
◌̕	20	下部サークル											○	○	○					○	○	○						
◌̖	21	二重下線							○	○																		
◌̗	22	下線	○	○	○	○			○	○	○		○	○		○	○			○	○	○	○					○
◌̘	23	左フック(末尾)	○		○	○	○		○		○		○	○		○				○	○	○						
◌̙	24	右セディラ															○											
◌̚	25	Upadhmaniya								○																		
◌̛	26	第1ダブルチルド														○												
◌̜	27	第2ダブルチルド							○																			
◌̝	28	上部中央コンマ							○																○			

(2)二重音標符号付ローマ字／(3)特殊アルファベット／(4)音標符号付特殊アルファベット…省略

————— 禁無断転載 —————

平成 5 年 3 月発行

発行 財団法人 データベース振興センター  
東京都港区浜松町二丁目4番1号  
世界貿易センタービル7階  
TEL 03-3459-8581

委託先 株式会社 ダイソメディアサービス  
東京都杉並区宮前2-13-27  
TEL 03-3331-7751

印刷所 株式会社 ダイソクリエイト  
東京都千代田区一番町6-1



